

PTA の組織についてのアンケート報告書

新潟県小中学校 PTA 連合会
組織検討委員会

はじめに

PTA という組織が誕生してから長い月日がたち、世の中の情勢が刻々と変化している中で、PTA でも組織上の問題点が数多く顕在化してきております。このような状況の中で、県内の PTA 組織の現状の把握と、取組や改善事例などを共有し、より時代に即した PTA への道筋を考えていく必要があると感じ今回のアンケートを実施いたしました。昨今のコロナ禍で、PTA 組織や活動の意義が問い直されている今だからこそ、このアンケートの結果は皆様の PTA にとって何らかのお役に立てるものではないかと思っております。

新潟県小中学校 PTA 連合会

会 長 太田一已

組織検討委員長 大谷和弘

アンケートの概要

1、 実施期間

2021年11月10日～12月10日

2、 実施方法

- ① Googleform による Web による回答
- ② メールによる回答
- ③ FAX（事務局行）による回答

3、 アンケート集計方法

Googleform に集約して集計

4、 回答数

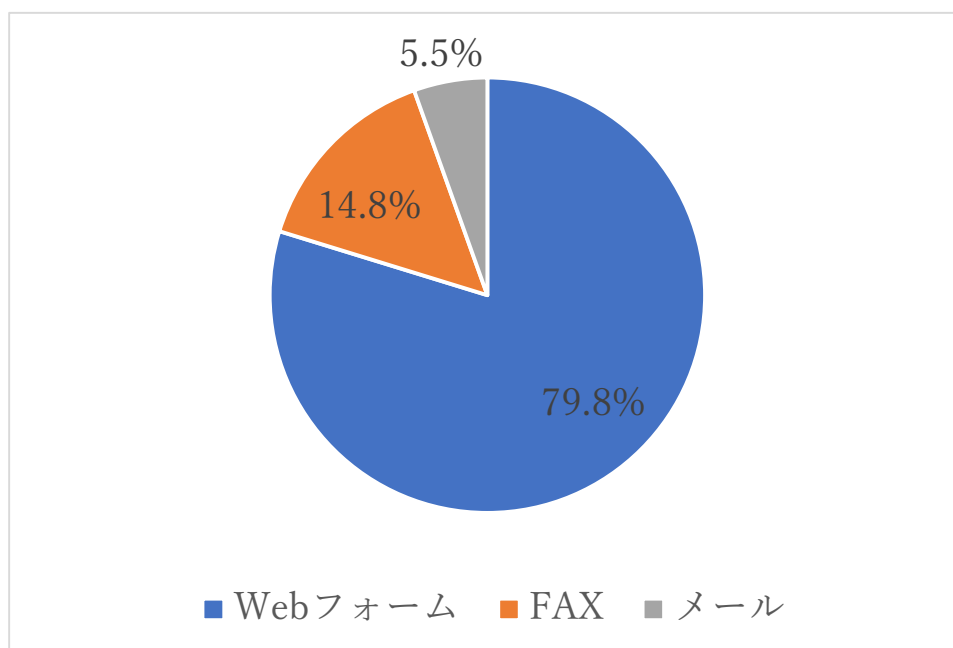
新潟県 P 連所属 507 校

回答数 420 校

回答率 82.8%

5、 回答方法集計

	回答数	割合
Web フォーム	335	79.8%
FAX	62	14.8%
メール	23	5.5%



集計のための規模わけ

個別集計の必要性のため、便宜的に下記のように学校の規模わけをしております。

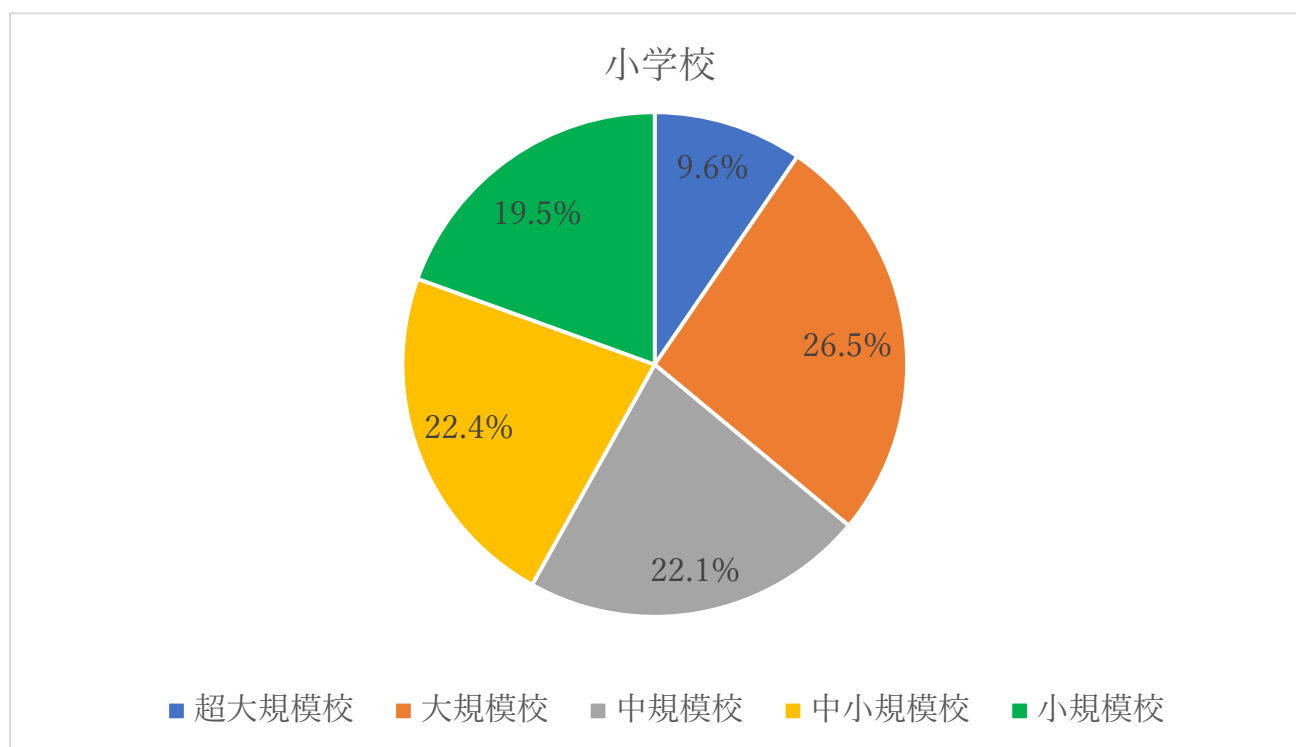
(人数)

	超大規模校	大規模校	中規模校	中小規模校	小規模校
中学	316～	315～211	210～106	105～61	～60
小学	631～	630～421	420～211	210～121	～120

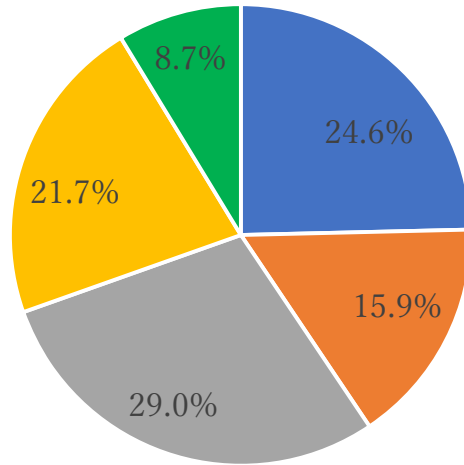
* 特別支援学校及び小中一貫校に関しては中学校の分割のルールで規模わけをしております

1、回答校全体の概要

	超大規模校	大規模校	中規模校	中小規模校	小規模校	合計
小学校	26	72	60	61	53	272
中学校	34	22	40	30	12	138
小中学校	0	0	0	0	5	5
特別支援学校	0	0	0	2	3	5
合計	60	94	100	93	73	420

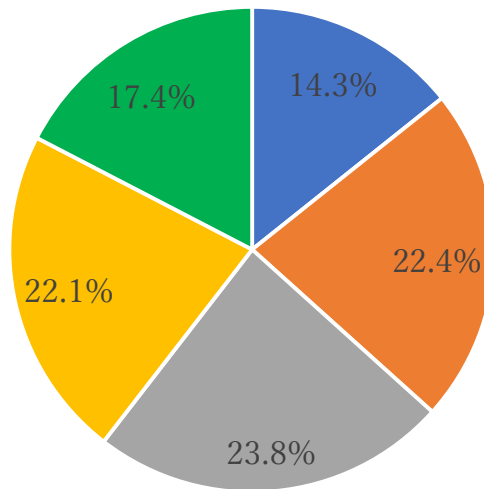


中学校



■ 超大規模校 ■ 大規模校 ■ 中規模校 ■ 中小規模校 ■ 小規模校

全体



■ 超大規模校 ■ 大規模校 ■ 中規模校 ■ 中小規模校 ■ 小規模校

対象 507 校の内、420 校から回答があり、回答率は 82.8%であった。

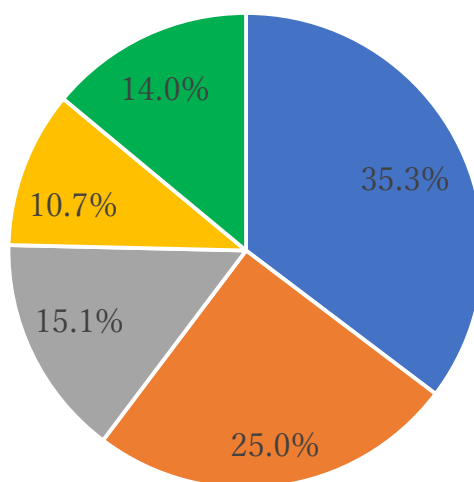
回答学校数の内訳をみると、小学校は超大規模校が一番少なく、中学校は小規模校が一番少ない。対照的な結果となったのは、中学校は複数の小学校出身者が集まることになり、小学校と比較して1校当たりの生徒数が増えることが理由と考えられる。

全体グラフより、中小規模校、中規模校、大規模校が同じ程度の割合を占めていることがわかる。少子化に伴う小学校の再編が進む場合、小規模校の割合がさらに少なくなっていくことが予測される。

2、役員数について

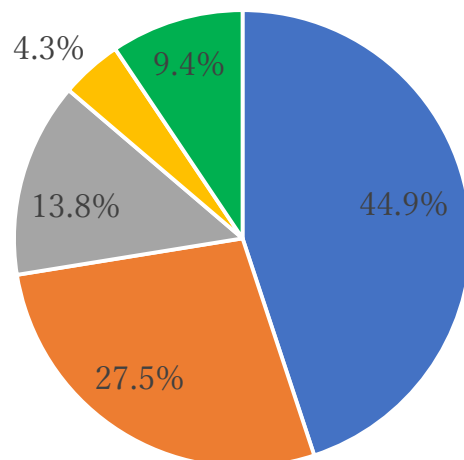
	10～20%	21～30%	31～40%	41～50%	51%以上	合計
小学校	96	68	41	29	38	272
中学校	62	38	19	6	13	138
小中学校	1	1	0	0	3	5
特別支援学校	3	1	0	1	0	5
合計	162	108	60	36	54	420

小学校

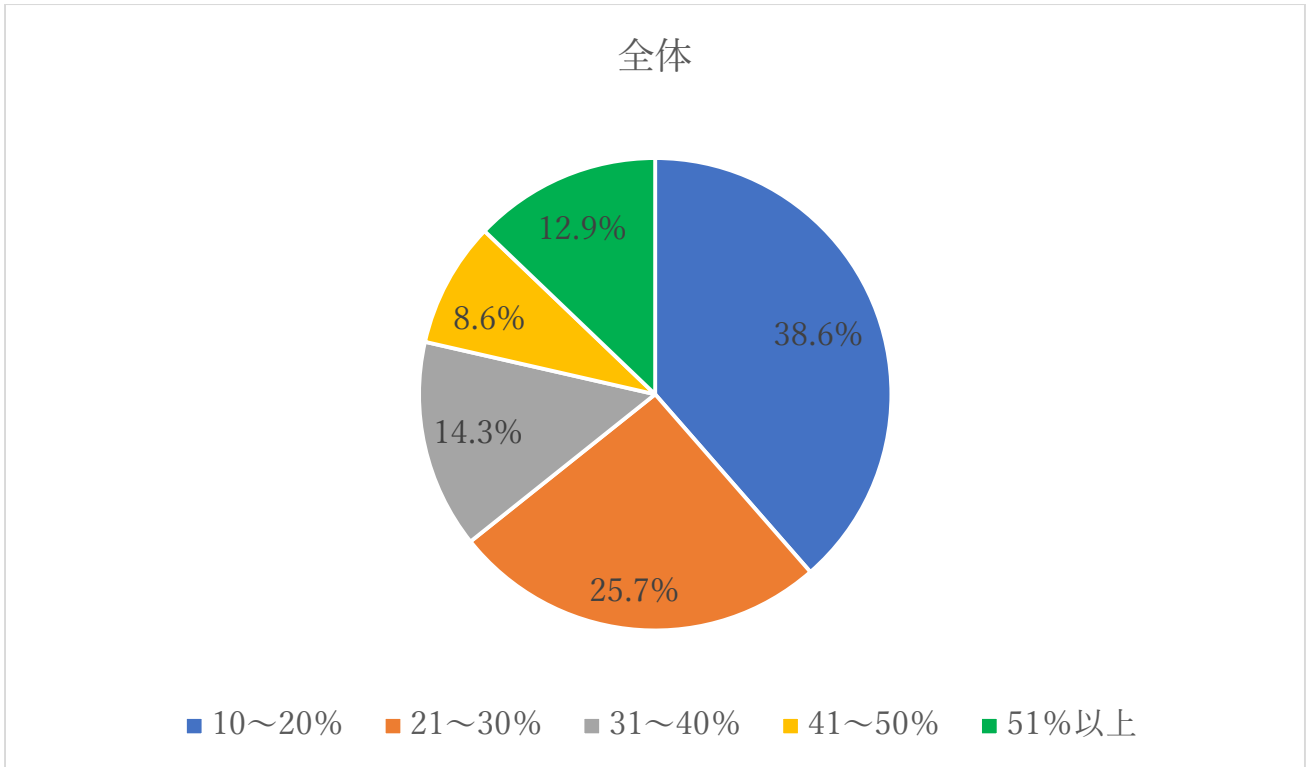


■ 10～20% ■ 21～30% ■ 31～40% ■ 41～50% ■ 51%以上

中学校



■ 10～20% ■ 21～30% ■ 31～40% ■ 41～50% ■ 51%以上



全保護者に対する役員数は、全体グラフより、10~20%の学校が一番多く、21~30%、31~40%、41~50%の順に割合が大きい学校ほど少ない。

一方で、小学校と中学校共に、役員数が51%以上の学校が、41~50%の学校より多いことがわかる（※これについては後述の「3. 役員数分析について」参照）。

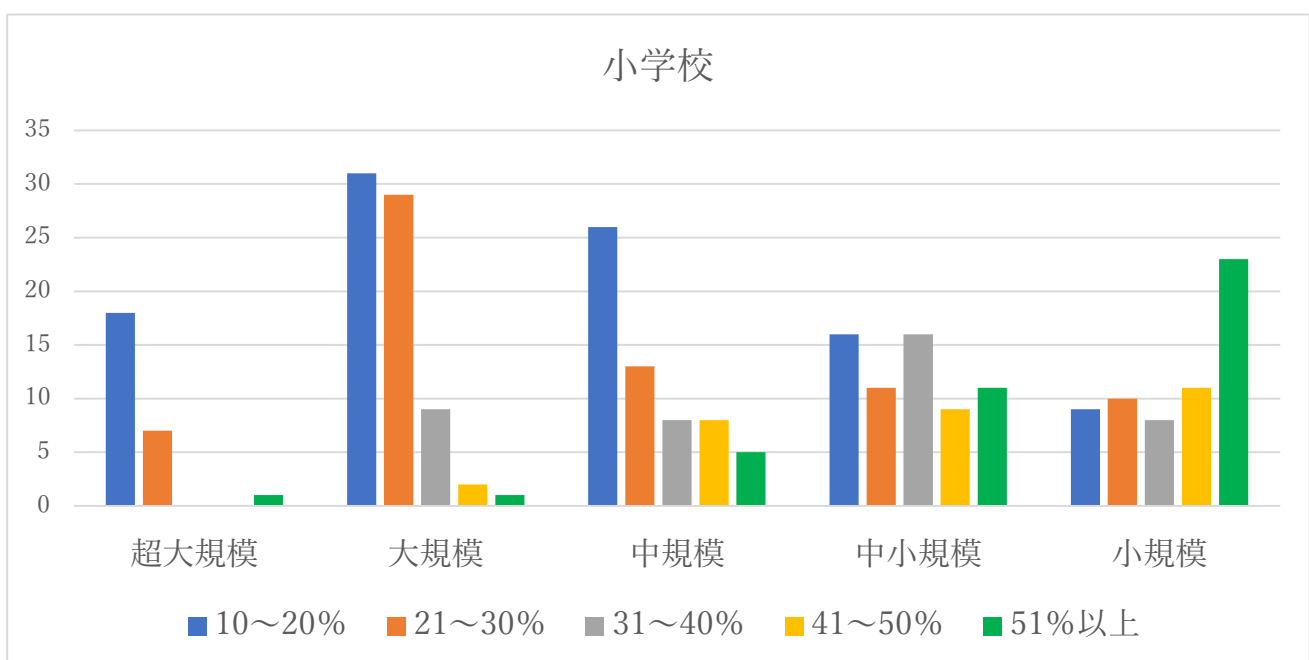
3、役員数分析について

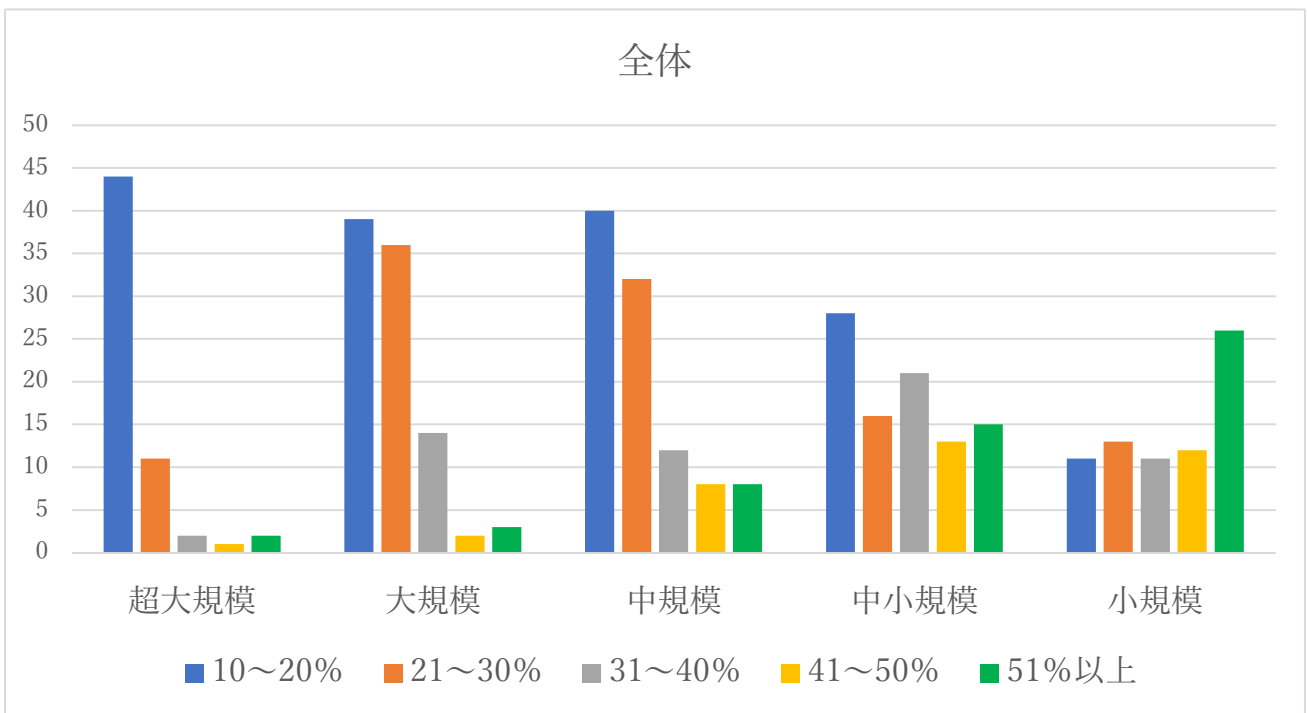
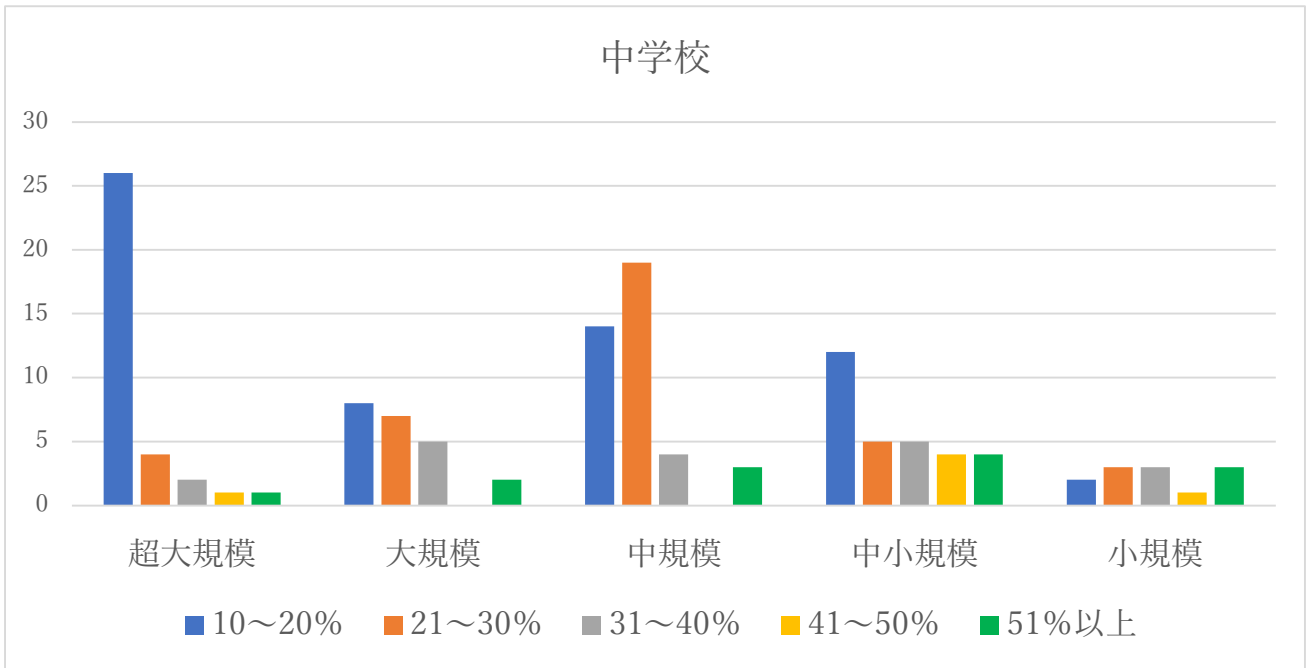
① 役員割合

小学校	10～20%	21～30%	31～40%	41～50%	51%以上	合計
超大規模	18	7			1	26
大規模	31	29	9	2	1	72
中規模	26	13	8	8	5	60
中小規模	16	11	16	9	11	63
小規模	9	10	8	11	23	61

中学校	10～20%	21～30%	31～40%	41～50%	51%以上	合計
超大規模	26	4	2	1	1	34
大規模	8	7	5	0	2	22
中規模	14	19	4	0	3	40
中小規模	12	5	5	4	4	30
小規模	2	3	3	1	3	12

小中合計	10～20%	21～30%	31～40%	41～50%	51%以上	合計
超大規模	44	11	2	1	2	60
大規模	39	36	14	2	3	94
中規模	40	32	12	8	8	100
中小規模	28	16	21	13	15	93
小規模	11	13	11	12	26	73





全体グラフより、超大規模校では10~20%の学校が最も多く、51%以上の学校が少ない。反対に、小規模校では51%以上の学校が最も多く、10~20%の学校が少ない。

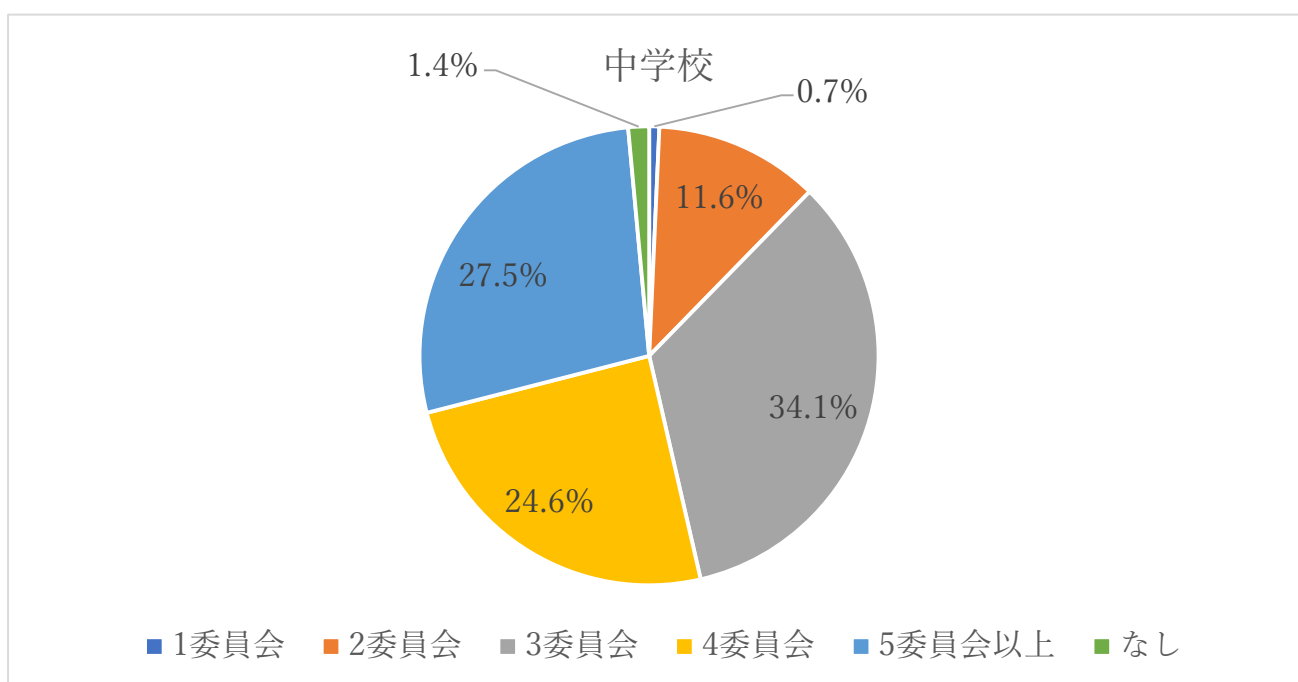
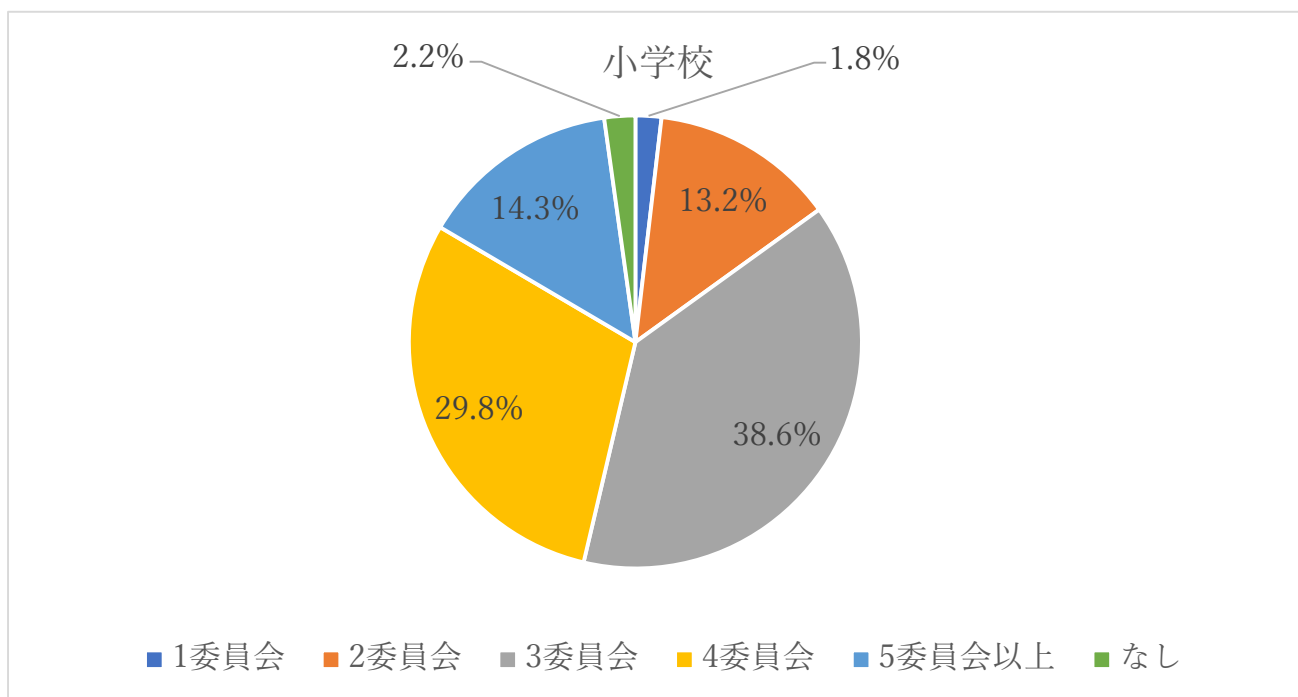
規模が大きい学校ほど役員の割合が小さい学校が多く、規模が小さい学校ほど役員数の割合が大きい学校が多いことがわかる。

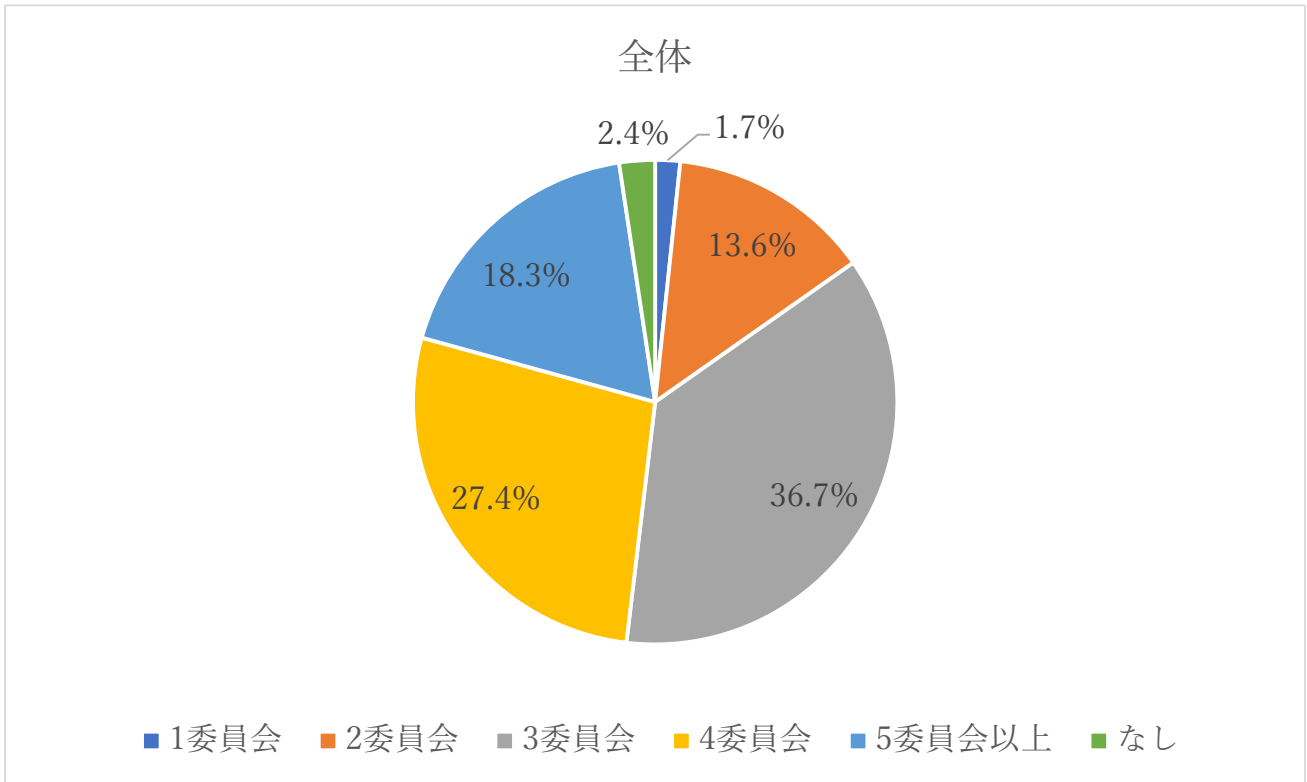
このことから、保護者の人数が少ない学校ほど役員の占める割合が大きくなることが明らかであり、中学校よりも小学校の方が顕著にあらわれている。

特に、小規模校では、保護者の母数が小さいことが大きく影響していると考えられる。

4、専門委員会数について

	1委員会	2委員会	3委員会	4委員会	5委員会以上	なし	合計
小学校	5	36	105	81	39	6	272
中学校	1	16	47	34	38	2	138
小中学校	1	4	0	0	0	0	5
特別支援学校	0	1	2	0	0	2	5
合計	7	57	154	115	77	10	420





委員会数は、全体グラフより、3委員会の学校が最も多く、4委員会、5委員会以上、2委員会、なし、1委員会の順に少ない。

小学校と中学校共に、3～4委員会ある学校が、小学校では68.4%、中学校では58.7%であり、それぞれ半数以上を占めている。

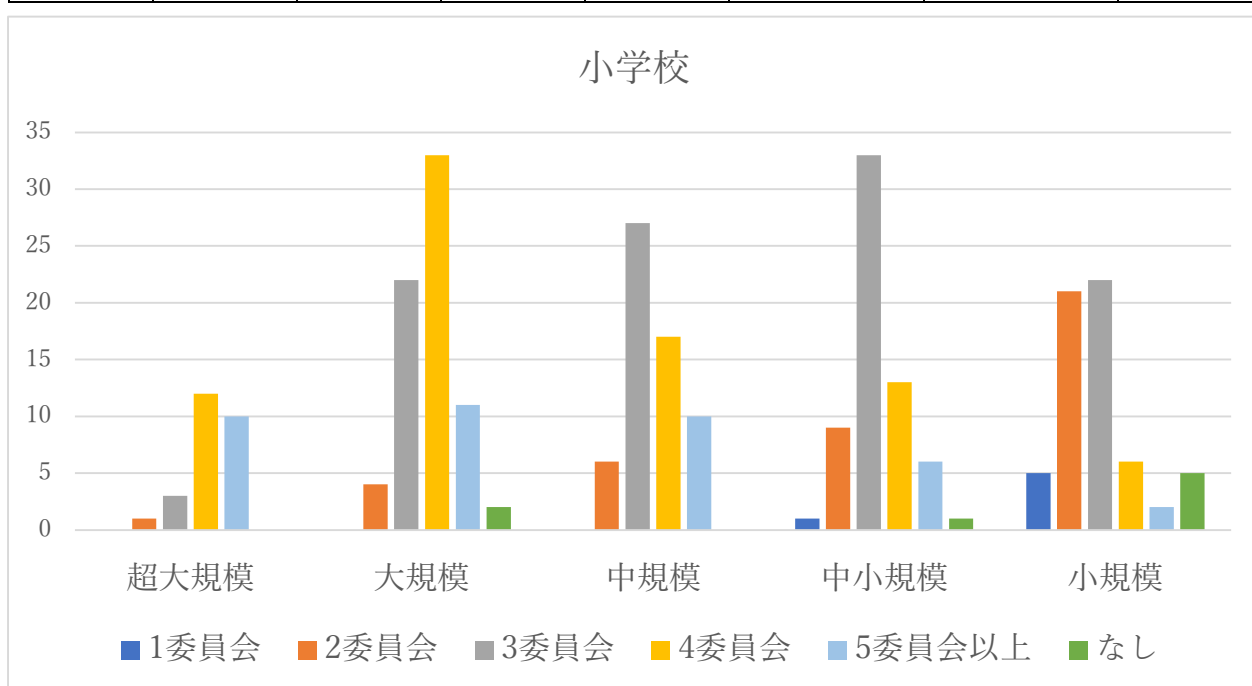
一方で、5委員会以上ある学校が、小学校が14.3%に対し、中学校は27.5%であり2倍近いことがわかる（※これについては後述の「5. 委員会数分析について」参照）。

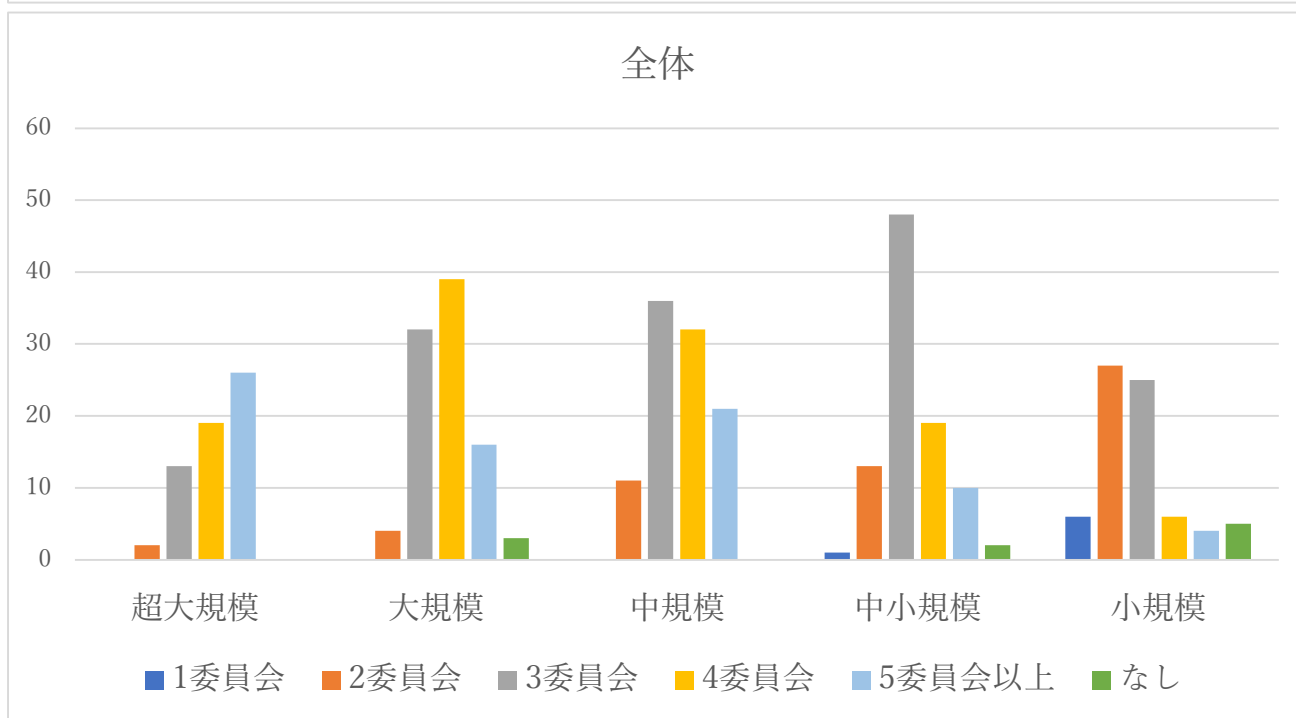
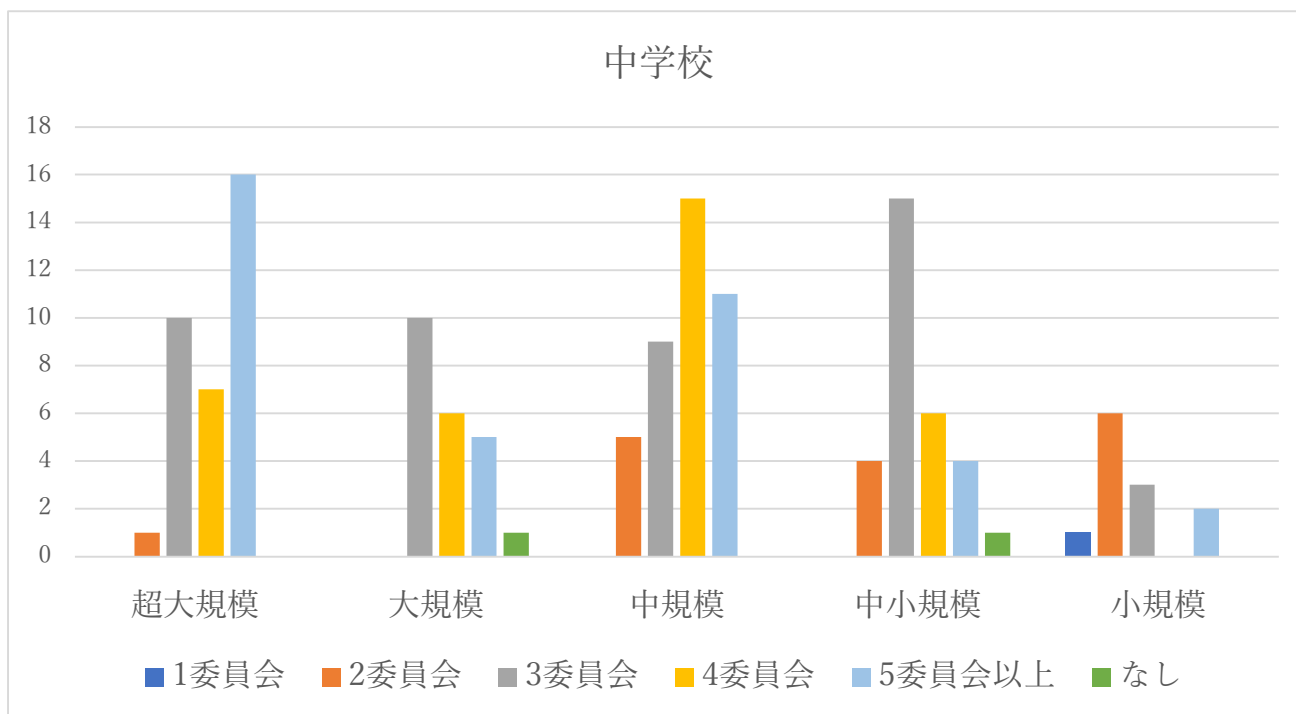
5、専門委員会数分析について

小学校	1委員会	2委員会	3委員会	4委員会	5委員会以上	なし	合計
超大規模	0	1	3	12	10	0	26
大規模	0	4	22	33	11	2	72
中規模	0	6	27	17	10	0	60
中小規模	1	9	33	13	6	1	63
小規模	5	21	22	6	2	5	61

中学校	1委員会	2委員会	3委員会	4委員会	5委員会以上	なし	合計
超大規模		1	10	7	16		34
大規模			10	6	5	1	22
中規模		5	9	15	11		40
中小規模		4	15	6	4	1	30
小規模	1	6	3		2		12

小中合計	1委員会	2委員会	3委員会	4委員会	5委員会以上	なし	合計
超大規模	0	2	13	19	26	0	60
大規模	0	4	32	39	16	3	94
中規模	0	11	36	32	21	0	100
中小規模	1	13	48	19	10	2	93
小規模	6	27	25	6	4	5	73





全体グラフより、超大規模校では5委員会以上の学校が最も多く、小規模校では2委員会の学校が最も多い。規模が大きい学校ほど委員会の数が多く、規模が小さい学校ほど委員会の数が少ないことがわかる。このことから、保護者の人数が多いほど細分化された委員会で、専門的に活動されていることが考えられる。反対に、保護者の人数が少ないほど限られた委員会で、総合的に活動されていることが考えられる。

一方で、【役員数分析】で詳細な内訳をみると、委員会が無い学校の内、小学校と中学校合わせて3校が大規模校であった。保護者の人数が多いため、随時参加者を募る形式での活動が推察される。

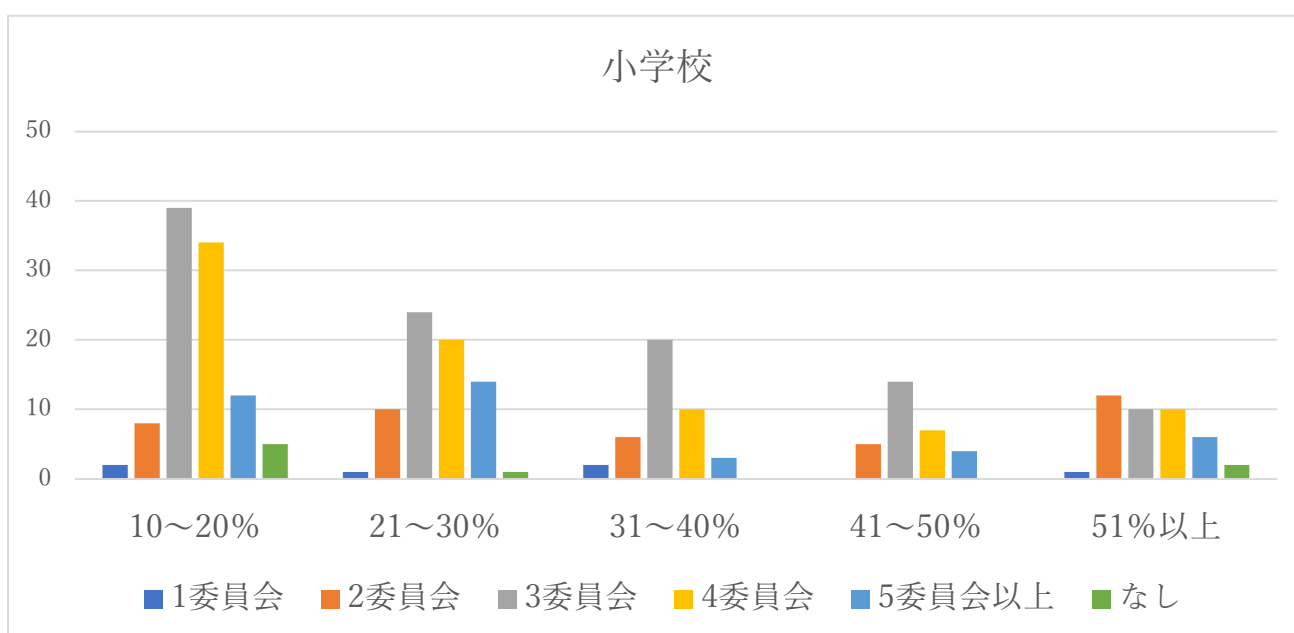
6、役員比率と専門委員会数の分析について

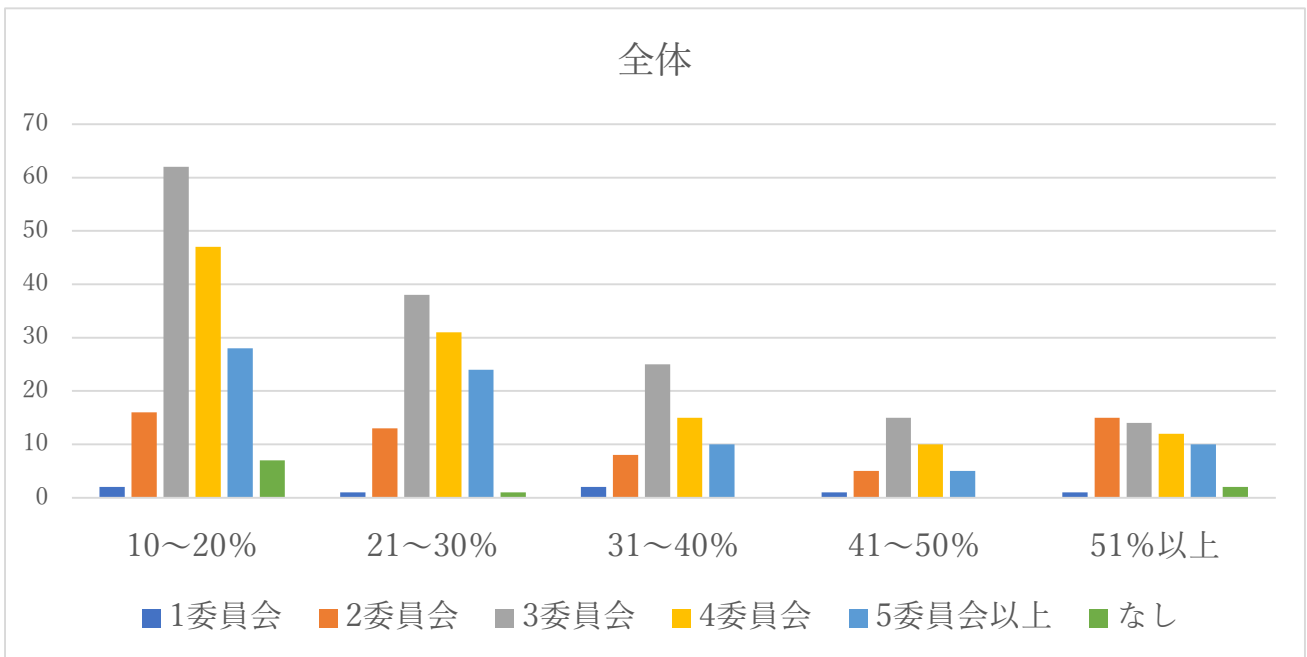
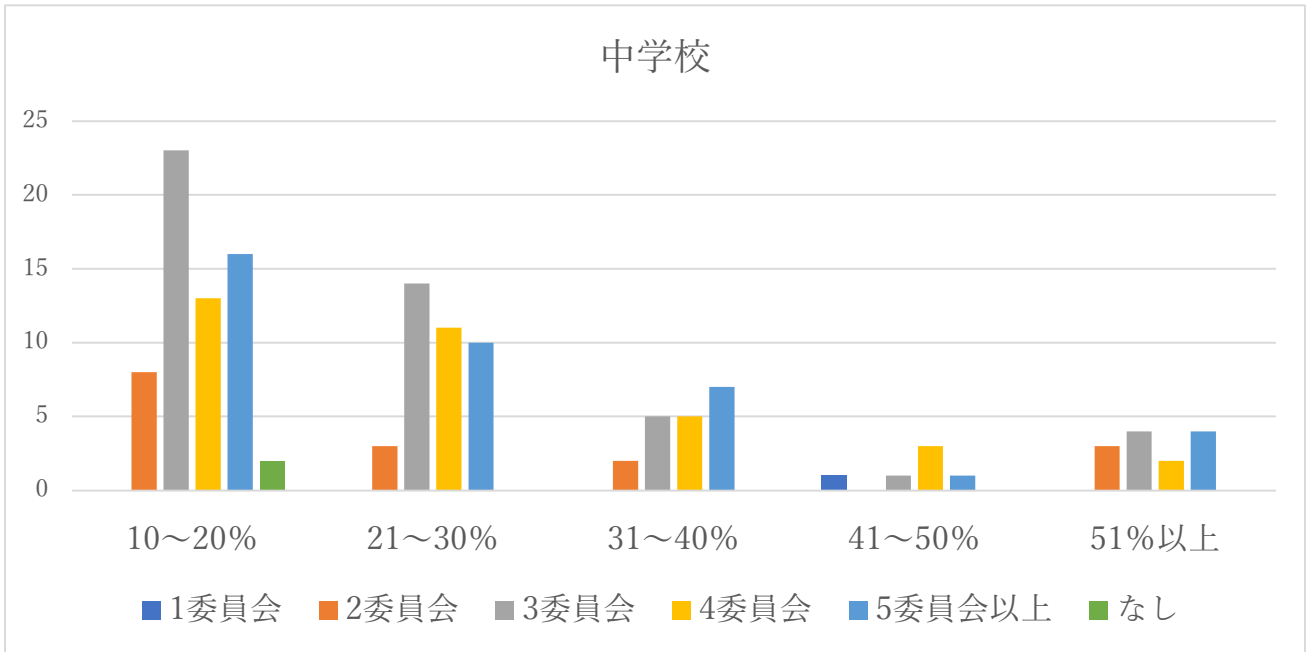
*縦軸は役員比率

小学校	1委員会	2委員会	3委員会	4委員会	5委員会以上	なし	合計
10～20%	2	8	39	34	12	5	100
21～30%	1	10	24	20	14	1	70
31～40%	2	6	20	10	3	0	41
41～50%	0	5	14	7	4	0	30
51%以上	1	12	10	10	6	2	41

中学校	1委員会	2委員会	3委員会	4委員会	5委員会以上	なし	合計
10～20%		8	23	13	16	2	62
21～30%		3	14	11	10		38
31～40%		2	5	5	7		19
41～50%	1		1	3	1		6
51%以上		3	4	2	4		13

小中合計	1委員会	2委員会	3委員会	4委員会	5委員会以上	なし	合計
10～20%	2	16	62	47	28	7	162
21～30%	1	13	38	31	24	1	108
31～40%	2	8	25	15	10	0	60
41～50%	1	5	15	10	5	0	36
51%以上	1	15	14	12	10	2	54





全体グラフより、役員比率が50%以下の学校ではどの役員比率も3委員会の学校が最も多く、51%以上の学校では2委員会の学校が最も多い。

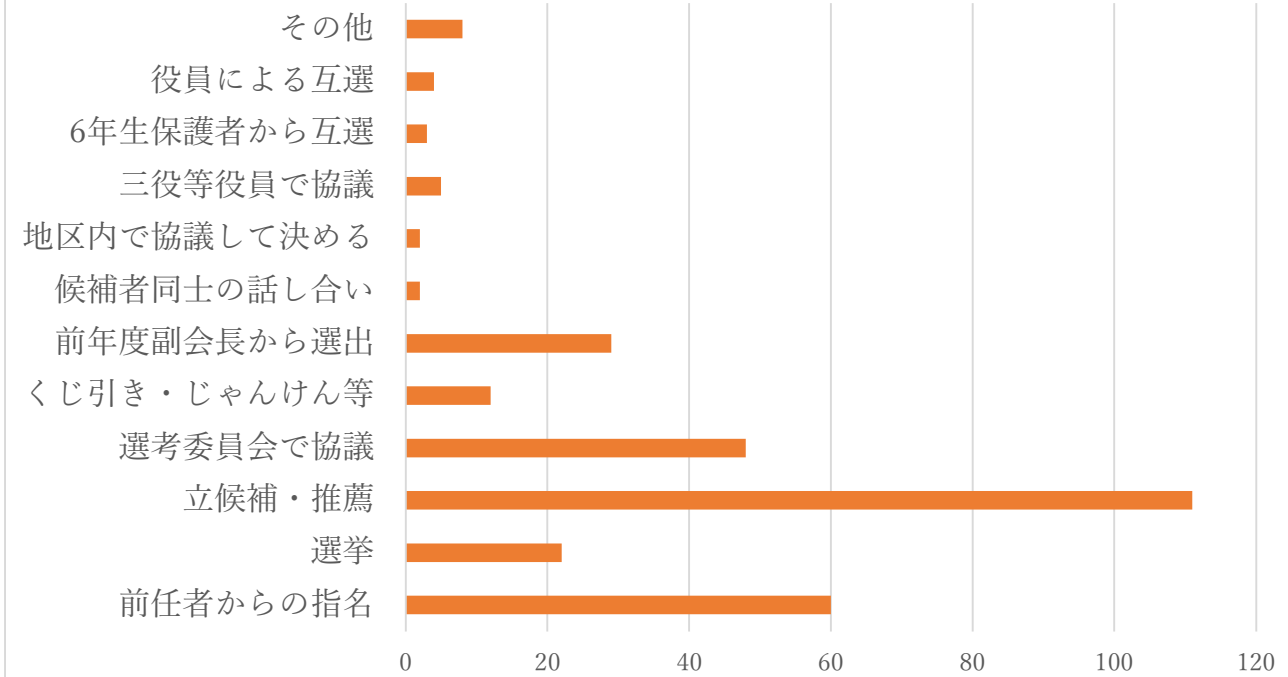
【役員数分析】で詳細な内訳をみると、委員会が無い、1委員会の学校は、小学校で5%（282校中14校）、中学校で2%（138校中3校）、全体では4%（420校中17校）を占めている。特に、役員比率が10~20%の学校が最も多いため、少ない役員による柔軟な活動が推察される。

7、会長選出について

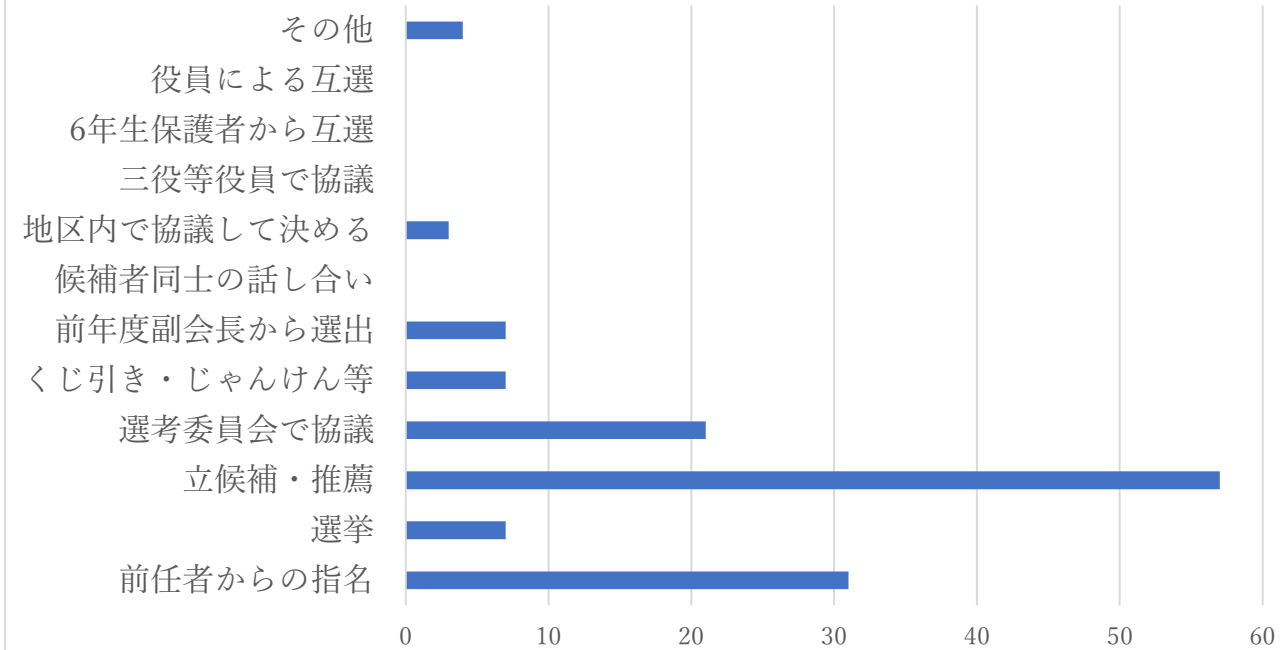
会長の選出方法	中学校	小学校	合計
前任者からの指名	31	60	91
選挙	7	22	29
立候補・推薦	57	111	168
選考委員会で協議	21	48	69
くじ引き・じゃんけん等	7	12	19
前年度副会長から選出	7	29	36
候補者同士の話し合い	0	2	2
地区内で協議して決める	3	2	5
三役等役員で協議	0	5	5
6年生保護者から互選	0	3	3
役員による互選	0	4	4
その他	4	8	12

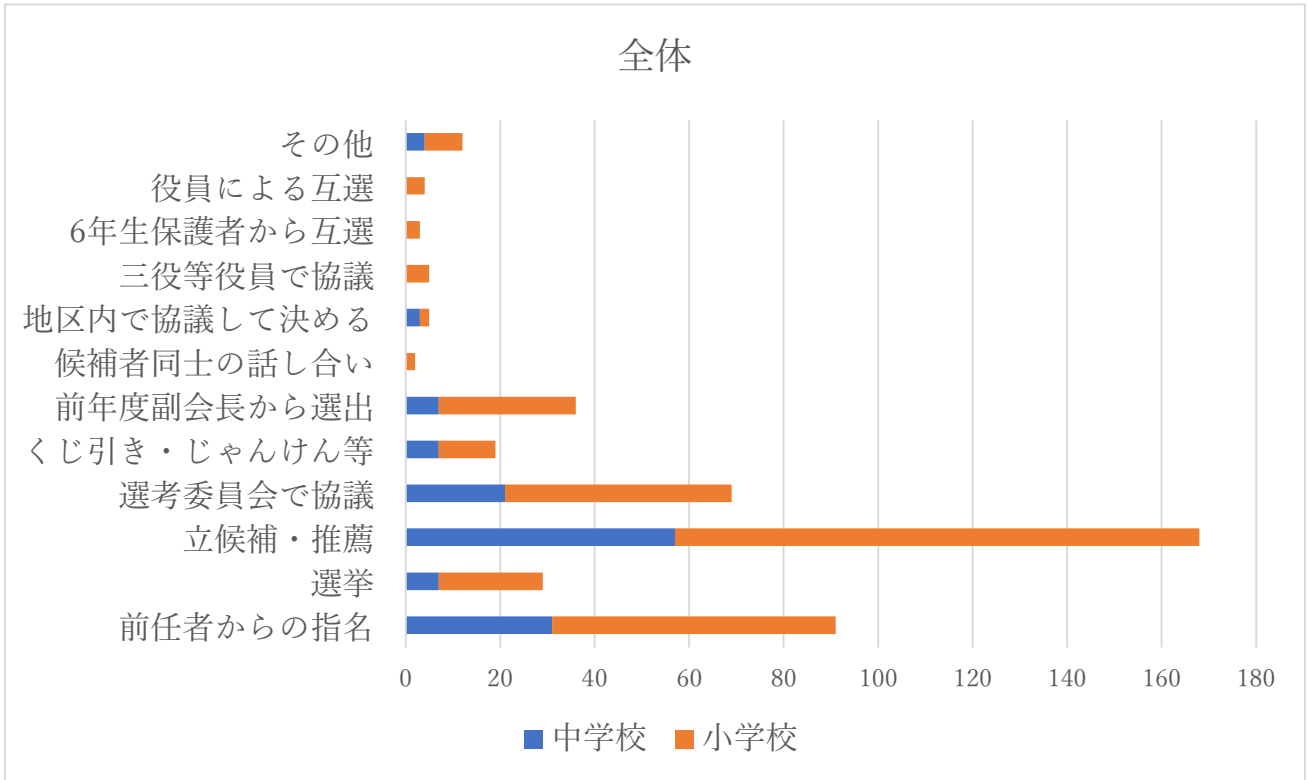
その他意見
五年生会員による選出会議
持ち回り
学年選考
4年「学年懇談会」開催時において、選考方法は一任
新1年移行学級時に協議
年度毎に選出基準がある。
2学年終わりまでに当該学年の保護者で話し合いの上決定
人数が少ないので順番に回ってくる
小学校区で予め割り振り
今年度より会長職を廃止しました。3学年委員長がPTA代表として就きます。その選出は互選です。
学年内での話し合い
2学年部長兼副会長が次年度の会長
小学校でなにも役員を行っていなかった人になる

小学校



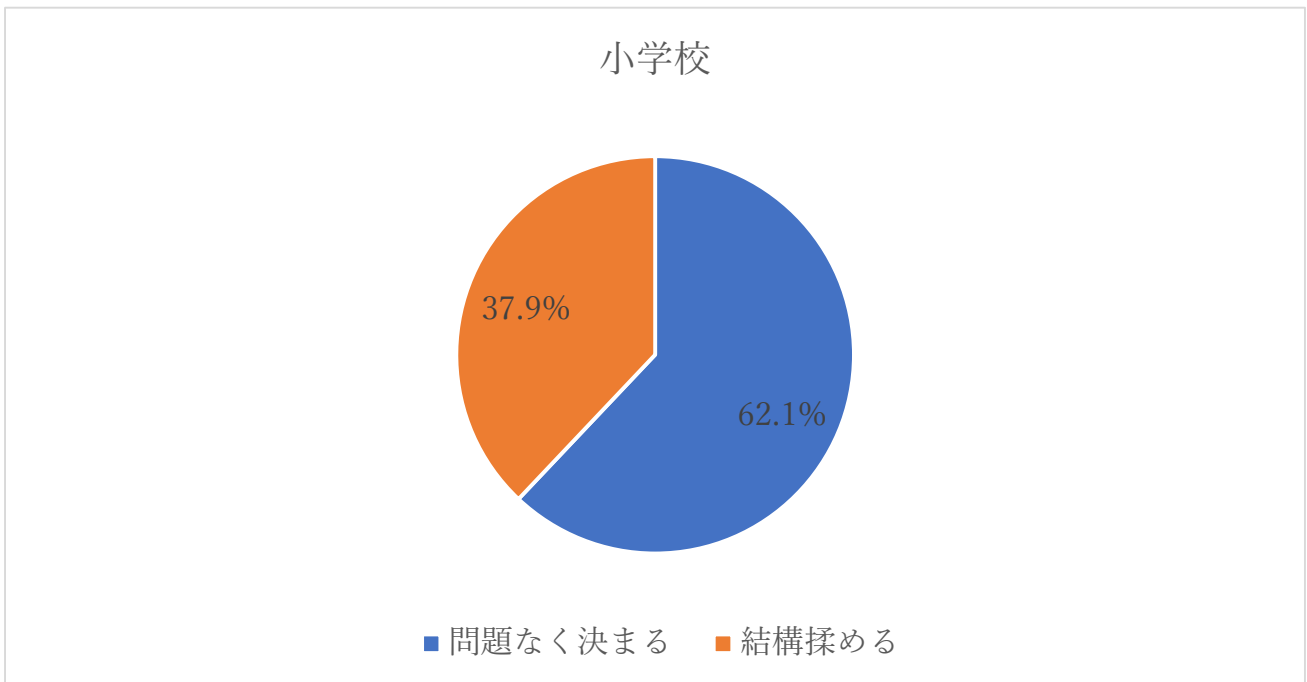
中学校



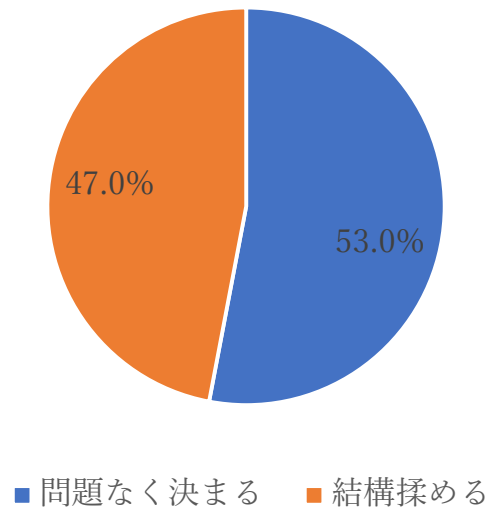


会長選出に関して

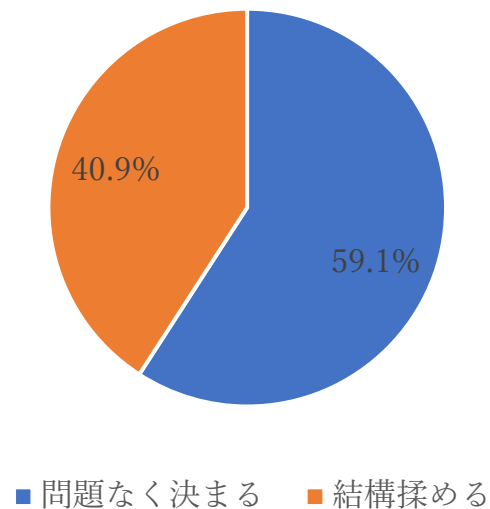
	中学校	小学校	合計
問題なく決まる	71	175	246
結構揉める	63	107	170



中学校



全体



会長選出に関しては小中学校とも立候補推薦という形が多く、また前任者からの指名も多い。推察するに、会長になる人材に関しては人間関係のつながりの中から選出されることが多いのではないだろうか。ただ、選出に関しては後述する副会長や一般の役員の選出よりも揉める場合が多というのは驚きであった。自由記述の問題点にも多数あったが、会長職を受けてくれる人材が各校でなかなか見つからないということも一因にあると思う。

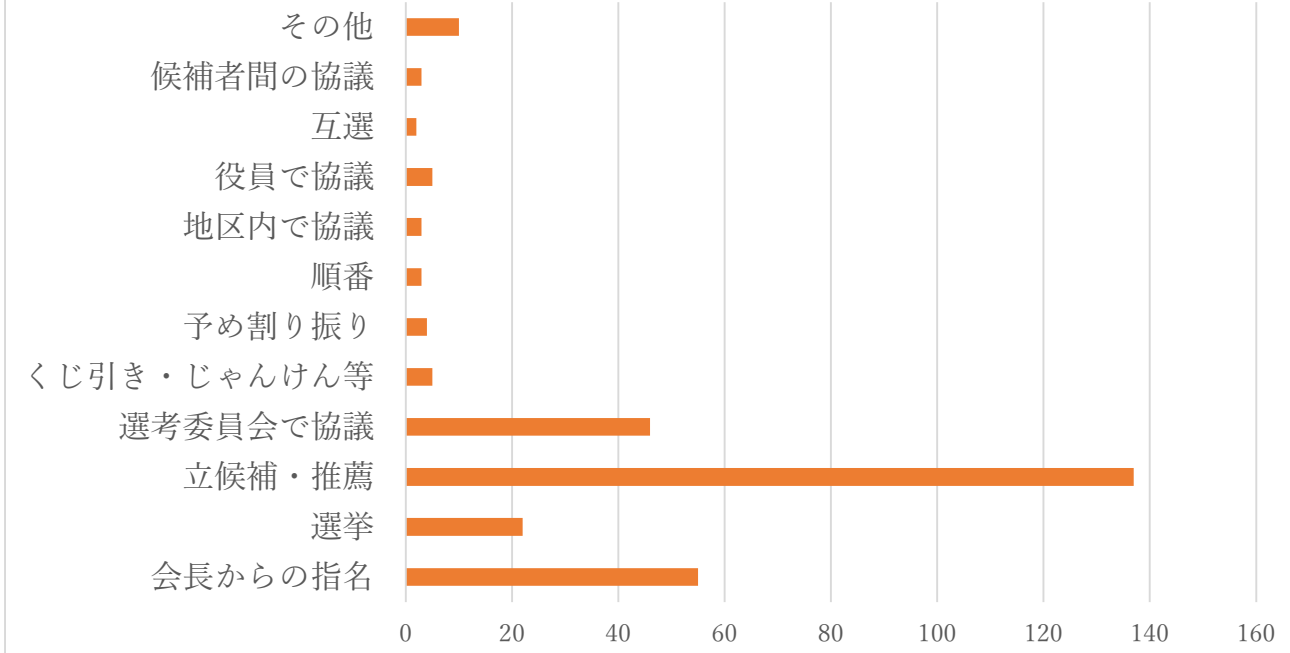
一点驚いたのは、会長職を廃止にした学校があるということだった。非常に思い切った取り組みだと思うし、是非どのように運営されているのかりサーチをさせて頂きたい。

8、副会長・三役選出について

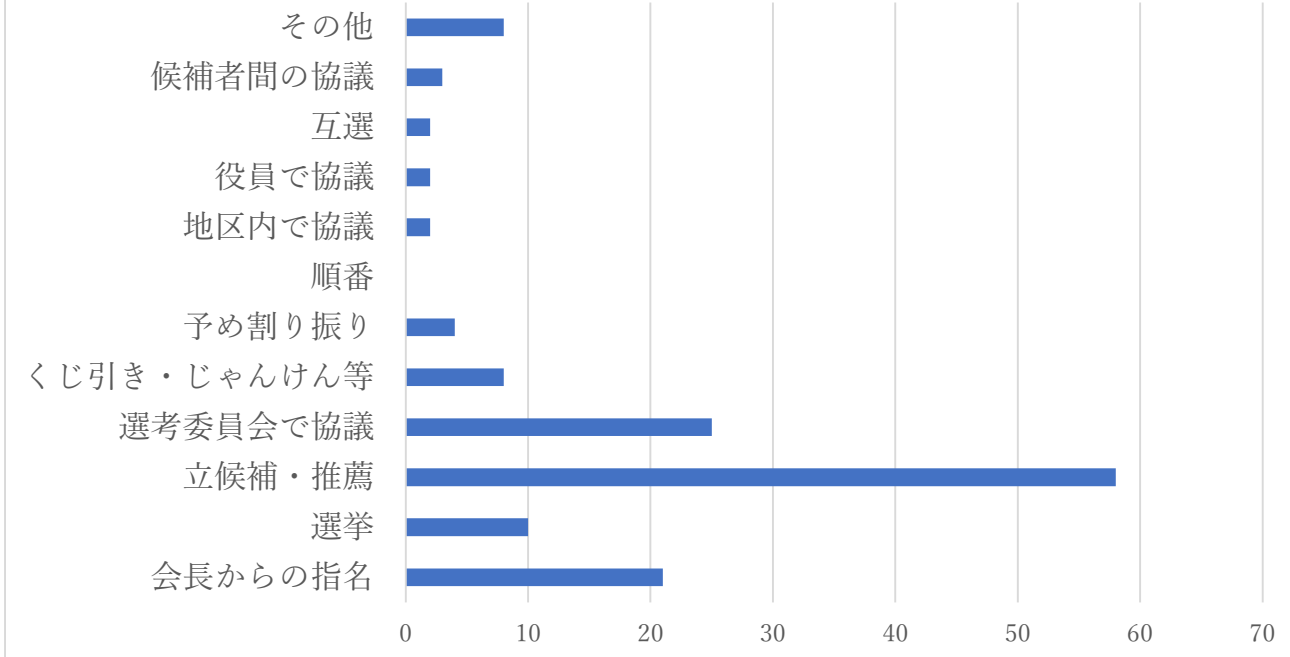
	中学校	小学校	合計
会長からの指名	21	55	76
選挙	10	22	32
立候補・推薦	58	137	195
選考委員会で協議	25	46	71
くじ引き・じゃんけん等	8	5	13
予め割り振り	4	4	8
順番	0	3	3
地区内で協議	2	3	5
役員で協議	2	5	7
互選	2	2	4
候補者間の協議	3	3	6
その他	8	10	18

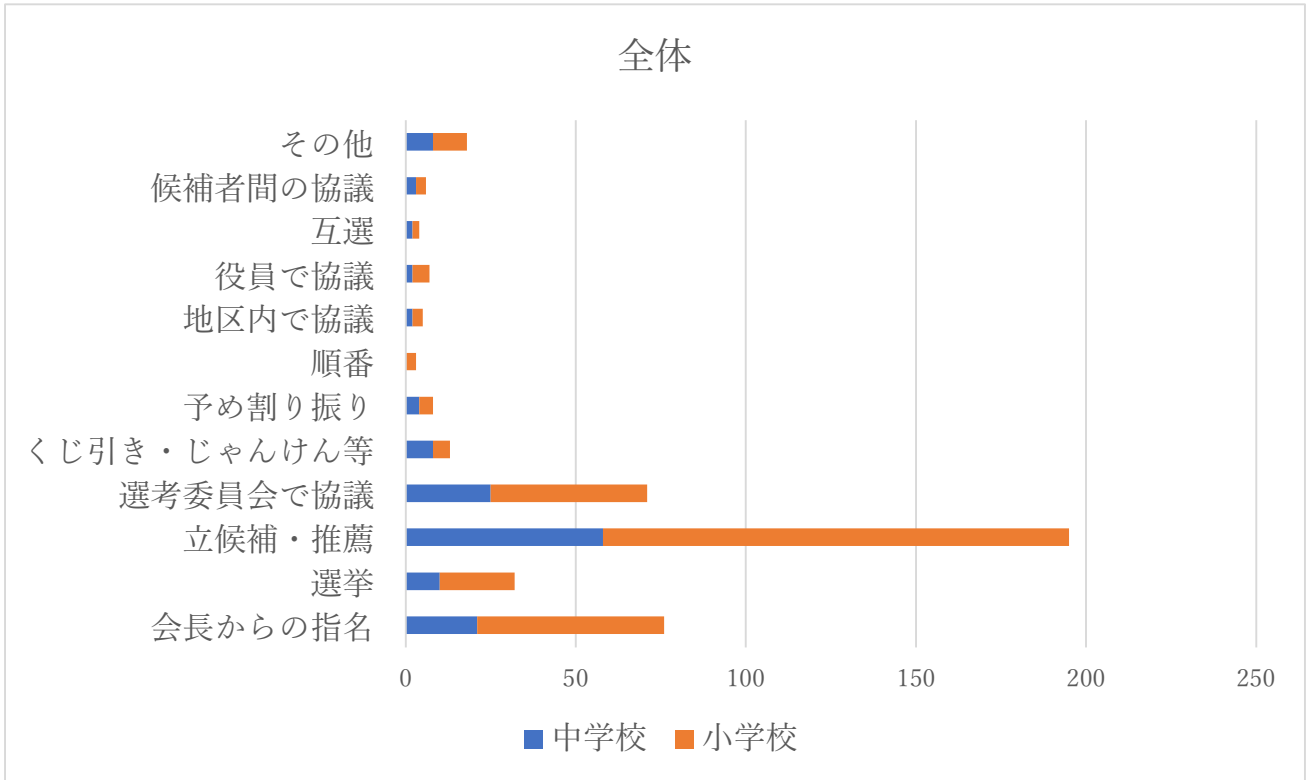
その他意見
学年内での話し合い
学年に役職が割り当てられている
4年制の保護者の中から、二人副会長を選んでもらっている。また、今年度5年生保護者で副会長をしていた二人のうち、来年度会長にならない副会長はそのまま副会長を継続してもらっている。
学年代表が兼任
副会長職を廃止し1年、2年の学年委員長が副代表として就きます。
町内会からの推薦
新1年移行学級時に協議
押し付け合いになっているかも知れません。
学年選考
会長選挙の次点の方
2学年終わりまでに当該学年の保護者で話し合いの上決定
執行委員、他保護者へ三役から声掛け
推薦→候補者会議→運営委員会→総会で承認
前任者からの指名
PTA 総務委員会で選考協議
引き受けていただけそうな方へ早い段階から声かけ
五年生による選出会議（中等）
副会長:該当学年の保護者で協議して決定 三役:会長指名

小学校



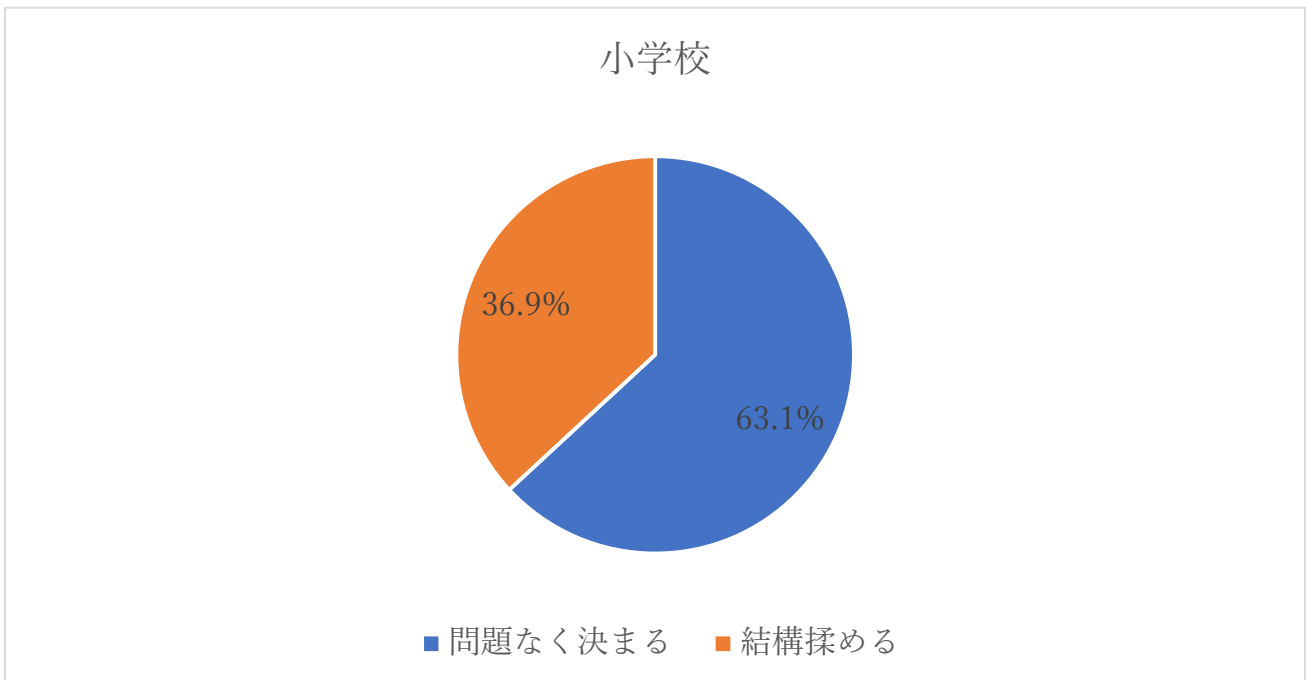
中学校



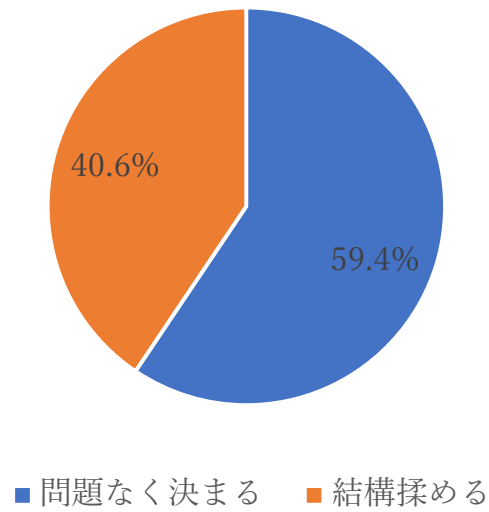


副会長・三役選出に関して

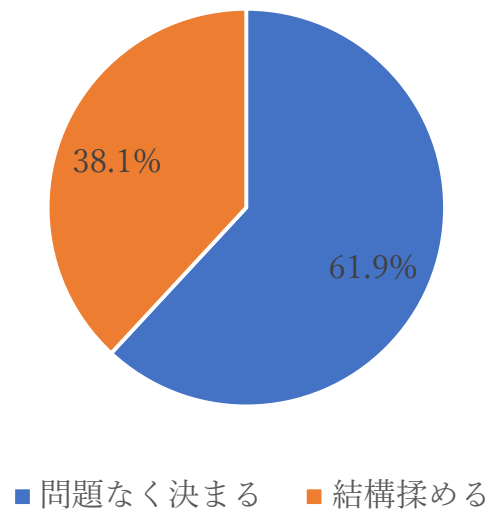
	中学校	小学校	合計
問題なく決まる	82	178	260
結構揉める	56	104	160



中学校



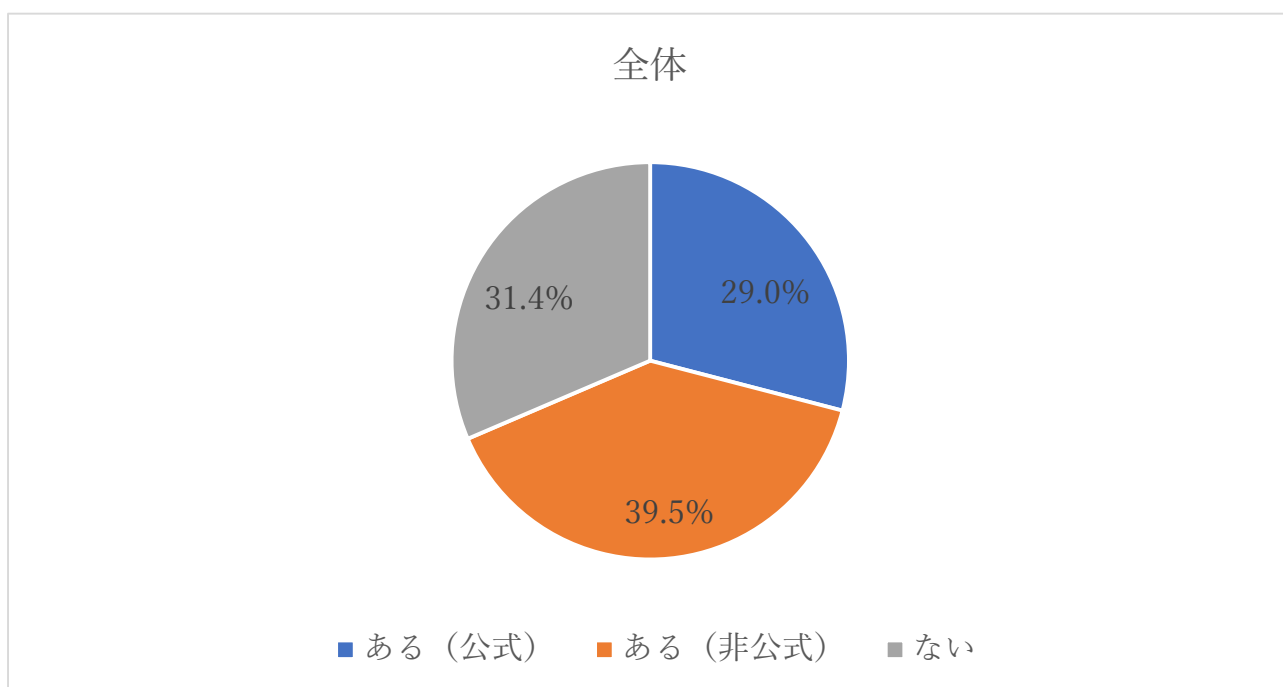
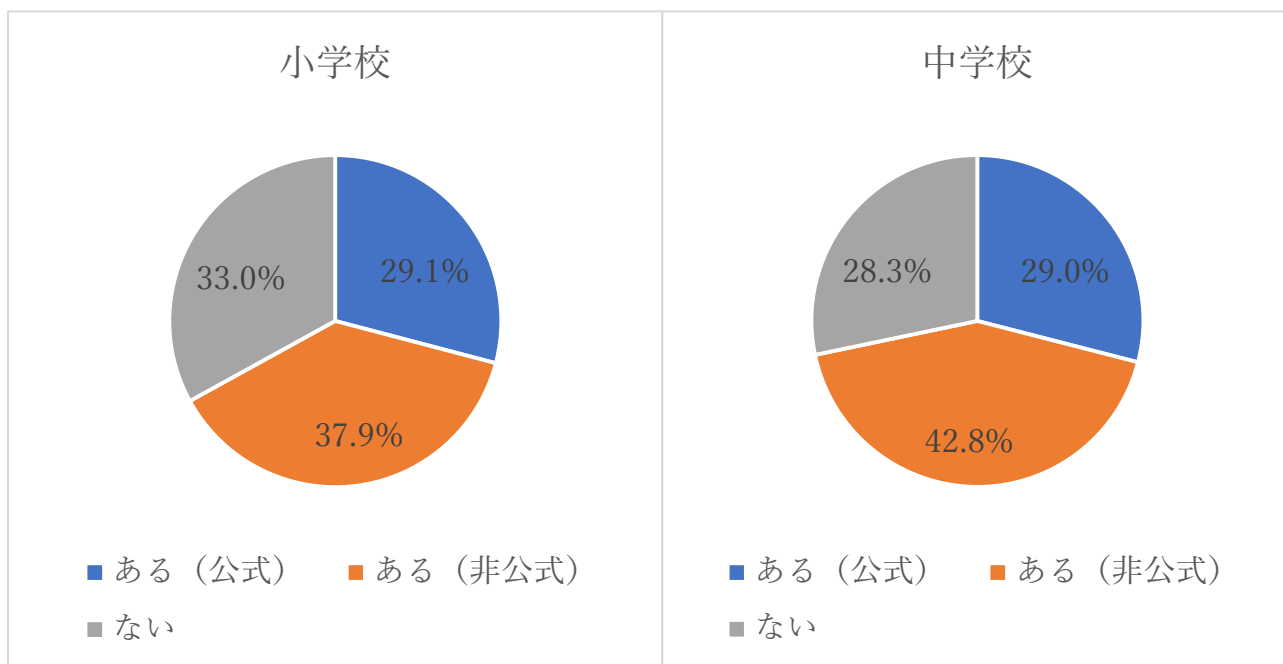
合計



副会長・三役に関しても立候補・推薦が多い。これはあらかじめ候補者を選定したうえで手続き上そのような形をとっていると思われる。基本的には副会長から会長になるという学校が多い。会長決定よりは割合は低くなっているものの、約4割の学校で決定の際揉めるという回答があり、こちらの方もなかなか手を探すのが難しい状況が見受けられる。

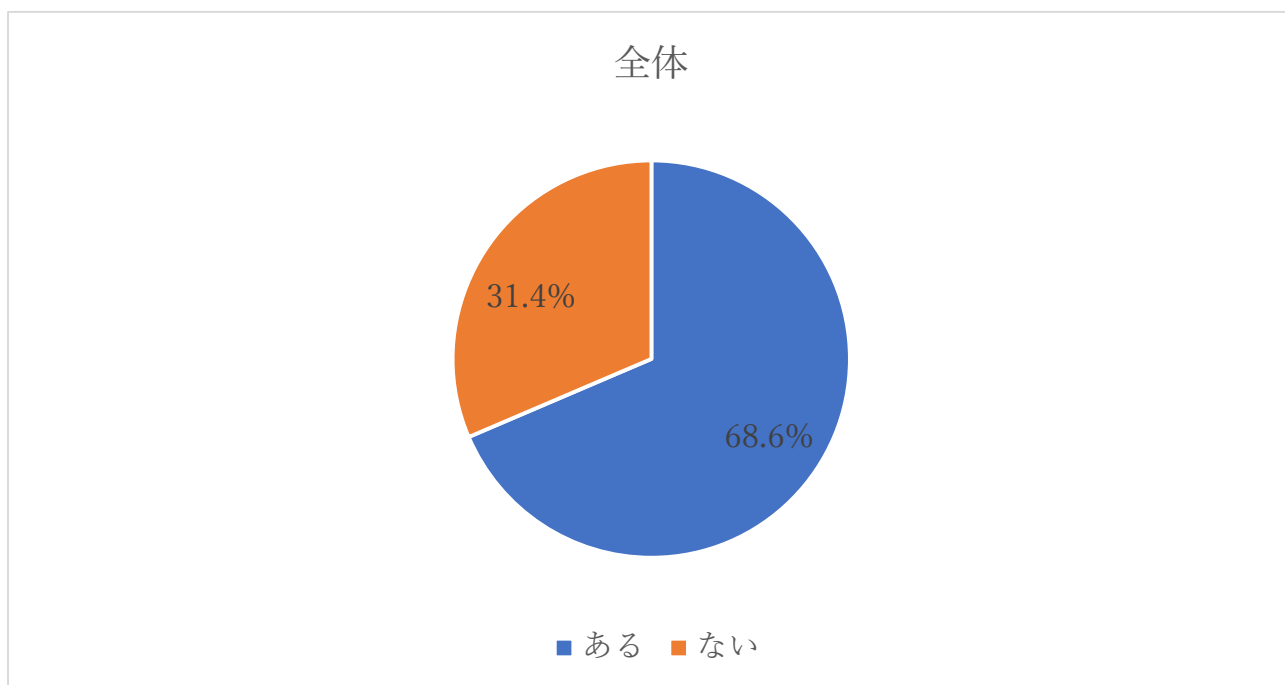
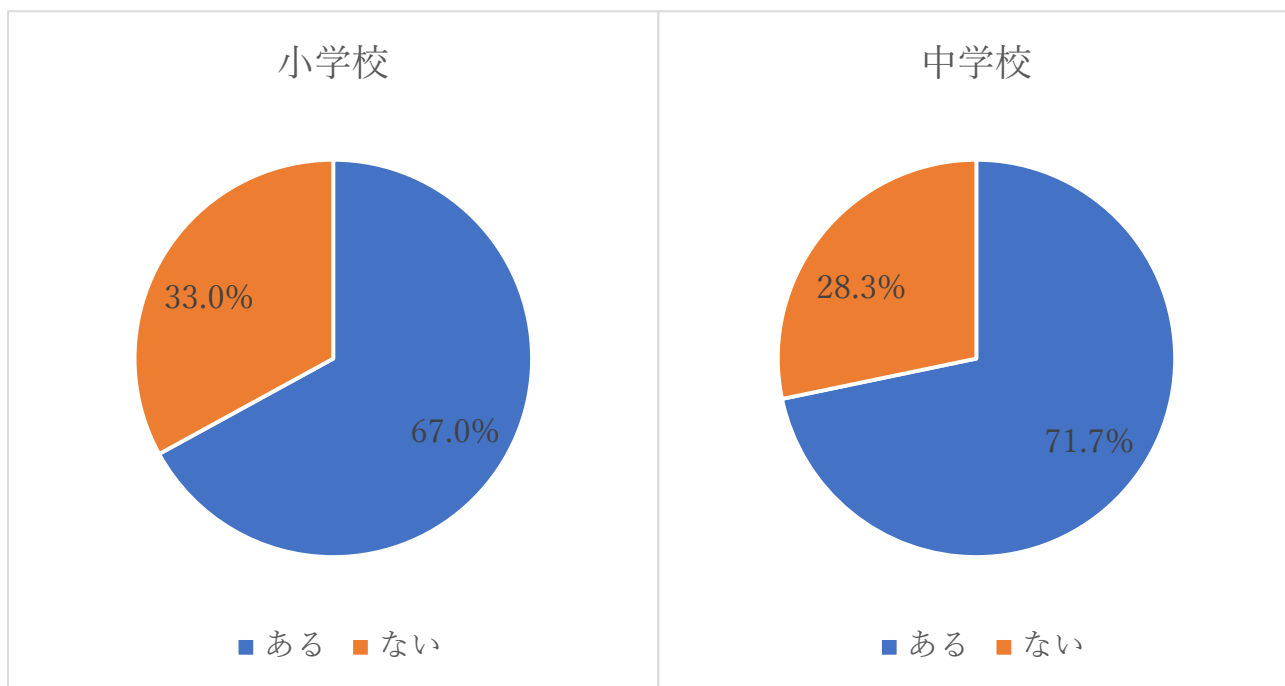
9、三役以外の役員選出について

役員ノルマについて	中学校	小学校	全体
ある（公式）	40	82	122
ある（非公式）	59	107	166
ない	39	93	132



*ノルマがあるか、ないかで二分した場合

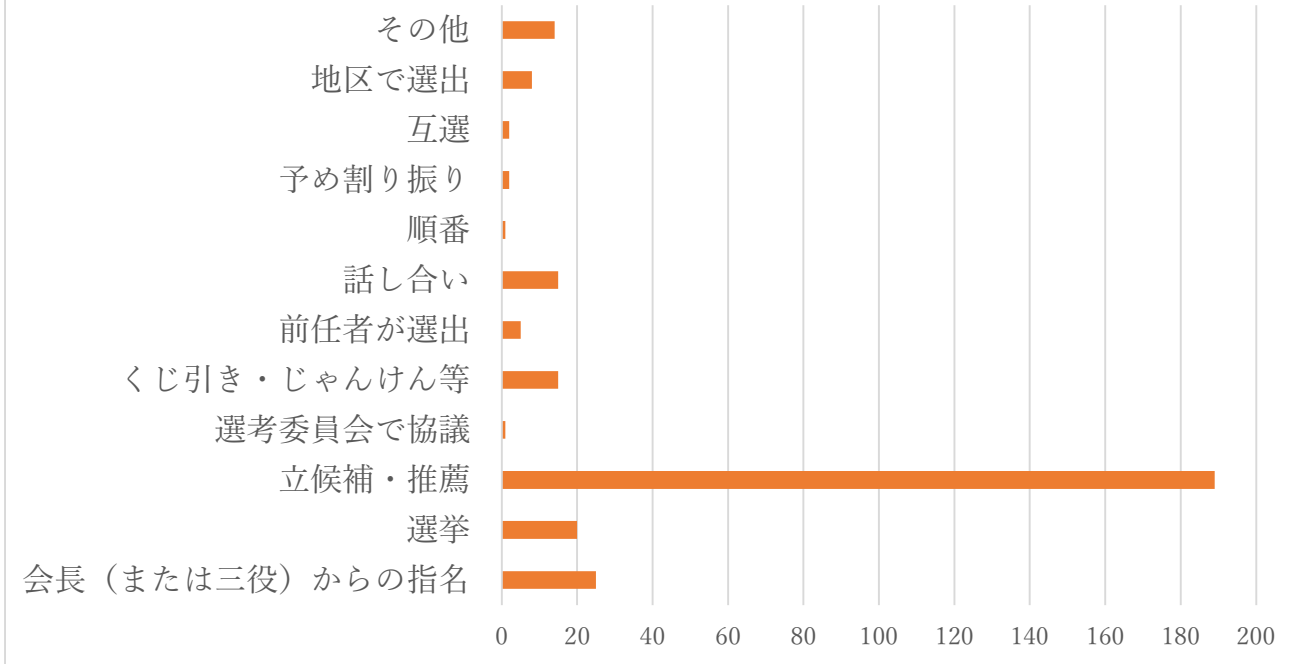
	中学校	小学校	全体
ある	99	189	288
ない	39	93	132



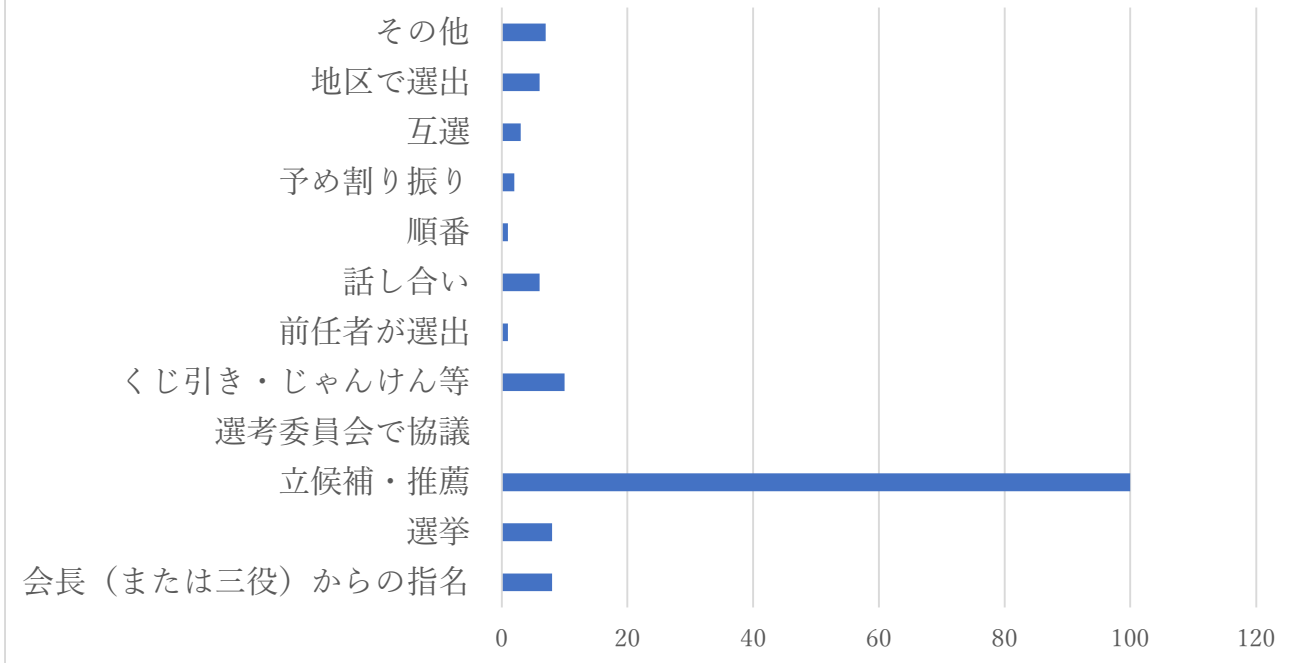
	中学校	小学校
会長（または三役）からの指名	8	25
選挙	8	20
立候補・推薦	100	189
選考委員会で協議	0	1
くじ引き・じゃんけん等	10	15
前任者が選出	1	5
話し合い	6	15
順番	1	1
予め割り振り	2	2
互選	3	2
地区で選出	6	8
その他	7	14

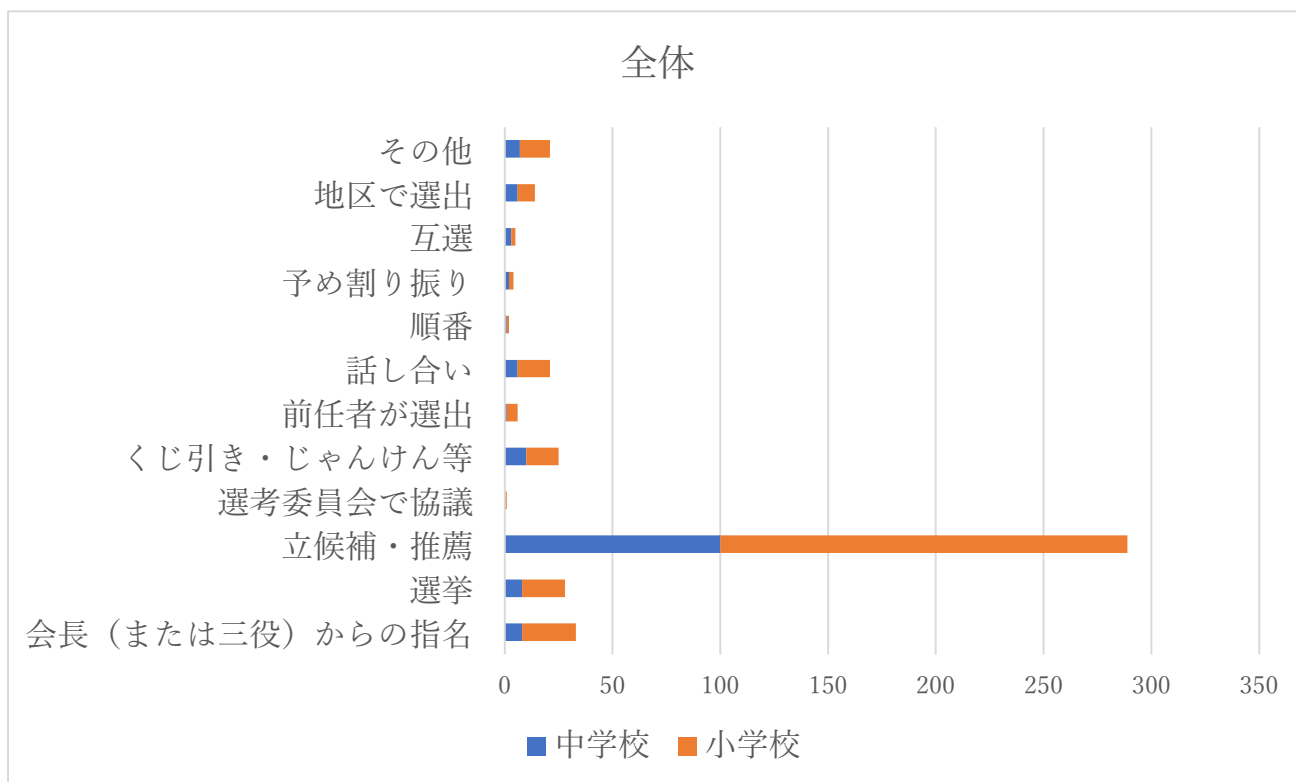
その他意見
希望役員のアンケートをとり、希望者多数の場合はくじ引き、じゃんけん等
三役以外は全員で取り組む
世帯数が少ないため、必然的に全員が役員となる。
人数的に全員が何かしらの役員にならざるを得ない
保護者に来年以降の役員希望を提出して貰う。この資料を基に選考委員会が会長、副会長、幹事、監事を選出した後、各委員会が後任を選出する。
選考委員による
会長決定後、当選者で協議の上決定
学年委員を5名決めて、そこから役割分担を行います。新1年生は立候補、新2，3年生は前年度の役員からの依頼です。
町内会からの推薦
学年委員より選出
文化委員と生活委員は、前年度地区幹事の責任で選出する。学年委員は、年度末保護者会および入学説明会時に選出する。
教員が依頼する、前役員が依頼する、三役から直接依頼する
会長から指名→部長、学年委員は経験無い保護者→立候補、地区役員は輪番制など
学年委員等を務めると卒業まで免除
学年ごとに各専門委員会の委員を1名ずつ選出している（立候補、くじ引き等）。
役員をしていない人で順番で
電話で依頼
必ず3年間に1つは専門委員をやらなければいけないので早い者勝ちで選ぶ

小学校



中学校





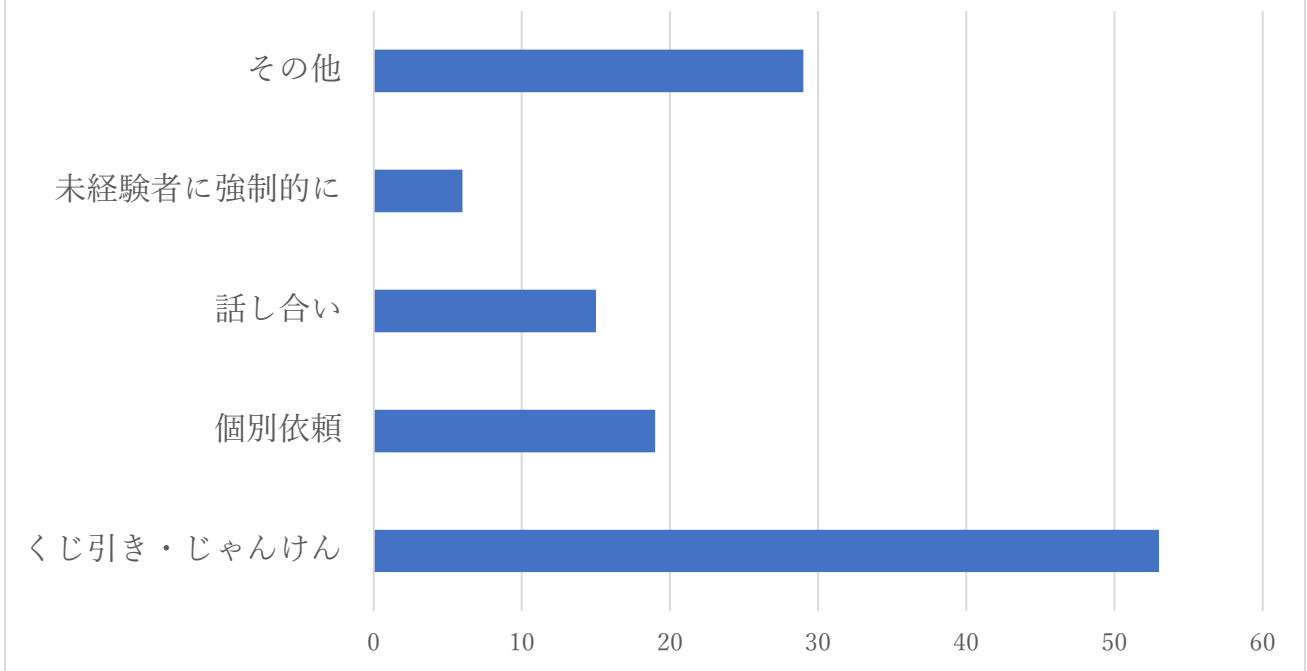
どうしても決まらなかった場合

どうしても決まらなかった場合	中学校	小学校	合計
くじ引き・じゃんけん	33	53	86
個別依頼	7	19	26
話し合い	7	15	22
未経験者に強制的に	6	6	12
その他	10	29	39

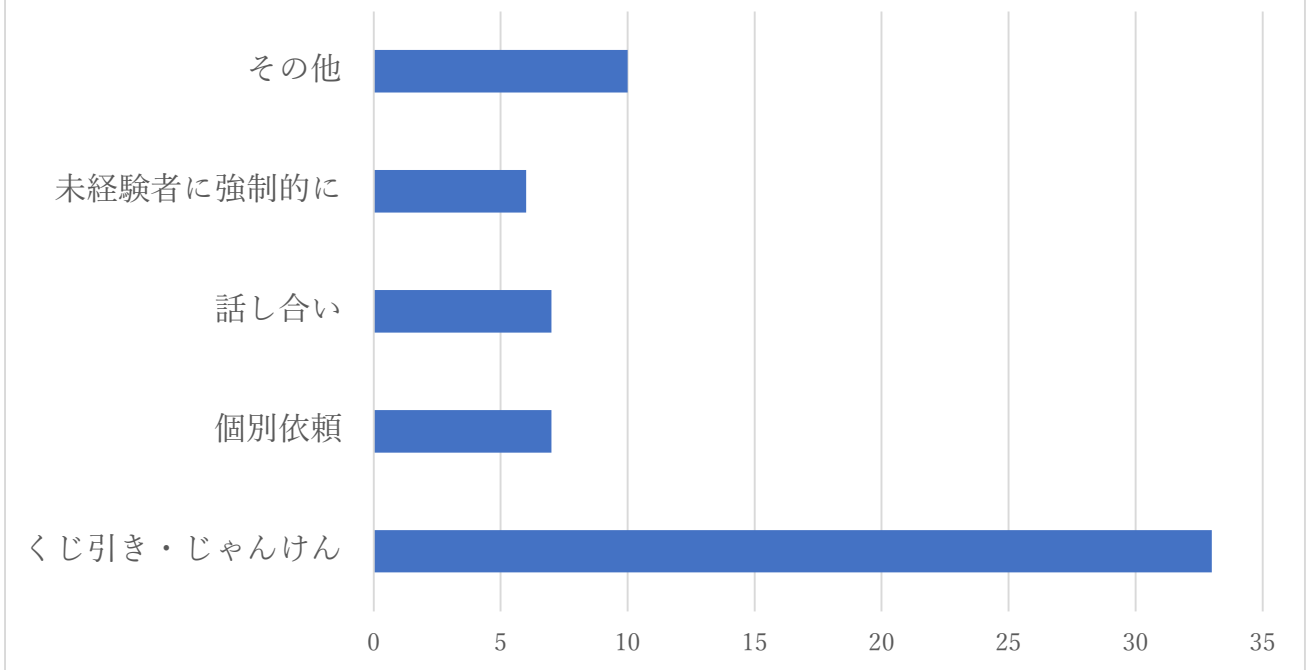
その他
前年度の役員にお願いする
PTA 役員選考委員会での協議となる
次点の繰り上げ。
相応しいと思われる保護者のかたに頼み込む
決まるまで終われない
選考委員会で決め方を協議する
お願いして二回目をやってもらったりする
学年会を開く
複数人に役職をお願いする
前任者継続または、別な方を選考

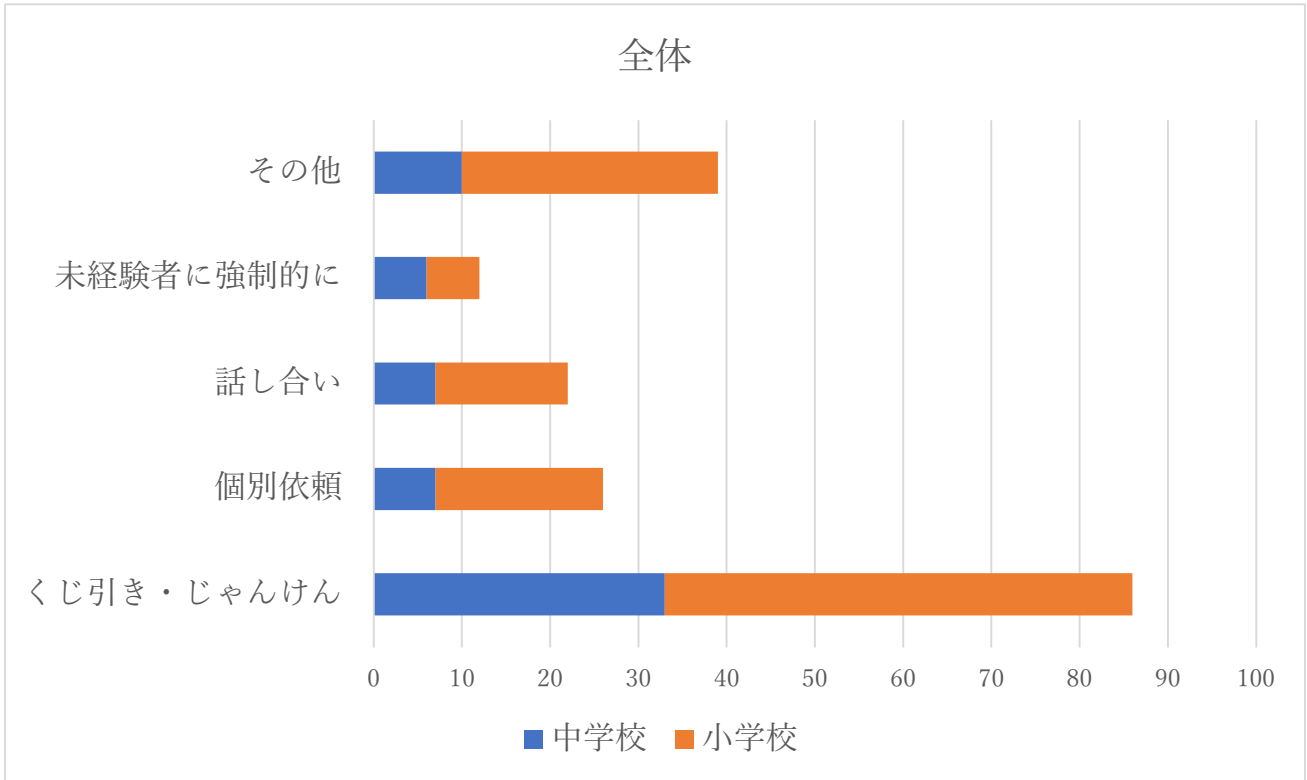
選考委員会を立ち上げる
小学校時に役員経験者などをお願いする
投票の上位から順に電話連絡で決定。
3役で相談し、適任をお願いする。
再度募集をかける
1～2名少ないのは、諦める。総会ギリギリまで、三役・先生が知り合いに声をかけていく。
やり手がない場合は、誰かが仕方なく引き受けてくれます。
P T A 三役などが、直接連絡を取り説得に当たる。
今年度より学年委員会で役員候補を決めることになった
委員長の一任
三役で協議する
基本的に各学年の保護者が相談して決めるので決まらない事は無い。児童数が少ないので保護者全員がどこかの専門委員会に所属する。
候補者同士で決め方を決める
丁寧に説明をする
地区の順番で選出
経験者をお願いする。
選考役員から選出する
1度役員を経験した方も対象とする
選考委員会で協議
担当の先生や前年度の学年委員長が、別日に場を設けて選出。
見るに見かねて他の方が引き受けてくれる
学年ごとの無記名投票
とにかくお願いする。選考委員も遅くまで残り決まるまで帰れない
選出するまで選考委員会を開いて決める
投票
良心、厚意に委ねる
学年ごとに推薦者を投票し、選考委員が票の多い順から電話でお願いし、もし全員断られたら日を改めてまた最初から順番に電話でお願いすることを決まるまで繰り返す。
役員の人数を減らす

小学校



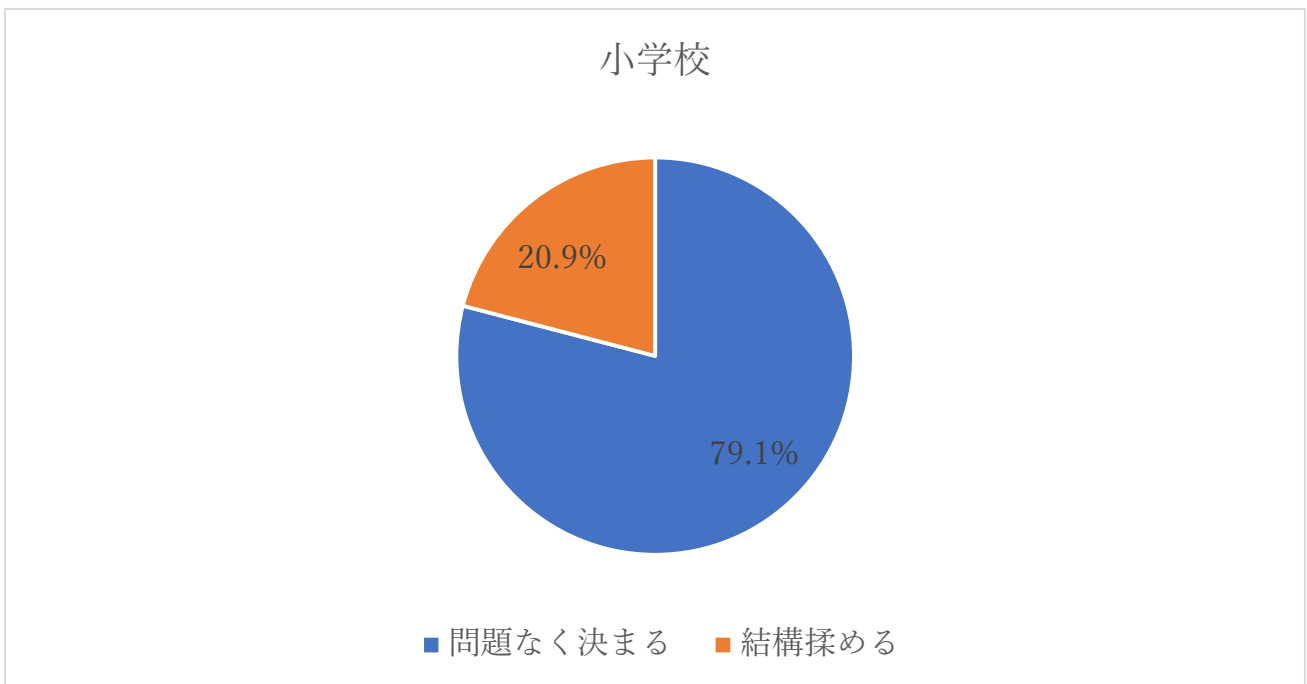
中学校



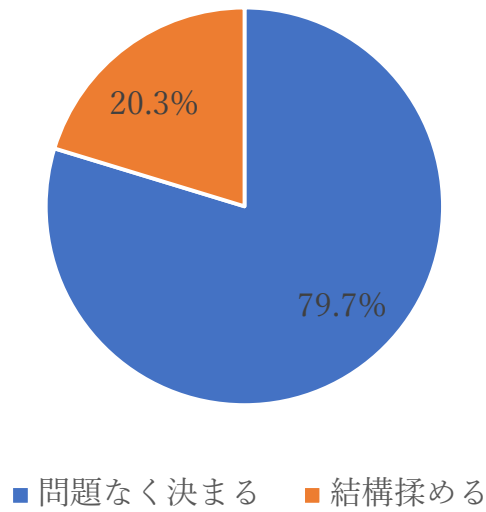


役員選出に関して

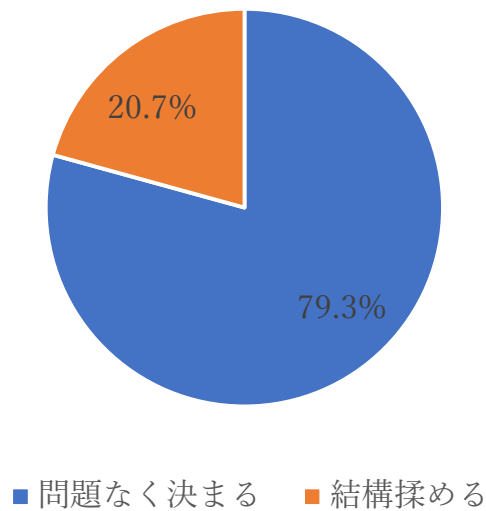
	中学校	小学校	合計
問題なく決まる	110	223	333
結構揉める	28	59	87



中学校



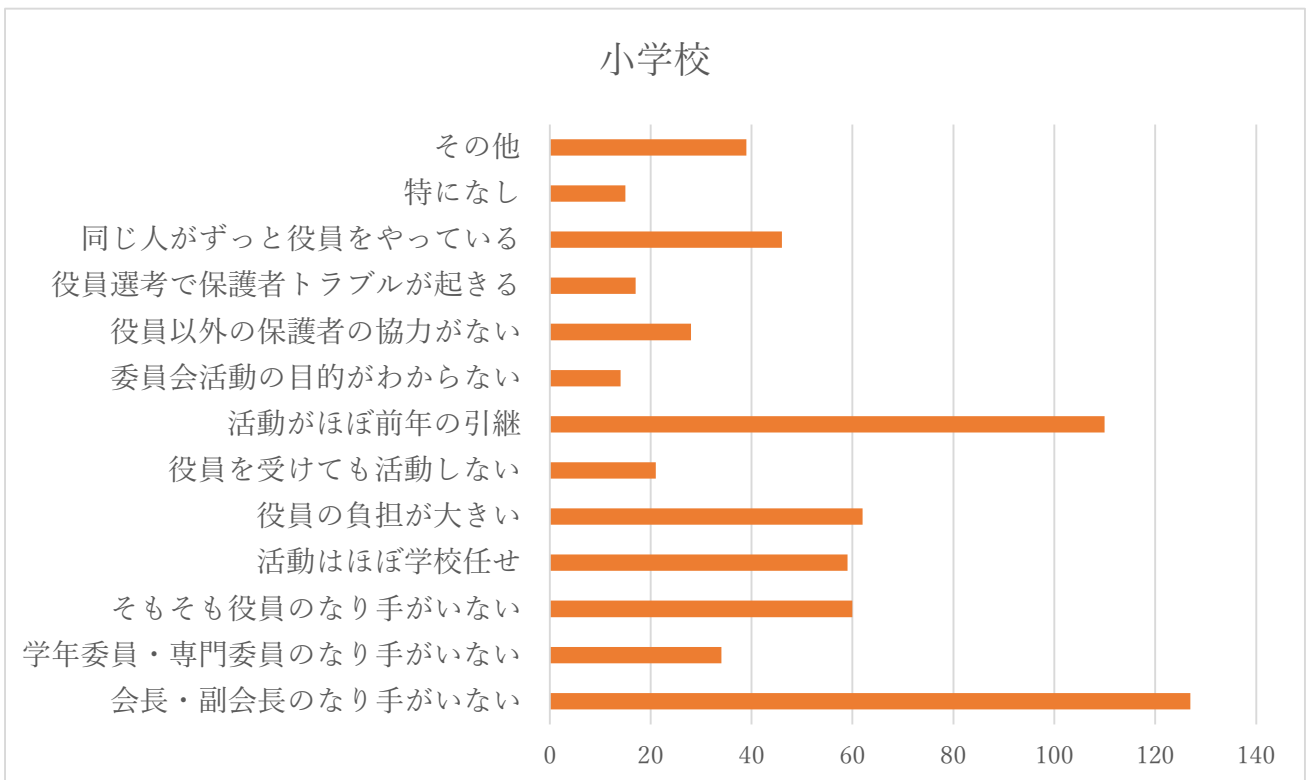
合計



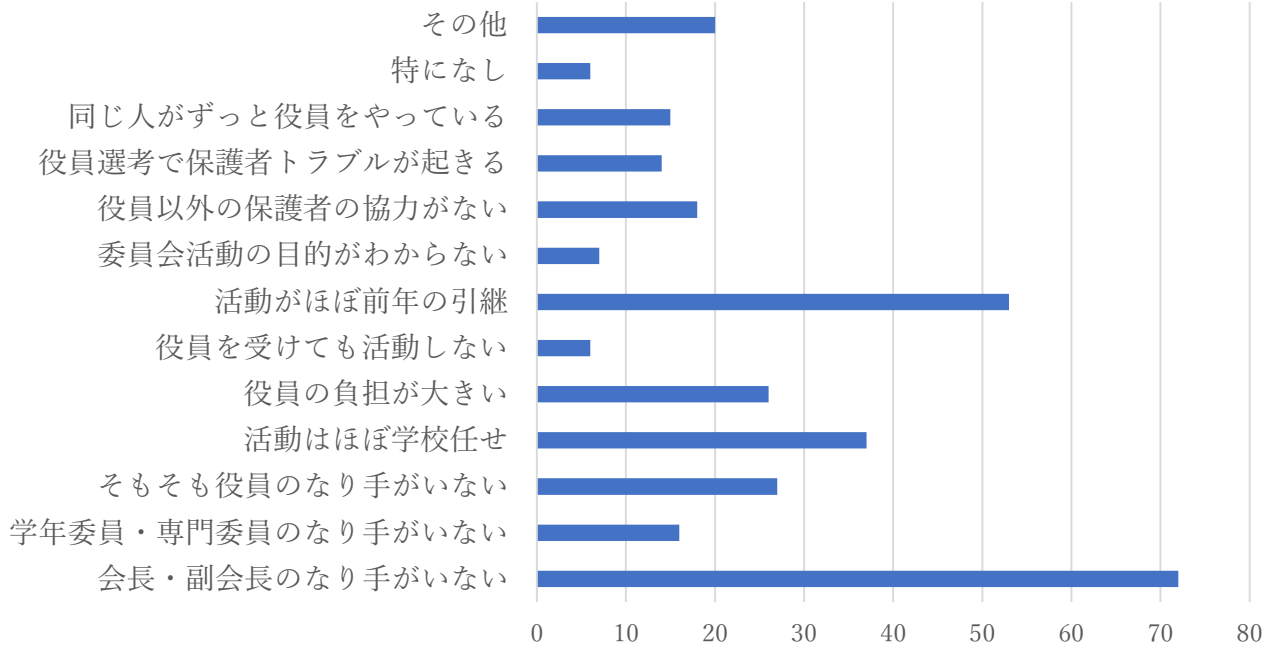
三役以外の役員に関しては、やはり各校在学中に一度はやらないといけないノルマが約7割の学校で存在している。そのため、役員を選出に立候補が多くなっているが多くは「やらないといけないから少しでも楽な学年の時に」という意識が働いていることが推察される。また、どうしても決まらない場合は「くじ引きやじゃんけん」という手法が最も多く、「未経験者に強制的に」という部分も多く見受けられた。未経験者はノルマという制約の中で、決められるため、会長副会長に比べ問題なく役員が決まるということの方が多いうのだ。

10、PTAの組織上の問題点について

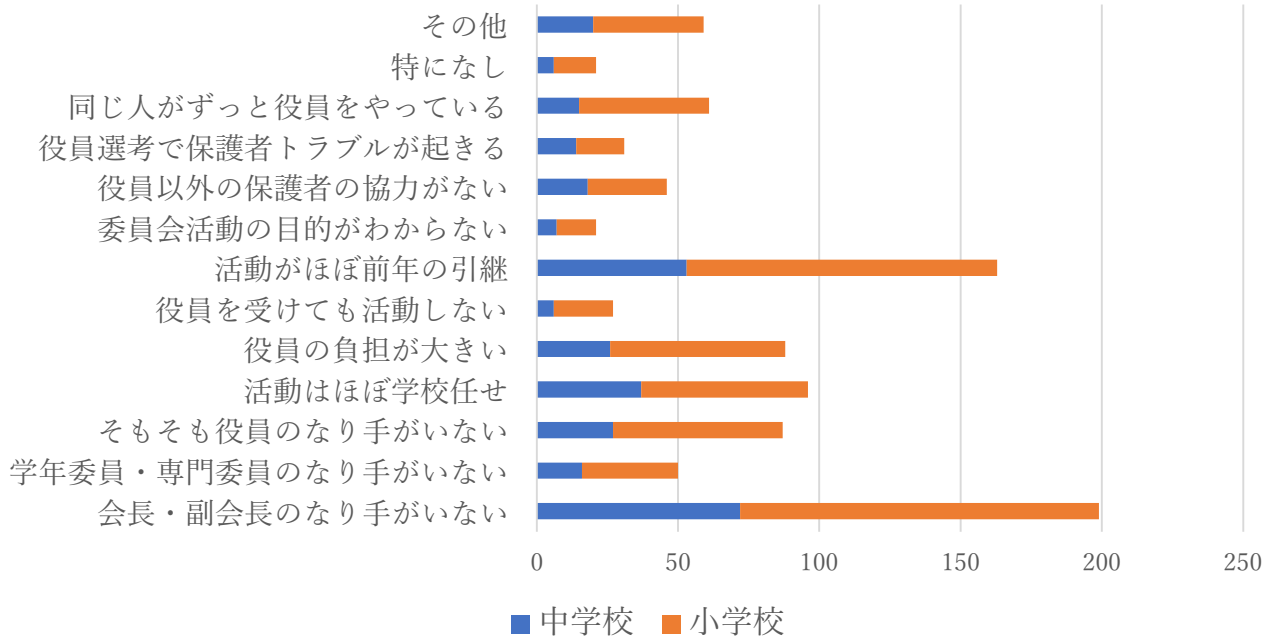
	中学校	小学校	合計
会長・副会長のなり手がいない	72	127	199
学年委員・専門委員のなり手がいない	16	34	50
そもそも役員の手が足りない	27	60	87
活動はほぼ学校任せ	37	59	96
役員の負担が大きい	26	62	88
役員を受けても活動しない	6	21	27
活動がほぼ前年の引継	53	110	163
委員会活動の目的がわからない	7	14	21
役員以外の保護者の協力が無い	18	28	46
役員選考で保護者トラブルが起きる	14	17	31
同じ人がずっと役員をやっている	15	46	61
特になし	6	15	21
その他	20	39	59



中学校



全体



小学校
PTA の敷居が高く感じている。
保護者が少ないので役員が重複している
P T A の世帯数が少ない。
絶対数が少ないなりに上手く協力している
世帯数が少なく、全員が役員
会議が多い
児童数が減少しているため、役員としての回数的な負担と、今後は役員のなり手不足も生じてくると思われる
校内の三役、専門部は推薦・立候補・くじ引き等により決める事が出来るが、市 P 連の役員を決めるのが大変苦労する。
皆さん協力的です
兄弟が多いと役員になる回数も多くなる
出来ればやりたくないと思える方が多い。何度か経験している方が推薦に名前が上がってくるので同じ方が複数回やることもある。
三役と会員との間に活動に対する温度差がある。学校職員の負担が大きい。
保護者の人数が多いため、先生や保護者間の交流を増やしていかなければと感じます。
活動がほぼ前例に従うだけ。
学校職員と保護者の仕事量のバランス
コロナ禍で、PTA 活動がほぼできなかったこと。
小規模校のため全般的な見直しが必要
人員不足のため役員をする回数が多い
会員数が少ない。
コロナウイルスの影響で活動が縮小されたためよく分からない
規模の違う 3 小学校から入学するため、分担が平等にならない。
役員の割合が急激に増えている
会長、副会長、幹事は選考委員会（三役会）が選考するので出身校以外からの人材を見つけ難い。三役内で再任することが多い
三役の選考が推薦によること
三役の任期が長い
保護者が少ない
小規模校のため、地区によっては毎年同じ人が代表になる
男尊女卑を謳う女性の圧力で男性のなり手がなくなる
先生方が協力的で PTA としては運営しやすい。負担もものすごく少ないです。ただ、行事イベントは役員のための活動で全体への波及効果は薄い。内容は魅力あるものでも他学校も含め役員のための参加となっているように見受けられる。

学年ごとに選出しており、一学年20人未満のため6年間で複数回やらなくてはいけない。兄妹がいる場合は毎年のようにやらなければいけない。
活動が縮小されてきており、会費の減額が課題です。
P数が少ないため、活動の充実が進まない。
新旧役員の引継ぎが上手くいっていない事がある。
行事を行うことが目的化していて、なんのためにやっているのかが薄れてきている
毎年、子供が減っている
実態は保護者会
コロナで活動の引き継ぎが出来ていない、委員会によって仕事量に差がある、集まりが多い
学校(一般教員)の協力が薄い。
教員の負担。生徒数(PTA会員数)の減少。情報共有の不足。連絡媒体の旧体質(紙媒体)。
児童数が少ないので全員が何かしらの委員にならなければならない。

中学校
一年交代なので継続性がない、連続で会長をやる空気もない
PTA役員が少ないので数年間連続でなる方がいる。
児童数の減少による家庭数の削減及びそれに係る組織の改編による役員数の削減
コロナで活動が少なかったため正直問題点がみつからない。
児童数減少による保護者の負担増
中学生にもなると、PTAの必要性が希薄になる気がします
会長以下三役については、地域割がありそれぞれ地域により順番に選出している。生徒の人数が極めて少ない地域については統合して対応した。
保護者が少ないが、PTAのかたにはまった事を行うのがむずかしい。
保護者数の減少
人数が少ない為すぐに順が回ってくる
同じヒトが役員とならない仕組み化を実施しました。
立候補するがクジ引きでハズレて出来ない
なり手がいなくて、みんな必要ないと思うならPTA無くしてもいいと思う
毎年、全員が役員となる
役員を引き受けてくれる人と引き受けてくれない人がハッキリしている。
役員に係る充て職が複数あること
世帯数が少ないのでやらなければならない
役員は毎年全員入れ替わるので、毎年初心者の集まりになる
役員選考以外で保護者間トラブルが多い
少子化で子どもの減少により、家庭数も減少しており、従来を選出では負担が大きい
PTA そのものへの負担感が大きい

主な問題点①『会長・副会長のなり手がいない』

【要因】

- ・保護者数（会員数）減少
- ・組織全体での役員の割合と、教職員や役員の負担が増加
- ・三役の選出が一番の負担になっている。

特に小規模校では役員の人材が固定化（役員留年）

～課題解決に向けた取り組みの回答から～

『組織のスリム化』

専門部や地区割の統合や、役員数を減らすなど、組織体制のスリム化を行った。また役員の選出方法を規約も含め変更した。

アンケート結果では、選出方法は推薦、立候補の割合が圧倒的に多く、選考委員会で協議する学校はほとんどなかった。組織の規模にもよるが、選考委員会などにより、三役の後任探しの負担を減らす検討が求められる。

主な問題点②『活動がほぼ前年の引継ぎ』

- ・役員の人材が固定化される傾向にある一方、役員や先生が入れ替わることで、活動のノウハウが蓄積されず、ゼロベースからの検討により、前年の繰り返しになるというジレンマ。

～課題解決に向けての回答から～

『引継ぎのシステム化』

要因としては、前年からの引継ぎが不十分であり、これまでの活動から得られるはずの経験・知見が生かされない事が考えられる。前年までの活動をベースに上積みしていく事が出来れば、担当役員の負担が減り、新たな事に取り組む余裕が生まれる。前年と同じことを繰り返さないためにも、逆に前年までの活動データや雛型を活用する仕組みが必要である。

※その他の主な問題点

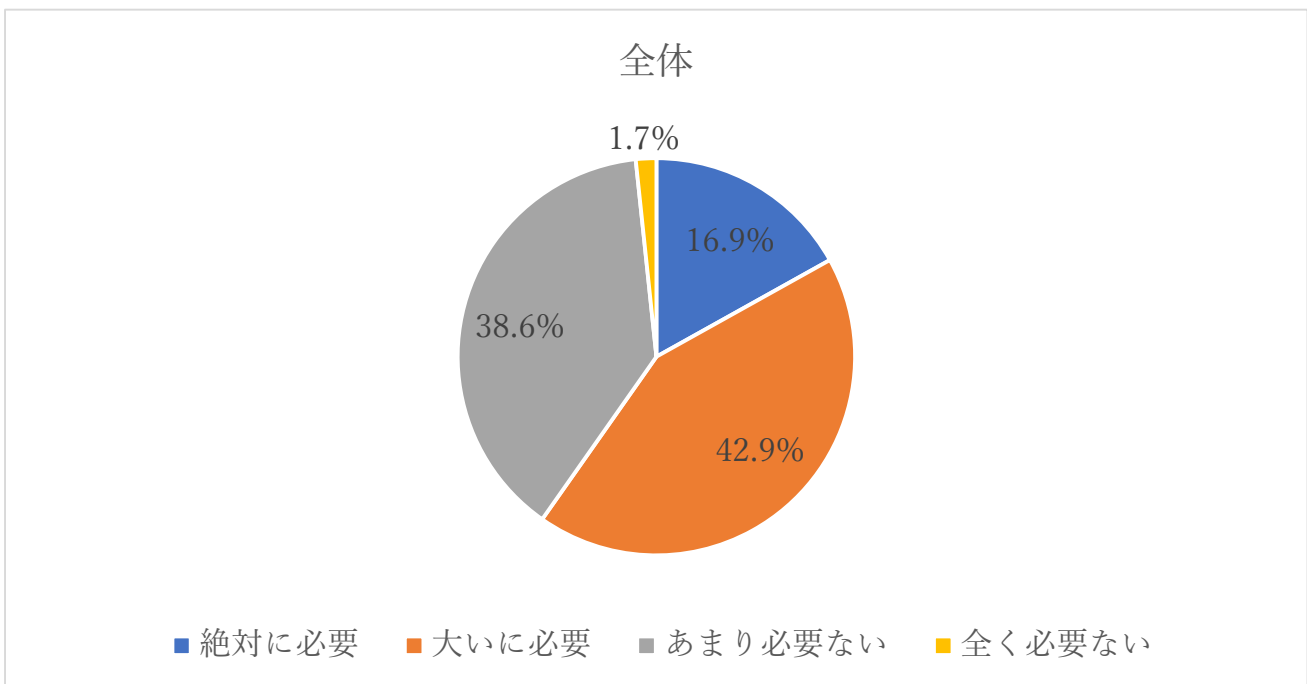
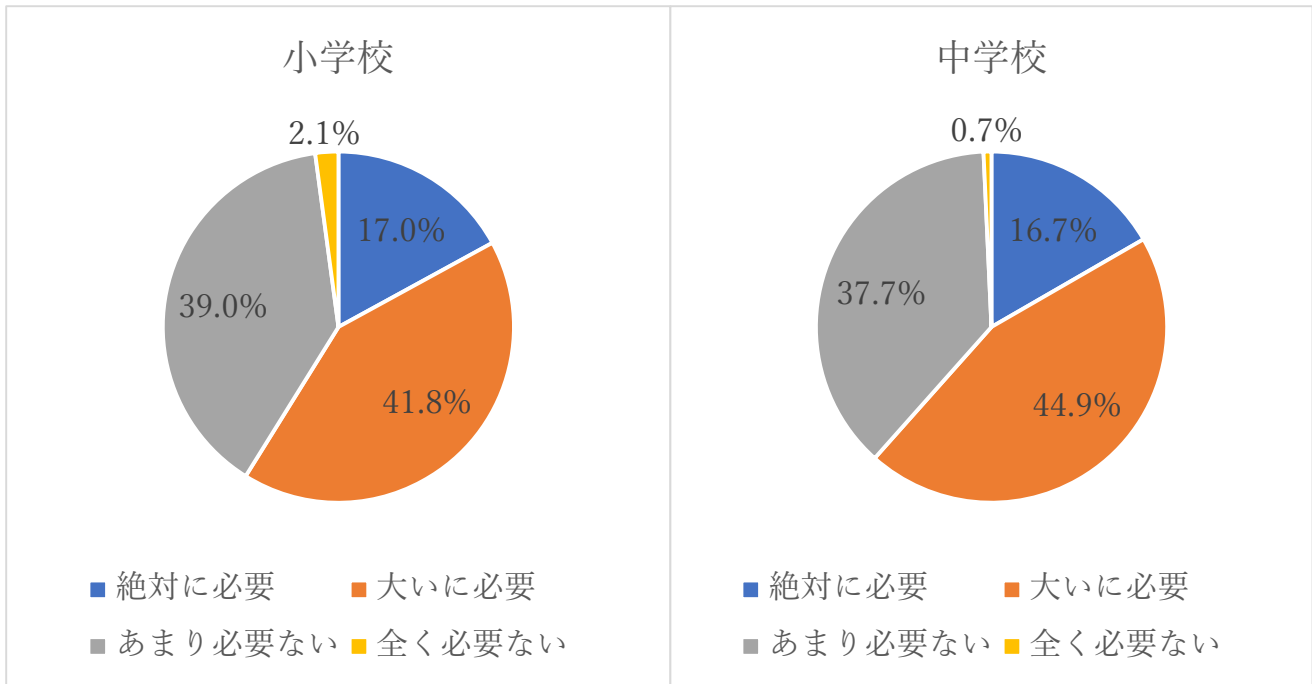
- ・『コロナ禍による活動制限により、引継ぎが難しい』
- ・『教職員と保護者の一体感』

→教職員の働き方改革・多忙化により、PTA 活動に関して教職員と保護者の連携が難しくなっている。教職員と保護者両方の立場から環境の変化に合わせた組織・活動にしていく必要。

- ・『CS の定着にしたがい、PTA 自体の意義や役割が曖昧になっている』

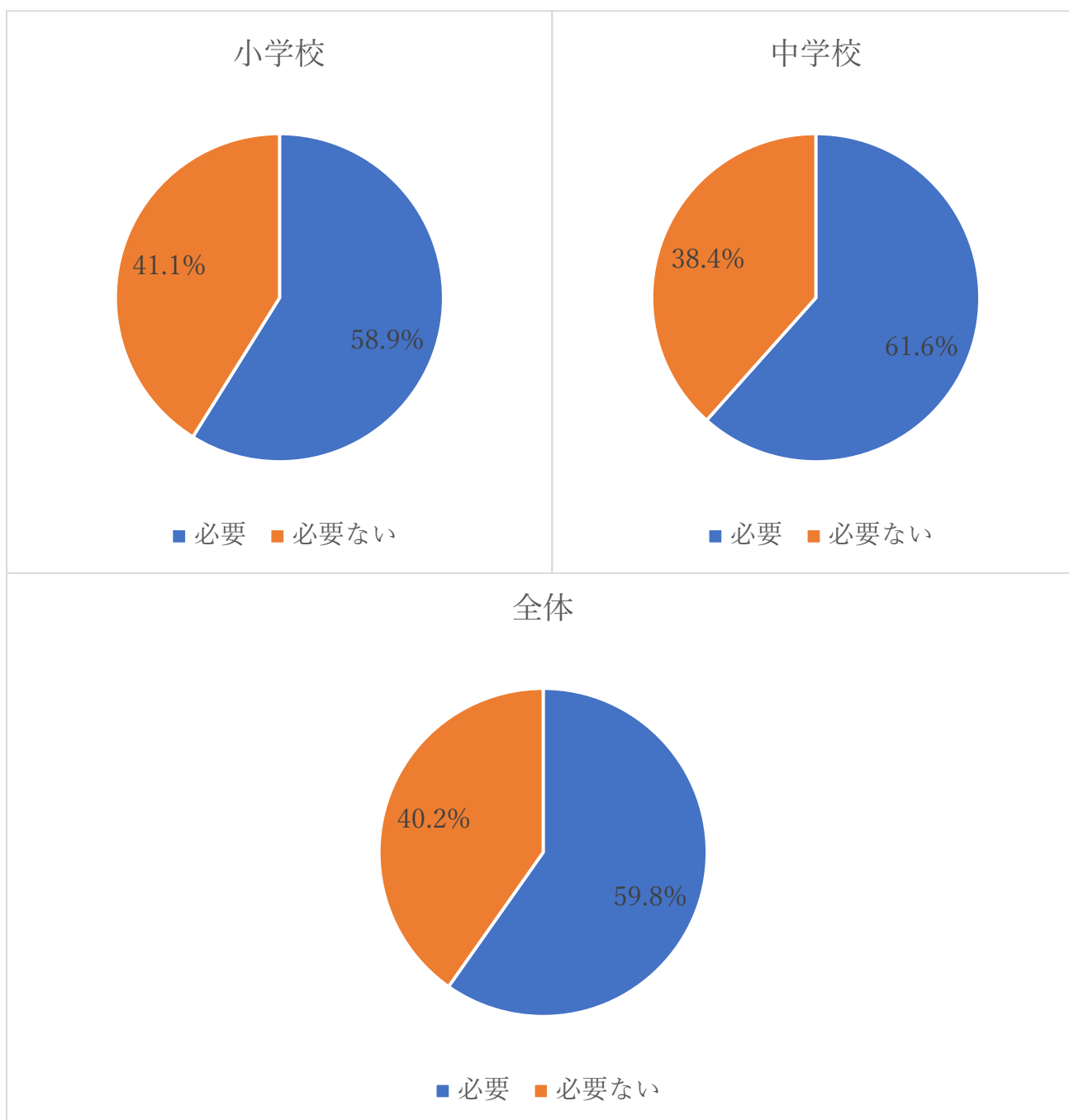
1 1、PTA の組織改革について

	中学校	小学校	合計
絶対に必要	23	48	71
大いに必要	62	118	180
あまり必要ない	52	110	162
全く必要ない	1	6	7



* 必要か必要でないかで二分した場合

	中学校	小学校	合計
必要	85	166	251
必要ない	53	116	169



PTAの組織改革について、全体の約6割が必要であると考えている。現状のPTA組織について、何らかの問題意識を持っている会長が多いと考える。が、現状改革が必要だと思ってもどのようにしていいかわからないという意見も散見され、単Pだけでなく、大きな枠組みの中でPTA組織について考えていく必要があると思う。

12. PTAの組織上の問題点について取り組んでいること

小学校
次年度の役員選考をスムーズに進められない（選出する側の役員の負荷が高い）
組織構成の見直し検討、PTA行事のあり方検討
<p>会員数の減少に伴う、活動や経済的な負担に対する効果を検証し、解散も含めた組織の縮小。その活動は、本当に子どものためになっているのか、そこに予算を付けるだけの価値があるのかという視点で理事会で協議した。</p> <p>PTA会費負担軽減。広報誌の廃止。委員会の廃止。保護者間連携のための学年委員会の活動の充実（部活動が自由加入になり、保護者のつながりがうすくなった。そのため、孤立する保護者が出ないよう、同学年内での保護者のかかわりを中心に活動を計画する）</p>
役員の人を毎回同じにしないこと。
児童減少により、保護者世帯が少ない為、役員選考が難しい
児童数が減ってきているのに役員数が多いままなので役職の統合や廃止等を検討している。
コロナにより前年ほぼ活動していないので不明
<p>情報共有の強化。連絡手段のデジタル化（ライン）。</p> <p>ペーパーレス会議の検討と準備。組織改革（役員数の減員・専門部の合併）の検討と準備。</p>
役員連絡のIT化。
委員会の統合・編成を検討中
児童数の減少のため、現在ある専門部を合併して専門部の数を減らすの
活動のスリム化として、広報誌を年1回の発行にしました。
学校への負担をできるだけ軽減させる
その都度、教職員とPTA役員が集まって協議している
活動内容の見直し
児童数減少に伴う学年PTA役員選出の見直しと改正
今後保護者数の減少を見越して、専門部を減らし、役員数を減らした。来年度より新しい役員数で活動を行う。
活動内容に対して役員数が多いので組織のスリム化を行う試みをしています
活動内容に合わせて役員の人数を見直す、PTA規約を見直す
役員選出方法の再編等
PTA選出方法は今まで町内持ち回り選出となっておりますが、町内の偏りが目立ちはじめた為、近隣校にならって高学年の保護者からの選出！と規約を改正いたしました。
<p>生徒数の減少に伴い世帯数の減少もみられるようになったため、役員を選出母体を見直した。また、専門委員会の内容を見直して5つの委員会を3つに変更した。</p> <p>さらに、男女何人ずつとの選出数を撤廃し、選出された家庭で話し合いをしてどちらかが役員をしてもらうこととした。</p>

平等な役員選出を行うこと
役員男女比率が同等になるように割り振っている。しかし、男性(男親)の参加率の低さや、各家庭で事情が異なり(ひとり親等)、例年、男性枠の選考に難儀している。現在、性別枠の廃止を検討中。
専門部を3つから2つに減らす方向で考えている
規約改正、生徒数減少に対応した組織づくり
児童数減少に伴い、今年度から専門委員会を3→2に縮小して保護者の負担を軽減
役員負担を減らすために仕事内容の見直し。今まで会長、副会長や執行部が行っていたものを他の専門部に担当を変えたりした。
役員を決める以前からある程度役員になれるような人に声を掛けておく。 LINE を利用し連絡網を密にして情報を共有しています。
現状、強制的な PTA 組織であり PTA 会員の負担や役員を定めるときに揉め事が起きる事もあり、まずは役員の人数を減らすなどを検討中
生徒数の減少に合わせた P T A の組織変更
P T A の世帯数が少ないため、学校行事の際には地域の有識者や OB の方々に声をかけ、応援してもらっている。
児童数の減少に伴い、保護者数も当然減少している。そのため、委員数を活動内容に応じて臨機応変に調節している。
今のところ特にありませんが、近い将来必要になりそうです。
全ての会議の可視化、専門委員会の活動の見直し
三役で申し送り事項を作成し、引き継ぎを円滑に行えるように取り組んでいる。
保護者もさることながら先生方の熱量にも疑問を感じます。 先生方にもこちらから要望をたくさんしています。
PTA 組織の抜本的改革 (組織の廃止・縮小)
専門委員会 4 つを 3 つに再編制しました。
集まらず LINE 等を使い、自由な時間に委員の意見を聞けるようにしている
PTA 組織内で、自発的に活動ができるように仕組んでいる。
総務委員会を開き、協議してます
児童数が少ない為、保護者が町内子供会の役員とかぶらないように決めている。
PTA 組織の改革より保護者の意識改革が必要
前問について、現状は改革の必要はないものの、児童の減少につれて必要性は出てくるものと考え る。しかし、合併前は現在より児童数が少ない中で組織体制等過去の経験は学校でも蓄積されている ところがあり、過度な不安、心配は無いものと考え
去年まで三役の選出方法が地区ごとの輪番制だったが児童数の減少に伴い、輪番制を廃止し三役に て適任者を選出する方法に切り替えた。 これにより輪番地区に適任者がいない場合への対策が講じられた。
三役になってくれる人が居ないので負担を減らすように公の場の挨拶など無しにしようとしている。

立候補者がいない場合投票になりその次に決定になるわけですが、上位1位、2位だからと言って決めない。今年度に至っては上位者数名を呼び会長、副会長がしっかり仕事を説明し相手の意見を聞いて決める方法にした。
1人の児童に対して複数回役員を担わなければいけないことへの負担感、地域の家庭数によって役員担当回数が異なることへの不公平感が会員の中にある。現在、その状況を改善するために役員数の縮減案（縮減に見合った組織の改編及び活動工夫等も含めて）を提案中である。11月中の臨時PTA総会で承認が得られたら、次年度以降、新たな組織体制での活動をすることができる見込み。
入学児童の減少に対して、学年で選出する役員の数が多く、6年間の在籍で複数回の役員をすることになってきた。そのため、令和3年度、臨時委員会を組織し、PTA専門委員の内容の精選と、委員数の削減を目指して活動を始めた。
親と先生、PTA役員との間に温度差がある。
何かあれば、臨時三役会を開く事になっている。
今年度より、会長職をなくしました。学校代表として1～3学年委員長が担っています。その中の代表が3学年委員長です。
会員減少に対応した規約変更を協議している
副会長を選考委員会ではなく、1学年、3学年より各1名ずつ選考してもらうように改革中です。
いままでは会長と副会長の選出枠はとくに固定されてなかった為に推薦するにも誰が適任なのかが分かりにくかった。 今後は会長は何年生の親から選出するなど枠を固定したため、推薦しやすくした。
令和4年度より専門委員を4→1に改変
毎年改正を行っていて今が考えられるうえでベストな形になっています。
投票により連絡を上位から順に電話連絡をやめ上位五名を呼び出してその中で話し合いに今年度から変更になる。
本部のなり手がいない。コロナ禍で行事も無く、保護者の顔が見えないため、選考の場に名前が出ず、結果ここ2年留任となっている。今年度から専門委員会の活動について負担が均一になるよう見直しをした。年度末で検討、更なる見直しをする予定。
児童数の減少に合わせて、役員数や組織の見直しをしています
推薦
三役間の連絡方法はLINE。また理事会は早めに終わるようにしています。必要事項をサクサクと。
役員数を減らす為に、副会長3名は各部会の副部長も兼ねる様にしている。 会議の回数を極力減らし、役員の負担を減らす様にしている。
役員選考方法のルール化、委員会の統合
夜間に開催される各種会合への、学校職員の参加を減らしている。
役員のなり手探し。専門部長（広報部長）の負担が大きい。
児童数に比例して家庭数も少なく、1年生の保護者から役員になります。しかし、すべての保護者で協力、相談し合いながら楽しく活動できています。

母親の負担が大きく、父親の参加が限定的
学年毎の役員人数調整。召集回数の縮減。 ZOOM、OneDrive、Time tree 等の活用
現在は、コロナもあり活動自体、十分な活動が出来ていない為、取り組めていない。
児童数が少ないため保護者が必ず何らかの組織に入る
2 委員会の内、1 つの委員会が奉仕活動(年 2 回)、運動会運営、ブロック交流会の運営など仕事が多い事が問題で、仕事を分担できないか検討中。
専門委員会が 2 つしかなく、各地区にいないため、危険看板設置等の地区ごとの活動が厳しい。専門部以外の人にも仕事を依頼し助け合っている。児童減少に伴い、家庭数も減少し、活動が制限されている。
後援会費を回収する組織の整備
会長等三役の選出方法を見直した。また、専門委員の母体となる地区委員の選出方法、人数 も見直し中である。
年々児童数が減っているので、今後、役員の人数を減らして運営してみる。
PTA 活動自体が閉鎖的になっていることもあるので、オープンな活動を行うことを目的としている。本部役員が率先して活動し、保護者の協力を得るようにしている。
先生、保護者間の交流が課題と感じますが、コロナ禍により、できていないのが現状です。
PTA 活動をわかりやすく説明できるようにする。
入学時に 3 年間の役員決めを行う
引き継ぎ書のようなものが無いので自身の経験から仕事内容について作成している
今回、回答した内容は令和 4 年 3 月 31 日までのものです。 令和 3 年 10 月 12 日に PTA 会則並びに PTA 役員選出規定を一部改定し、令和 4 年 4 月 1 日以降より施行されます。
今年度 9 家族になるのを機に三役と学年委員だけにした。
組織の効率化を図り役員負担を軽減しなり手を増やす為に規約の変更など行っています
規則、細則、3 役の選考方法を変更した
コロナ禍の活動の縮小や休止で、専門部を休止して役員数を見直し削減又は調整中。
活動内容の再検討
役員負担軽減、会議費として 1 回 5 0 0 円の支給、会長・副会長職の廃止の継続
PTA 活動アンケートをとり、PTA 働き方改革とし体制や活動を大幅に変更。今後のコロナ状況と町の出生率を踏まえ、少子化・地域過疎化に伴う規約及び運用規定の改正を行った
専門委員の精選、活動の見直し
児童数、保護者数が減っているが、組織改革を行い、工夫をしながら会計的な面も前と同じようなくらいを確保できるようにしている。また、地域の人達を巻き込むようにして、一体となった PTA にしていくようにしています。

一人の子どもにつき、卒業するまでに必ず1回は役員をやるという規定に基づいて、組織を維持すること。
いかに保護者主体の活動にしていくか
専門委員会の見直し
専門委員会を次年度から3から2へ1つ減とし負担軽減を図る
PTA活動を明確にしスリム化する(狙い・必要性など)
市P連・県P連の役員をPTA三役から選出することがおおあった。(執行委員会で選出方法等話し合いをし、立候補を募るもほぼ立候補者がいないため) PTA細則内に、役員選考に関する条項があり、輪番制の市P連・県P連役員を三役選考時に増員して選出できるように変更を検討している
PTA役員数を減らすために現在2名の副会長を1名に変更する 2つある専門委員会を1つにまとめる
世帯数が少ないために、専門部やその他役員を兼任して補っている
役員を決める方法を地区制から三役がふさわしい人を地区制に関係なくピックアップして内諾を得る形式に移行した
コロナ禍でPTA活動がほとんどできないのが現状。それでもやっつけているので、PTA活動の意義が問われる。PTA会員が意欲的に活動する仕組みが大事だと思う。しかし、やればやるほど職員の多忙化につながってしまうのも問題である。
PTAで意見交換をして、問題点の共有と今後組織内の改善をしていく予定
あるきまった人員でPTA活動が行われていたため、かわりのない保護者の方は義務教育の9年間、関係を持つことなく終了している。そのため、PTAに携わる機会を多くする仕掛けづくりが必要だと思う。小中PTA連携して「PTA参画プロジェクト」みたいなものを考えていく地道な活動が必要だと感じる。
次年度の学校統合に向けての準備 役員が女性ばかりなので男性の参加を働きかけている
役員の人員削減
役員が楽しく負担なく参加できる体制
コロナで子供と触れ合うこと、集まってもらえない
役員が積極的に、PTA役員になることのメリットを役員以外の保護者に伝える。
PTA役員と保護者の間に情報の不足がある。コロナ禍により、PTAの交流・情報交換の場が少ないことも背景としてあるが、PTA活動に参加・協力してもらえるPRが必要
総務委員会ですぐに見直すことと中長期的な課題に分けてできることがから無理なく進めようとしている

<p>三役になってくれそうな人に早めに声掛けをしている</p> <p>専門部の仕事の内容をわかりやすくする</p> <p>平日の日中に活動があるので、参加できない場合は別ことをしてもらう</p> <p>1年ではなく、できるだけずっと役員をしていただいている</p>
<p>現在取り組んでいることはないが今後取り組む必要があると感じている</p>
<p>教職員が決めた行事に添って行うことなく、役員決定して行事を行いたい。</p>
<p>PTA 活動の内容そのものが良く理解されず避けられている感じがある為、必要であれば活動内容を共有し、PTA 活動の全貌を掴んで頂き身近に感じて頂く。</p>
<p>組織のルールを理解できる方を途用できる雰囲気になってほしい</p>
<p>コロナ禍で各委員会の活動が制限する中、児童減少で PTA の人数も減ってきているので各委員会の人数を減らしてはどうかと議題にあがり来春に規約改正に向けて話しはじめています。</p>
<p>児童数が少なく、PTA 会長になる率が高いことから、PTA 会長選出に当たっては、「未経験者を優先する」を規約の申し次ぎ事項に追加しました。(今年度から)</p>
<p>来年から専門委員と学年委員を廃止することで進めている。</p>
<p>三役選出がここ数年難航し、新役員の受けてがならず、役員留年が多くなってきたことから、数年前の PTA 役員を務めた方から、規約に明記はしていなかったが、三役は 1、2 年生で終え、3 年次は役員仕事なく子供の卒業と同時に学校を卒業できる工夫をしていた事を聞き、中学校区の小学校の PTA 会長宛に今年度卒業となる保護者の方々から中学校入学後の三役（役名、人数）の選出依頼文を送付するなど取組中。</p>
<p>地域の生活指導部員の選出について、子供会を母体にしていた地域があるが、子供会を退会する世帯が増えてきたことから選出が困難になってきた。学校として選出の在り方を探っている。</p>
<p>児童数減少に伴う家庭数の減少</p>
<p>役員の選定の際に進んでやってくれる人が少ない。児童の人数が少ない校区の保護者の負担が大きい →これらを解決するため来年度規約等を見直しスムーズにできる体制を整える</p>

<p>中学校</p>
<p>役員数の改正（役員を減らす）</p>
<p>慣例行事や活動の廃止や縮小などの見直し</p>
<p>今後、令和 4 年度に向けて、活動内容の精査と組織の見直しや規約の改正を行っていく予定です。</p>
<p>専門委員会を減らす、役員を少なくする</p>
<p>負担軽減</p>
<p>保護者数減少に伴う、役員数、活動内容の改革。</p>
<p>選挙規定の改正</p>
<p>家庭数の減少に伴い、今年度役員の数減らし、その分活動内容も精選しました。PTA 総会やアンケートで意見を募り、十分議論して改定しました。来年度から新体制で活動をする予定。</p>

三役の負担軽減ができないか検討中
人数の少ない地区を統合する
引継ぎの役割の軽減。行事の中止や簡素化。 コロナ感染対策のため役員決定を投票方式に変更。
組織の改編と役員の人数削減
生徒の数が少ないので役員を減らした。
1.学校の働き方改革に伴い、会議等の開始時間を早め、会議等にかかる時間も短縮に努めた 2.ペーパーレス化へ出来ることから移行する
当校では、保護者全員に各専門委員会に所属していただき、PTA 活動に関わって頂いています。 その中でも、正副委員長、学年委員の負担が大きく、なり手が少ないことで、毎年役員決めが難航していました。 しかし、コロナ禍で、昨年度から学校行事の縮小や中止に伴い、PTA 活動もほとんど出来ない状況となり、せっかく全保護者に所属して頂いている各専門委員会も、ほとんど活動できない状況です。 これらの状況を踏まえ、以前からの問題点も鑑みた上で、来年度から専門委員会の数を減らし、全保護者の委員会所属をやめることを決定しました。 新たに少ない人数の役員を選定するに当たり、在校期間に1度は役員をして頂く、過去に三役や正副委員長経験者を免除する等、細かく規約を制定しましたが、来年度の役員決めがどのようになるか、また今後の問題点が出てくるかと思しますので、その都度協議、対応していきたいと思っています。
会長及び役員の選出方法の改定
PTA の働き方改革、専門部の改善、統合
専門委員会の削減
前例踏襲の考え方から脱却して、現在の環境にあった活動内容に簡素化、「誰が役員に指名されても出来る」体制にすべく声を挙げ、自身が実践することで次世代の役員へのハードルを下げるようにしています。
会議の時間短縮、回数短縮
なるべくみんなが均等に役員になるように協力しあっている。
副会長をした場合次年度は会長をするという意識を持ってもらう。 幹事を会長が任命していたが、副会長同様に選考委員に願います。
全 PTA 会員の中から2年任期副会長(次年度会長)、1年任期会長を選出されるため、毎年会議を持ち、立候補を募るがなかなかやる人が出ない、事前にその対策として、三役が適任と思われる方を事前に打診をして内諾をとっておく。当日立候補者がいない時はその人を推薦し参加者から承諾を得る方法をとっている。
令和3年度中に三役選考方法や任期などの会則変更を行った。専門委員会を3つから2つに減らした。 令和4年度4月より実施予定

<p>任意団体であるPTAの立ち位置を鑑み、加入制として、規約を見直した。在校生保護者に改めて加入確認を取り直し、99%の加入となった。また、新一年生に対しても移行学級の際に丁寧に説明をし、100%の加入を得た。</p> <p>今後、加入者と非加入者とのちがいを明確にするとともに、学校とPTAとのすみわけ方、活動の在り方を再構築していく必要がある。</p>
<p>児童数が減っているため、いずれ組織の見直しは必要と感じている。</p>
<p>副会長に比べ、PTA会長の負担が大きい。通常のPTA活動の他に、来年度に周年事業があるため、PTA会長が夜の会議に出席する機会が多くなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベルマーク集計や体操着のリサイクル販売等、保護者ボランティアによって成り立っている。
<p>スリム化</p>
<p>コロナ禍では集まることは必要最小限で三役の話し合いはLINEを利用した。</p>
<p>会長選出に当たっては前任者からの指名（三役以外から）だったが、過去の運営状況がわからないことや、なり手がいない事など大きな問題があった。</p> <p>今年度このような事態を受け、5年後の更なる少子化を視野に会則を変更し役員選出規定を新たに設けた。主な内容は選考委員会を立ち上げ（学年委員長）、第3学年の保護者から次期副会長2名を選出し、1年後に副会長から会長に内部昇格させる仕組み。</p> <p>副会長の選出は立候補を優先し、不在の場合は推薦により選出。</p>
<p>PTA会長ほか三役の選出に関する内規を作成し、学年全体でスムーズに決まるよう現在勤めています。</p>
<p>先生と協力し活動</p>
<p>小学校のPTA三役は推薦などである程度適性を踏まえて選出し、本人の同意をもって決まるが、中学校は各学年から1名ずつ選出し、1、2年時副会長、3年時会長と自動的にになっている。三役はハズレ職の印象も強く、知らない人ほど避けたがる職のため、くじ引きでの選出になりがち。三役をやることの良さ、PTAという組織・活動がよくわからないことが課題と感じる。また、会長任期が1年なことでも良い面もあるが、今年度当番校で新発田市PTA会長の任があり、何もわからない状態で任につくことになった。そういったことを考えると選出方法はある程度適性を踏まえた推薦や指名が良いと感じ、選出時期には適正ある人に声をかけ、立候補を促している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動がほぼ前年の引継でなかなか新しい活動やイベントが生まれない ・敷地が広大で環境整備に遅れが生じているが、環境整備活動日を増やすことができず、地域ボランティアの方々のご厚意に甘えている。その為PTA全体のボランティア意識を高める目的で、今年「おやじの会」を発足させた
<p>生徒数の減少に伴う役員組織の改変</p>
<p>【作業の分担、作業量の軽減に努めている】コロナ禍ということもあり、大人数で集まる会議など減らせるものは減らした。また、今まで委員長・副委員長ともに出席だった会議を委員長のみにしたり、委員長がやっていた作業を副委員長に任せたりなど作業を分担している。会議の数や出席者を減らしても運営にそれほど支障はないように思うので、コロナが落ち着いても負担を減らせるものは減らしたままでいいのではないかと考えている。</p>

同じ人がずっと役員にならないように、任期や選出方法を見直し、改正する方向にある。「任期は1年とし、再任は妨げない」「三役は別として、再任されない」など、規約も改正する予定。
三役の決め方をルール化できないか、検討中
PTAのイメージが悪い・不透明な部分が多い→見える化を意識 (・ボランティア募集→4月の総会資料に年間通してのボランティア予定を案内 ・学校HPの「校長室より」で写真付きで活動報告して下さる ・修学児健診で各委員の大まかな活動内容紹介)
児童数保護者数の減少に伴い、組織変革
役員の数減らした。
役員と各委員会、学年代表のつながりを強化するために組織編制を考察している
コロナウィルス拡大の為何も着手出来ておりません。
PTA会則の改正を行った
従来は現役員が次年度の役員を選出する流れがあったため人選の偏りが発生し役員をやりたくてもできないような流れだったため、役員の出候補を受け付けることにした。会長、副会長に関しても同様にまずは立候補の受付を行った
保護者、教職員の負担軽減を目的とし、令和4年度に組織、活動のスリム化を図る。 具体的には、委員会を削減し、役員の人数を減らす。それに伴い、活動も精選する。
専属のPTA事務局(保護者)が事務作業に従事しているが、PTA三役との効率的な業務分担を模索している
学校統合についてPTAとしての取組や、今後の進め方について検討中 小規模校で、児童世帯数が少なくなっているが、役職数は変わっていないため役職数や人数を減らし、PTA組織の見直しが必要と思われ今後検討する
各専門部を減らす。PTAの活動内容を保護者宛にお便りを出し理解してもらう。解決できそうな問題は先送りにせずすぐに取り組む。いつ問題提起されても良いように学校の連絡を密にとる
児童減に伴い、PTA各専門委員会の統合や活動のスリム化を検討している
あまり仕事がない委員会の人数を削減した
役員を決めているときに、その時に決まるように決定権のある方に来ていただき、話し合い、納得して決まるようにしようと会長が進めている
専門部の活動内容の見直し
会員数の減少に伴う組織の見直し
PTAの役員は「難しい事ではない」とアピールするようにしている。学校と協力して、保護者に、疑問点や不安点(例えばウィルス禍における学校行事の運営等)を解消していただけるよう、丁寧に説明するようにしている。

1 3、過去に PTA の組織上の問題点に関して解決した事例

小学校
専門員会の新設・統合など、実体に合わせた組織の見直しが何度か行われた（学校からの要請もあったようです）
学校側の安全対策が、イマイチ
代わりの人が見つからず何回も同じ人が役員をしていたが、役員の履歴を残して児童 1 人に対して 2 回以上の役を担うようにした。また、三役に関しては 2 年連続で三役を担えば児童が何人いても役員を免れるルールを決めた。
コロナにより前年ほぼ活動していないので不明
正副会長の選出について、各地区単位から各学年単位に変えた。 （地区単位だと、児童数が違いすぎてバランスが悪かったため）
会長、副会長などの重要ポストが決まらず夜中まで難航したことがあり、現在では 3 地区での持ち回りで選出する方式にしている。
執行部のみ SNS でやり取り。急な案件も LINE で情報共有を行っている。
PTA 会長の選考に揉めた過去、高学年部の総務委員より、PTA 会長を選出した。更に任期を 1 年間とし、ルール化したこと。
学年 PTA 役員選出の見直しと改正の承認
夏休みのプール解放を廃止した。保護者数が減る中で、毎日の監視員を確保することが難しいため。監視員の日程表作成も、夏休み前に調整することが負担であった。
専門委員の統一化で、3 から 2 に減らした
専門部を決める順番を変えた
学校まかせだった仕事を一部ではあるが PTA が行うことで、自分たちの活動としての意識は生まれていると思う。
P T A 活動を縮小したこと、役員数を減らしたこと
会長を選出する際、以前は指名制だったが、該当する学年の保護者全員で選出方法などを検討することにした。
今年の役員がそれなりにすぐに決まった事。
役員数を減らした。委員会を統合した。
P 会員の減少により、専門部の広報を別の専門部と統合し、役員数の負担軽減を図った。
上記同様児童・保護者の減少により、今年度より三役の人数を 6 名（会長 1、副 3、幹事 2）から 4 名（会長 1、副 2、幹事 1）にした。※前年度の総会で承認。
学年行事はなるべく講演会ではなく体験型行事にしてもらった。親子で工夫しながらなることは大切と思う。

お金の保管が個人で保管していたが、専用の口座を作りました
○地域コミュニティ担当者の選出について 各地区コミュニティに訪問、センター長と面談しヒアリング結果を三役会で議論し評議員に説明し納得してもらった。
直前で問題がおきないように、3年先の役員を決めている。
人員整理
役員のやり手が少ないのに加え、委員会により負担に差がかなりあるために見直しをし、今年度から委員会数を減らし、仕事を見直し保護者役員の負担を減らした。 各委員長と会長はメール、ラインなどで全員つなぎ困りごとがあればメールや会って話を聞き解決してきました。直接連絡できるところで、不安なことや意見が言えてありがたいと言ってもらえています。
・副会長（2年次）→会長（3年次）の方が体調不良により、役員継続が危ぶまれた時に、新たに庶務という役職を作り、三役が不在になった場合の交代の方を選出した。 ・市P連の役員を三役とは別に選出した。
今後の生徒数減を見越して、必要役員数を減らした。
役員選出方法の明文化、役員数の減少
世帯数が減少したので、現状にあった規約の改正を行った。
規約変更（専門委員の削減）を実施したが、更なる対応が必要になっている
業務内容の見直し等により、役員の人数を減らせた委員会があった。
イベントを企画した際、スタッフなどの協力者をいままではそれぞれの委員にお願いしていたが、関心はあるが立场上無関係なため参加できない保護者がいた。 それを解消するためにスタッフ募集を全保護者をお願いしたところ、かなりの人数が集まった。
専門委員を2つ廃止し、残り2つを統合し役員数を減らす事となりました。
毎年多くの提案を募集して日々組織や選出方法などの改正を行っています。時代に意思決定と行動力が求められています。今が考えられるうえでベストな形になっています。しかし以前は会則については総会で議案を提案して議決しなければならず、しかも施行は来年度からというように改正のスピードが遅く組織や社会情勢の変化についていけていませんでした。
三役の負担を減らすよう任期を2年→1年に変更した。が、なり手の不在は変わらない。
推薦されれば皆さん納得してやります
専門部の廃止
児童数(保護者数)の減少により、地区役員、地区ブロック長等の廃止、学級役員数や副会長数を変更し、役職につく人数を減らした事により、2度3度と役員をやらなければならない人が減った。
家庭数の減少に伴い、専門部を1つに統合し現在はスムーズに活動できています。
三役選考をほかの役員同様にくじなどで決めていた時期もあったようだが、今は一本釣り。しばらくはそれでうまくいっていた(商工会などのツテで探していた)が、今はまた難航している。
活動の簡素化・効率化、活動日数の縮減、

合併後、多くの情報を得る為と素早い情報伝達の為、旧学校地区それぞれから二役会役員を選出するようにした。(今も継続中)
くじ引き、じゃんけんでの二役の選出をやめ、立候補、推薦での選出に変更した。
PTA 会長は副会長が次年度就任すること、会計監査員は 6 年生の学年委員が兼務すること
家庭数が減少したため、専門部の活動を見直し、3 部門から 2 部門に減らした。
地区委員数の定数を減らしたり、少人数地区同士を統合して役員を決めたりした。
会長、副会長の選出方法を見直し、4～6 年の学年の代表者 1 名を選出し、その 3 名が三役になることとした。3 つあった委員会を 2 つにし、役員の負担を分散した。
役員数を見直し、減とした
選出用の名簿を円盤状にして上下の人を選ばれにくくした
しばらく三役選考をアンケート方式でやっていたが、推薦理由を書かず名前だけを挙げ、「理由もわからず選考会に呼ばれる」、「嫌がらせで名前を出されたのではないか」と言う意見を聞いた事があり、その後、必ず記名・理由を記入するよう記載したら推薦される方もなぜ選考会に呼ばれているのか納得してもらえるようになった。
解決には時間がかかる事なので、長期的に取り組むことが先が見えると考えている。
2 年前に、役員の回数と負担を減らす目的で委員会の見直しをした。
不公平感を無くす為に、6 年の中で必ず 1 回委員会に参加する事
役員推薦委員会の規約を変更し選考委員の負担を減らすことができました
専門部を統合した。
昨年度規約を改定し、小規模の実態により合わせた形にした
①児童数の地域格差があるため役員定数の割合を変えた。 →世帯の多い地区からは多くの役員が、少ない地区からは少ない人数ができるようになり地区役員を出す負担は減った。
②暗黙のルール、役員になった人しかわからないことがありすぎるので運用規定に組み入れた。 →役員の業務や充て職、PTA 連合とのからみ、役員選出の基準ほか、PTA 活動の透明性をアピール。など
委員数の削減、活動の見直し
今後の児童数の減少を見込み、 本年度から専門部を 1 つ削減し、3 つで活動。 保体部、広報部、生活補導部とし、教養部を削減。
地域委員の人数の見直し（地域ごとの生徒数の変化）
児童数減少による役員の重複をなくすため、委員会の中で活動が少なく統合できる部署を統合し、役員を削減した
会員数の減少により小学校と中学校の PTA を統合した
昨年より、PTA 役員を地域からではなく、学年内で選ぶことにした。また入学前の 1 月に 3 年間分の PTA 役員を全て決めることにした。毎年 PTA 役員を決める手続きが省略でき、職員の多忙化軽減となった。

役員の人員を削減して、保護者の役員の回ってくる回数を減らした
専門委員会の発展的解消を行い、担当者の負担軽減をはかった。
会長負担を減らすために、副会長の体制を強化。総会、委員会の負担軽減のためのチーム活動。
三役を任期三年間から二年間に変更しようとしたことがあるようですが、現在は元に戻してうまくいっています。
三役選出を現職が公認を探すところから地区ごとに選考委員会を開催し互選するようにした
地域ごとに家庭数の差が多いことから各地区から専門部長を選出をしなくても良いように会則を変更した
役員の数をも6名減らした。PTA 副会長を3名から2名に減らした。
専門部の数を減らし業務内容を精査した
前年度の約の有無関係なく会長は二年というルールを副会長を1年、次年度会長を1年に変更
来年度の副会長が中々決まらない中、PTA 活動の内容を共有し、想像よりも活動が大変ではない事を理解頂き、役を受けて頂くきっかけを作れた。
上記に関連しますが、我がPTA 役員改選の総会が5月末日に開催されるとなっているため、3年次に会長等を務めた際は、子供が卒業しても、保護者は中学校に通わなければならないことから、運用で1、2年次で三役を終えられるように工夫して問題を解決していたとの事です。
会長・副会長を2年、4年の保護者を対象にしていたが、その学年を待たずに立候補したい方もいるため、1～4年を対象にした。
バザー等の調理を外部委託
プールの監視を取りやめた
学校とPTAの行事を2つ同様なことをしていたのを1つにまとめた

中学校
PTAの任期を男性も2年制に変更行い、PTAのなり手の確保に努めた。立候補制の導入を行った。
組織を縮小した。(前は専門部があったと思うが現在はない)
保護者母数の減少に伴い、専門委員会の数を減らし、事業を精選した。また、学年委員と専門委員の役員を兼ねて、役員定数を削減させた。
人数不足による同一家族の役員選出方法の改善等
役員削減、役員選出を学年から一本化【以前は地域からの選出も有り】、事業見直し、6年間の一人一役制、二役以外任期一年
役員選考を地域ごとに挙げていたが高学年からの選出に変えた。
児童数減少に伴う役員数の減
専門委員会は実態に合わせて統廃合が行われている(過去10年ほどで2回あった)

<p>文化祭のバザーの中止と PTA イベントの中止、広報を年 3 回から 2 回に変更 運動会の半日による PTA 種目の中止、プール開放を中止して体育保護者の監視および研修の中止。揉めなくなったが、学年部長の負担が大きくなった</p>
<p>1.三役選出において、学年別の制約廃止や連続任期の制限、免除規定を設けること 2.地域の児童数に応じて地区別役員数の増減をした</p>
<p>数年前ですが、役員選考委員会を常設とせず、臨時の委員会に変更、正副学年委員長に兼任していた だくことに変更し、専門委員会の数を減らしました。 この流れが定着し、現在も継続しています。 が、3、5 年生の学年委員(副学年委員長となるので、役員選考委員を兼ねる)のなり手が少なくなる、 という新たな問題点もでてきました。</p>
<p>必要性の無い、あるいは優先順位の低い活動は会長の判断で廃止することを提言し、実行することと しています。 また、前例踏襲からのムダを洗い出して、不必要と判断するタスク、就業中の企業への犠牲を被るイ ベントやタスクはその優先順位を検討したうえで、行わないことを事前に伝えたくて実行していま す。もし、そのようなやり方に不服とする保護者からの声が多数あるのであれば、PTA 会長役の罷免 を受け入れる覚悟でおります。</p>
<p>児童数の減少により会長・副会長の対象になる保護者も減少している為、3 名いた副会長を 2 名に減 らした。</p>
<p>くじ引きで偶然的に決めてしまうのではなく、あくまでも会員同士の話し合いで決めてもらうよう PTA 会員に理解を求め行っている。</p>
<p>専門委員の統合</p>
<p>学年 PTA 行事廃止</p>
<p>今年度より内規を作成し、試みている最中です。</p>
<p>PTA の人数が減ってきているので規約改正をしてスムーズに活動できるようにさせた。</p>
<p>PTA 会長他三役決めを、2 学年終わりまでに当該学年で話し合いの上決定しているが、以前は約束の 日(平日夜など)に学校に集まって話し合っていたが、当日に来なければ免れたり、母親が出席して断 る人が増えるなど不平等な面が多く揉めることが多かった。それを運動会当日、閉会式後に集まって 決めるようにしたら、父親も大抵参加するので不平等さは減り、限られた時間で結論を出すので以前 よりはマシになったと思われる。</p>
<p>生徒数減少を鑑みた将来的な役員数等の組織変革を内定</p>
<p>会則が形骸化していたため、令和 3 年度に改正し、活動を精選した。旅費等の規定を整備した。</p>
<p>各委員会の委員長と副委員長を決めるのに今までは全員が集まり話し合いのうえで決めていたが、話 し合いでは積極的に受ける方は少なく決めるのに時間がかかっていた。そんな中でコロナ禍になり大 人数で集まることを避けて、委員長と副委員長を決めるのは PTA 会長が副会長など三役の前で文句 なしで公正に抽選によって決めることにした。 直近二年連続この方法で行っているが特に問題はなかった。</p>

<p>三役を2年継続すれば、その後、下の子が入学しても、半永久的に役員履歴がつくよう、規約を改正した。</p>
<p>世帯数の減少により、専門委員会を3つから2つに減らした</p>
<p>今年度 見える化にしてみても、PTAの意識が変わった(思っていたより そんなに大変ではない。ボランティア等々で 分担できる。敷居が低くなった。自分でも やれますか?)と 言ってくれる方・立候補される方が 例年より増えた</p>
<p>案件の都度、先生方と話し合いの場を設けている。</p>
<p>選考委員、現役員の負担の軽減と次年度役員の人選の偏りを少なくすることができた</p>
<p>前年度まで「学校応援隊」という奉仕作業面を中心とした専門部があったが、本年度、PTA三役会がその業務を兼ねることで、組織の改編を行った。</p>
<p>全保護者の人数に対して専門部の数が多く、保護者の役員負担が大きかったため専門部の数を減らした毎年役員をしなくてもよくなるように、今年役員をしたら来年は立候補をしない限り役員にならなくてもいいという制度を作った</p>
<p>平成30年度にそれまで本部の計画で行ってきたPTA研修旅行を廃止し、活動のスリム化を図った</p>

14、PTAの組織について思うこと

小学校
時代に合わせた活動を目指すには、少しずつ改善していく（心がけていく）ことが大切だと思う
<p>コロナ禍で縮小気味のPTA行事だが、子供の将来のためになるPTA活動に向け、以下の仮説を立て活動することでより良いPTAになっていけると考える。</p> <p>仮説①保護者と教職員がPTAの目的共有をすればより実のある活動ができる</p> <p>仮説②教職員の負担減を考慮した活動を計画すれば、保護者と教職員が一体となった活動が可能になる。</p> <p>仮説③役員が短期入替えのPTAは、過去の活動経緯を受け継ぐ物があればよりよくなっていく。</p> <p>①保護者と教職員がPTAの目的を共有する場に欠けていることが問題である。何のためにその活動(行事)をするのかという「目的共有のための話し合いの場」を設けることで活動の必要性や目的が理解され、より良い活動につながる。</p> <p>②教職員は業務多忙でPTA業務に時間を確保できないことが問題である。これは、PTA組織の問題を超えているが、PTAとしては、教職員が何に負担でどんな業務が積み重なっているかを知る必要がある。その上で、負担とならない活動を考えると、保護者と教職員が一体となった活動が可能になる。</p> <p>③役員が短期で入替わるのに、過去の経緯を引き継ぐシステムがないため、毎年ゼロベースで検討または、前年の繰り返しという状態に陥っている。これは、単純に、過去「どんな場面をどのように判断したのか」や「活動後の次回に向けた改善点」を残して引き継げば解決する。</p> <p>PTA活動は子供の将来に影響を与える重要なものである。保護者と教職員が目的意識を持って一体となって活動すれば、より良い影響を与えられると信じている。</p>
<p>特に若い世代ですが、PTAは「任意加入」ですね？という考えが強く、仕方なく協力している保護者がいるのが現状です。</p> <p>当校は小規模で色々と協力してくれる地域性なので今の所、問題は起きてませんが・・・</p> <p>もし、会長として直接このような事を言われたら答えに困りますし、将来が心配です。</p>
<p>校内のPTA活動についてよりも、PTA三役になると、いわゆる「当て職」で外部団体での職が多いえ、会合も多く、それが三役を決める際の負担になっている。</p> <p>具体的に、子どものためになっている活動なのが見えないものが多い。</p> <p>学校の活動をどんなに精選しても、外部団体が精選されなければ、負担感は減らない。</p>
<p>PTA三役は、学校と保護者の架け橋だと思っていました。</p> <p>しかし、学校に要望など伝えても、結局は教育委員会の意向には逆らえないので、PTAの役割って何なんだろうと感じています。</p> <p>無くなっても良いのでは。</p>
<p>役員が活動内容がPTA会員に伝わりづらい。</p>
<p>ジェンダーギャップ（固定的な性別役割分担意識：会長は男性、他役員は女性、という雰囲気。）</p> <p>生徒数（会員数）の減少に見合った組織編成と活動内容への転身。</p>

<p>学校も含めた PTA の IT 化が急務。</p> <p>ペーパーレス化や学校の保護者向け連絡用のポータルサイトなど簡略化する必要があるところは簡略化し、PTA を含めた保護者と教職員の負担を減らすことが望ましい。PTA をその試験的実行部隊として活用してもいいと思う。</p> <p>環境が整っていないご家庭に関しては従来通りで、選択制するなど対応が必要。</p>
<p>現在ルール化されている PTA 会長、副会長選考方法に、また問題点がある。そのため、今後は全 PTA 会員の中から、適任者を応募するかたちが望ましい。</p>
<p>コロナ禍を利用して、さらなるスリム化を行う。PTA は保護者の勉強の場であるべきではないか？有益な研修や講義を一般会員でもオンラインで視聴できると良いと思う。</p>
<p>会員数が少ないため、現組織で適当であるかどうか検討が必要である。また、働き方改革と PTA 活動の充実は相反するところもあり、活動の工夫が必要である。</p>
<p>コロナ禍で本年度も活動出来ずにいますが、学校主体になっている点が多く感じられます。PTA 組織、役割について再度検討して行く必要性を感じました。</p>
<p>今後の夏季休業中の地区プールのあり方やラジオ体操の実施についてどのような運営の仕方がいいのか悩む。</p>
<p>子供たちを学校と共に育てていくためには、親が学校にかかわれる機会となる P T A は今後も継続していくことが必要と考えている。しかし、大半の親は P T A の役員になることはハズレくじのように考えている。理由は様々だろうが、仕事との両立が出来ないと考えることが大きいのではないかと思う。</p> <p>自分の子供を学校とともに育てていくという親の啓蒙が必要。子供が学校に上がったらず勝手に P T A に加入されるのでは無く、導入教育というか、P T A の意義を伝えていく機会が必要に思う。</p> <p>会長は男性という暗黙の縛りも押し付け合いになる原因だろう。会長以外は女性でもよいのでなり手を探しやすい。</p>
<p>役割としてやっているだけなので、挨拶や研修等いらんと思います。</p>
<p>活動に際して、役員と役員以外の心構えや参加意識の温度差が激しい。</p>
<p>本当にその組織がいるのか検討して欲しい</p>
<p>コロナ禍が通り過ぎた後の活動について、学校と PTA の考え方の違い、活動に対する思いなどが問題になりそう。</p>
<p>要らない活動が多い</p>
<p>やはり、総務委員会の負担が大きい。中でも会長の負担が大きい。共働き世帯がほとんどで PTA 活動に専念できない状況にもかかわらず、日中に学校外での活動に参加しなくてはいけなかったり、役員それぞれの事情を考えて会議の設定をしなくてはいけなかったり、とにかく仕事との両立が大変。</p>
<p>1 学年保護者から選出される副会長が翌々年の会長候補になることを前提として役員選出をしなければならぬので、なり手がいない年は決めるのに時間がかかる</p>
<p>選出には苦勞するが、協力的な保護者が多いのでありがたい。</p>

<p>三役のなり手が、いない。次期三役の選考が、一番の重荷であり、時間と労力、ストレスがたまる。三役、得に会長だけに特別な仕事を与えず、誰がなっても出来るような体制であれば、くじ等で決める選択肢もあると思う。</p> <p>(現在、三役決めは、くじ、じゃんけん等による選考はしていない)</p>
<p>コロナによって人の生き方、考え方が変化、多様化した。それでも所属する組織に対しては最低限の義務を果たすことも重要。</p>
<p>オンラインを活用した集会の簡略化を進めたい。また、児童数が少ない小学校は活動自体に金銭的、人員動員に制限があり、何も活動できない状況にあるので組織が形骸化してきていると感じる。</p>
<p>今後役員数を減らすなどの対策が必要。</p>
<p>準備などをほぼ先生方が行っているが保護者が理解して準備するのは困難であり、結局活動自体は学校側がほぼ段取りをしてくれている。</p>
<p>強制的に参加させられてる感じが強く、揉め事が起きやすい。</p> <p>もう少し笑顔になれる組織であつたらと考えます。</p>
<p>式典(入学式、卒業式等)時のPTA会長挨拶がかなりの重荷になっていると思います。その時の会長が挨拶をするかしないか選べるようになったら、気持ちの負担が減ります。</p>
<p>規模に応じた無理ない活動が大切</p>
<p>PTA組織のない学校が少しずつ増えていると聞く。PTAにはメリット、デメリットがあると考えますが、自校のように児童数が年々減少するなか、当然保護者数・教員数は減少していく。</p> <p>「子ども達のため」とは十分に承知のうえではあるが、同じ人が繰り返し役員・委員をしなければならなくなるとすれば、負担となることは明らかであると思う。</p> <p>組織の持ち方について今後考える必要が出てくるかもしれない。</p>
<p>PTA会長になると、いろいろな肩書がついてきて年度初め、委員会が多く少し大変</p>
<p>子供達は地域の宝であり、将来もこの町で働きたいと思ってもらうことが大切だと考えます。そのために、地域をよく知ること、また行政からの支援をいただきながら、学校と地域と行政が連携して子供達を育てていくこと大事だと思います。</p>
<p>保護者会という枠組みでも良いと思う。会議等も学校施設会議室を自由に利用できると良い(土日祝日)でなければ、土日祝日出勤に変更できる担当の職員を配置してほしい。</p>
<p>学校の実態に合わせた組織改革が重要。小規模校では、保護者が何度も役員をやらねばならない実態があるが、PTAへの協力が困難な家庭(小さなお子さんや介護が必要な高齢者がいるなど)も年々増加しており、組織として破綻しかけている。PTA組織にこだわらず、保護者会や学校サポーター等、学校と保護者が協働・連携できる持続可能なしくみを、学校の実態に合わせて作っていく必要がある。</p>
<p>PTA正副会長職は仕事の傍らであるが、参加依頼の会合等の案内が多い。</p>
<p>学校によって差がある、職員(先生)が変わるとやり方が変わってしまう事があるので、1からやり方を伝える必要がある</p>
<p>活動にむだがある。</p>

<p>当校のように生徒数が少ない学校では、いろいろな家庭事情のある方が役員になる場合があるが、会長になった場合、各種の会合への出席を求められることが大きな負担になる場合がある。</p>
<p>役員は率先してなる人とそうでない人がいるのは仕方ない。役員ばかりに負担をかけず、保護者全員で協力して行く意識づくりが今後はより大事になる</p>
<p>学校と各生徒の家庭を繋ぐという意味で PTA はあった方がよいと思いますが、活動内容のマンネリ化が気になります。</p> <p>最近メディアで話題になっているようですが、任意加入の問題をはっきりさせた方がよいと思います。加入については、学校行事とも関係あるので任意ではありますが原則全家庭加入が望ましいと思います。</p> <p>共働きの増加やひとり親家庭など、家庭の在り方が変わってきているように、PTA の組織、運営の在り方も変化すべきでしょう。</p>
<p>学校主体なので PTA はいらないと思います。なにか有ればボランティアとして参加すれば良いだけ。会長と言ってもお飾りで入学式卒業式で挨拶するだけ。教職員が働き方改革を行うので有れば PTA も改革すべき。</p>
<p>各学校で三役になった時の報酬にかなり差がありすぎて、他校会長からもお困りの声が上がっています。ある程度揃えられたら良いのになと感じます。</p>
<p>他人任せな考えの方が多い気がする。だから、あまり協力心が感じられない。年々、子どもの数も減ってきていて、役員を決めるのも難しくなりつつある。組織改革は必要だと思う。</p>
<p>コロナだからといってなにもしないで良いわけではない。</p>
<p>P T A 活動から「児童の健全な育成」「子供の為」の視点が欠落しているように感じる</p>
<p>本校は在籍が6年で2回役員をお願いしています。保護者の多くは積極的に参加していますが、通学距離が長い世帯もあり、負担に感じている方もいます。三役は負担が大きい為近距離の保護者の割合が高くなりがちです。学年や地区のバランスが取れるように選べるかが課題です。</p>
<p>イベントに全く参加しない、子どもの姿を見に来ない PTA がいる。(特に父親)</p>
<p>組織の構築以来、既に担うべき役割が変質しているのに『昨年やったことを踏襲』している点。そもそも、役員になりたいという意欲を持った方が存在しないというところに、問題点の端が顕れていると思います。</p>
<p>いまのコロナ禍で学校では活動の制限や自粛を求められました。そのなかで各学校では子供たちの充実した学校生活の為に感染対策をおこないながら活動しています。そしてこの状況の中でも子供たちは実にたくましく行動しています。その点で以前と違う事は私たちはコロナの経験値を得たことだと思います。PTA 活動は苦ではなくむしろ楽しみです。わが子は6年生でどこかの中学校に行きますのでもしも来年度また機会があれば with コロナで安全安心に留意しながらできることを精一杯やっていきたいと思っています。</p>

<p>みんながやり手がないので、委員会数や人数を減らしてほしいと毎回、依頼が来る。 委員会により仕事量が違いすぎる。 長岡市は市P連主催野ソフトなどの大会がありますが、その関係で委員会が動かなくてはならなかったり、トラブルが多く、例年課題になっている。 学校PTAから外すか否か。委員会として作るかなど。</p>
<p>児童数、世帯数共に減り続けると思うので、役員一人あたりの負担の少ない活動にシフトしていくと良いと思います。</p>
<p>PTA組織にも働き方改革が必要</p>
<p>PTA役員になると、「役員だから頑張らなくては」と気負う人が多いと思います。また、一般会員は「役員に任せておけばいい」と思いがちだと思います。役員が会員を動かして協力出来る体制が望ましいと思います。</p>
<p>任意の団体ではあるが、PTAの活動なしでは子供たちの活動の一部が成立しないことに対する理解が足りない気がします。</p>
<p>仕事を理由に役員を断るケースが多い。仕事をしていても役員をできる仕組みを作る必要がある。子供たちのための活動という意識を一人でも高めてもらいたい。</p>
<p>文化祭で行われるPTAバザーに関わる、会員・学校職員の負担が大きい。この2年間は開催されなかったが、今後バザーに代わる行事等へ移行しやすくするため、全県で、食品バザー廃止の方向性を示してもらえないだろうか。</p>
<p>選考方法の見直しが必要である。</p>
<p>どうしても、知ってる人だけで構成されがち。</p>
<p>子供の人数が減少している為、それに伴い戸数も減少しているので、徐々に一家庭あたりの負担が増加傾向にあると感じている。</p>
<p>全員何らかの組織に入らざるを得ない状況の中、両親共組織に入らない家庭がある</p>
<p>県P連や市P連での、持ち回りや充て職が決まっている以上、なかなか単位PTAレベルでは思い切った改革はできないのではないかな。</p>
<p>今後組織の精選が必要。</p>
<p>児童数の減少は避けられないので、規模に応じた無理のない範囲での役員数、専門部数、委員数、活動の見直しが必要で、現在取り組んでいるところ。</p>
<p>児童数、保護者数がともに減少しているので、今後さらなる役員数の見直しが必要である。</p>
<p>三条市の学校以外のPTA活動の負担が多く、学校行事の活動内容であれば負担はさほどないがその活動あるため、役員になってもよいとおもうひとがいな。PTA活動をやってみて、自分の学校運営にだけ集中したい、他の学校との連携運営は、学校教員主体の運営でよいとおもう。防犯パトロールなどは、地域ボランティア、シルバー人材等を利用などを行い負担を減らすなどしたほうがよい。三役になった時点で三条市のPTA活動がついてまわるのは、負担が多く活動をなくすなど選択はできない。強制適任任命されるため、気持ちもよくはない。</p>
<p>コロナ禍で活動を縮小又は中止したものが多く、本当に必要な活動かどうかどこかで一度リセット、見直しをする必要があるのではないかな。市内他PTAの様子を知りたい。</p>

<p>今までPTAに対してまったく関わりがなかったものが、いきなり三役(会長)の責務を担うにあたり、事前の引き継ぎやPTA活動に関する事について学ぶ等の準備期間がほしいと感じました。</p>
<p>時代に合わせて役員を選考方法を考えなくてはならないが結局、何も動かなければ揉めるので事前に三役役員に関しては声をかけてやってもらえようをお願いしなければならない。</p> <p>PTAをなくしたとしたら保護者が積極的に関わってくるのか？</p> <p>役員をやりたいと思ってもらえば揉めないのでは？</p> <p>三役の仕事をオープンにできたら。</p>
<p>役員会に参加する方も少なく、開催する意味がなくなっている。</p> <p>意見交換をしたくても、発言が少ない(ほぼない)。</p> <p>PTAが存在していても、学校任せと感ずることが多い。</p> <p>小学校より中学校になるにつれて、PTAへの保護者離れを感じた。</p>
<p>三役の学年の偏りが出る。そのことで役員を2回する保護者が出る。</p>
<p>役員以外の協力が得られにくい</p> <p>保護者みんなが参加できるようになると良いと思います</p>
<p>やる気のある方だけでなく、やってみてもいいかなと思えるような難しさのない、負担の少ない組織に変えたい</p>
<p>地域の環境の変化に対応した組織作りと仕事内容の改善を行いながら、PTA活動に取り組んで行くことが必要になってきていると思います。</p>
<p>PTA=面倒、というイメージを脱却するには、名称含め、一度リセットするしかないですね。</p> <p>その点で、コミュニティスクールの取り組みの一環として、うまく保護者を取り込むことができるか、がポイントかと思います。</p>
<p>時代は刻々と変化している中で共働きの家庭が多く占めています。時間を取りづらい保護者でもPTA活動に参加できるように時代に合わせたPTA組織を作り上げていくことが必要だと思いますし、また、教職員の方の働き方改革の為にも進めていくべきことだと思います。</p>
<p>男性が会長がまだまだ多いですが、子供に近いお母さん方も、もっとたくさん役員に入っていと思う。役員はめんどろだとか大変という思いが強く敬遠されますが、実際やってみると実はそんなでもないとかやってみて初めてわかる事が多いです。それをもっと皆さんに知ってほしい。子供の為にもっと親が積極的にならないといけないと思う。やりたい人がとか、出来る人がやればいいとかは違うと思う。</p>
<p>小規模学校では役員をする回数が多い。</p> <p>児童の多い家庭は毎年役員をしたり、コロナ前は保護者の約半数が役員、コロナ禍では保護者の四割近くが役員。</p>
<p>会長や役員をやったことがない人が「会長って大変」と勝手に思い込んでいること</p>
<p>PTAという組織ではなく、ボランティアを中心とした地域での学校協力ができればよい。</p>
<p>生徒数減少で、会長、副会長の選任が難しくなっている。</p>

<p>ウイルス禍を機に活動を精選していき、いつ誰がどのように活動しなければならないかが明確になってきたのではないかと思う。なかなか集まることができない状況であった。紙面を出して進行している中、今まで行ってきた活動の一つ一つにどのように軽重をつけられるかが見えてきた。来年度に生かしていきたい</p>
<p>働き方改革・業務改善に合わせた PTA 組織・活動にしていく必要がある</p>
<p>正副役員負担が相当大きい。</p>
<p>年々、PTA に否定的な方が増えてきたと思います。 私たちの代では楽しみながら PTA 役員をやるために強制はせず、活動は自由参加で都合の悪いときは皆でフォローするよう運営をしてきましたが、その考え方は通じない世代が数多くいる執行部に変わりつつあります、都会のように PTA が不要ないという流れが我々の所にも来たのかな、大丈夫かなと心配になります。</p>
<p>事業の見直しをして必要のないものは省く</p>
<p>硬直化せず楽しんで取り組める活動・組織を目指す</p>
<p>市 P 連の六日町ブロック研修大会を毎年行うことになっている。土日に行い、ブロック内小中の PTA 役員・担当教員の都合を合わせる必要があり、研修の計画も含めて大変負担です。その割に参加者が大変少なく、「研修をした」というだけのために行っています。お金も無駄だと感じます。やめるべきです。</p>
<p>学校の規模や地域によって PTA 活動に対する意識行動が大きく差異があると思います。 PTA 活動の本質「何のために PTA はあるのか」「P」はどういう意味で、子どもたちや地域学校と関わるのか、コロナ禍が続く中で、今一度しっかりと考えていく必要があると思います。</p>
<p>コミュニティスクールが制度化されている中、PTA 組織は必要か</p>
<p>今後 CS 活動に PTA をどうくみこんでいくか</p>
<p>毎回、会長と副会長の選出に苦勞するので、何か良い選出方法があれば教えて欲しい。</p>
<p>意見、不満をきちんと出してくれて、生かせる総務委員の団結力！</p>
<p>児童数の減少に伴い毎年なんらかの役に就かなければならない時期がすぐにおとずれそうです。</p>
<p>無検証で前年の活動を踏襲するだけでなく、活動の効果を検証し、次年度以降の活動に活かし、変えるべきは変えていくことが必要と思います。スポーツ活動のサポートなど見てみても、今の時代、子供のために時間と労力を惜しまず協力したい保護者は多いと思います。その人たちの力を活かすには前年を踏襲するだけのつまらない、意義を見出しづらい活動ではなく、意義を見出しやすく進んで協力したいと思えるような活動に変えて行く必要があると思います。</p>
<p>今後 ICT が本格的にスタートする準備として、インターネットやスマホの取扱に対して勉強会や研修会のニーズが PTA にある。外部講師や専門家を招いて PTA 主催で企画したい。</p>
<p>コロナで活動できないことが多いですが、先生方との交流が一番だと思います。</p>
<p>児童数減少による保護者・PTA の一人当たりの負担が増している。今まで通りの活動ができないため検討が必要。</p>
<p>学年によって人数の差が大きく、役員を複数回もしくはとなり学年より選出しなければならない。外国の方が親に在ると言葉の問題もあってどうしてもお願いできない環境である。</p>

<p>自動的な入会でなく年度開始時に入会の有無を確認した方がいい。 やりたい人もいますがやりたくない人もいます。 教職員の負担軽減が叫ばれて久しいですがこの議論は少ない気がします。</p>
<p>メンバーの大部分が入れ替わるので、しっかりと引き継いでリーダーシップをとってくれる人がいない</p>
<p>各部門の方々が良く活動してくれているのでもう1つ2つ部門を増やしてみても良いかも</p>
<p>当校は児童数が少ない為、保護者全員で一丸となってPTA活動を盛り上げて頂いています。皆さん協力的でこの風潮は今後も大切にしていきたいと思います。</p>
<p>現PTA会長が、異性の副会長に文面で罵倒を浴びせられました。さらにSNS上で仲間外れにされたことをするような方が保護者にいる事が問題だと思います。</p>
<p>もう少しお父さんが参加できる活動ができないかなど。</p>
<p>保護者の負担は可能な限り減らすべきだとは思いますが、「子どもたちのため」を第一に考える必要があると思います。あまり子どもたちのためにならない活動ならば、縮小ないしやめてもよいと思うのですが、まず「親の負担を減らす」が先に来てしまっているケースがあると感じます。</p>
<p>子供が減って行く中で組織の見直しが必要な時期だと思う。</p>
<p>コロナ禍において例年通りの活動ができなくなっており、今後も例年通りやろうとすると、中止・延期が多くなる。新たな活動の形を検討する必要がある。</p>
<p>学校、保護者の負担が大きいように感じる。 保護者の方は出来る方はいいが、対応が難しい方は仕事や家庭でも負担が増えていくと感じる。 学校の先生への負担も子どもたちの授業だけでなくPTAのことで問題が出てくる。 出来るだけスムーズに対応できる方法を考え、円滑に進む方法を考えるべき。</p>

<p>中学校</p>
<p>保護者の高い参加意識によって成立している。</p>
<p>児童が少ないせいか、子供たちの為の、行事の取り組みが忙しくもあり、楽しくPTA組織にとらわれてない状況で、情報交換会、研修などは、かえってそちらの妨げと感じたときもありました。自分たちの地域の子供たちの把握が最優先で、県全国の情報交換などの会は勉強不足の自分には、難しいものと感じています。</p>
<p>PTAに関わる活動だと思っても、学校側から相談ではなく決定事項の報告を受ける。</p>
<p>通例を変えるのはとても苦勞するが、負担が減れば会員も多く参加するようになると実感。役員が少ないから皆で協力をモットーにしたい。</p>
<p>PTA活動の範囲が不明確。</p>
<p>役員となると堅苦しく、強制されている感じになってしまうので、子どもが楽しめるイベント等はやりたい人達が気軽に企画できて、企画した大人も参加した子どもも楽しく取り組めるシステムができたらいいなと思っています。</p>

<p>保護者、教職員内には、PTA が任意団体としているのに、ほぼ強制的に加入、会費も徴収されていることに疑問を持つ人もいます。</p>
<p>今のままでよいと思います。無くすわけにはいかないのです。</p>
<p>保護者の心情から行事は実施してほしいが時間や協力できる保護者が限られてる。 先生方も働き方改革で以前のような活動が難しい。 町内部、自治会とのつながりや町内活動が少なくなり子供達が先生や親以外の接点が少なくなり、地元愛が薄れて行くことを危惧しております。</p>
<p>①小規模校、地域性なのか PTA 活動に協力的であり活動はしやすい。 ②活動があることで保護者同士のコミュニケーションや情報交換が図れるものと感じる。</p>
<p>役員と役員以外の温度差が大きく全体で一体感があると良いと感じるが難しい コロナ禍の影響もあり、他の PTA 組織との情報共有がないので、他の PTA はどのような活動をし、どのような組織があるのか知りたい</p>
<p>三役は対外的な会議が多いので、減らして欲しい。</p>
<p>共働き家庭がほとんどで、家庭のあり方も様々となっている中で、保護者の負担が大きい、今の PTA 組織の存続は難しいと思います。先生方も働き方改革が進む中で、先生方の負担も少なく、そして子ども達の為の活動を、というのが理想ではありますが・・・ 役員の数は少なく、情報は広く伝え、無理なく参加出来るシステムが構築できれば、と思っています。 単 P の組織、活動とは別に、市 P の組織についてですが、会長のなり手が少ない原因のひとつだと思います。 市 P、さらに県 P の存在について、一般の保護者の認識はほとんどありません。また、その活動内容についても、直接子どもに関わる事ではなく、そこに子どもと過ごす時間を削ってまで参加することへの意味がわかりません。市 P、県 P のありかたについても、組織改革を含め検討されるべきではないでしょうか。</p>
<p>コロナ禍の影響によって、役員が集まることができない。時期役員や会長の選出、懇親、新議題の意思決定が困難を極める。</p>
<p>児童が多様なヒトとのかかわり合いが持てる機会となり、互いに社会性【非認知能力】を高めあうためとする PTA の存在意義・目的が共有できるとより良いと考える。</p>
<p>無駄な集まりが多い。(書面で十分なものがほとんど) 昔からやっていた事を今も引き継いでやる必要はない。 コロナの影響で、余計な事は省かれて良かったと思う。</p>

7割以上が共働きである現在の環境に合わせて、PTA組織、連合会の在り方も見直すべきと感じます。当方は連合会の副会長+単P会長の兼任として選出されました。コロナ禍により、各所でイベントの中止や見直しが行われているものの、もしも通常どおりにイベントへの参加や企画に携わる場合、年間相当数の時間と労力、就業している企業活動をも犠牲にしながらかつた活動を遂行しなければなりません。これはもはやボランティアの領域を超え、“労働”であると感じます。また、男女の指定や性別ノルマが規約の中に未だに存在していることは時代錯誤と思われるのも過言ではないと感じます。

他方、PTA活動が【やりがい搾取】とならないよう、“出来るひとが出来るときに出来ることをする”という基本概念の原理原則に基づいて、シンプルな運営できるような組織となることを願います。様々な意見があることは承知のうえで述べますが、個人の意見としては、例えば活動や組織を大幅にシンプルにする、思いきって廃止する、あるいは別の手段に変更したとしても、子どもたちに対して何らネガティブなインパクトは無いと感じます。

中には一体誰のために、何のために行っている活動なのか？と疑問を感じるイベントもあり、無くした場合、どのような不利益が生じ、どのような悪影響をもたらされるのか？といった客観的な検証を行ってみることを提案したいと思います。

生徒数が少ないので一人ひとりとの距離が近く比較的上手く行っている。保護者の意識改革で活動に近づける努力が必要と思う。

会長になった場合、『会長挨拶』などが負担になる為にやりたい方がいない。プレッシャーになるような場が減れば引き受けてくださる方が増えると思う。

自分の子どもの為なら協力するが、リーダーシップをとることは嫌だと思われがち。

PTA組織そのものの存在意義を考えることが必要なのだと思う。

会長のポジションに負担感を感じている人が多いので、なかなか立候補が出ない。そのための根回しを三役がするため三役の負担も大きい。

PTAに類似した組織が複数あり、それぞれの役割がとても解りにくい。

組織の数が多くなることで、事務局（学校）の負担が増すばかりではないか。

PTAに地域コミュニティーを加えたPTCAと呼ばれる形態の方が活動しやすく、実情にあっているのではないかと思う。

会長をはじめ、役員も単年度任期で、なかなか中長期的な改革や改善を実行することが難しいと感じる。

ある程度の任期を任せられる役員がいることで方向性や新たな活動に挑戦出来るのではないか。

当校では、子ども一人に対し、卒業までの6年間のうち2回（通算2年）は役員をすること、と申し合わせ事項にある。しかし今後も児童数（家庭数）の減少が予想される。については、専門部の統廃合等による役員数の削減に取り組む必要があると考える。

考え方は様々あるものの、その学校の子どもたちのための活動を行う、ということで保護者とはコンセンサスがとれている。そのため、その学校のみでのPTA活動ということならば問題なく進められる。他との交流、県、全国と膨大化したため、かえって負担も多くなっているのではないかと考える。

生徒の減少に伴い、PTA組織人数を考えて行く必要があります。また、コロナ禍におけるPTA活動のあり方にも考えて行くことも必要かと思えます。未来ある子どもたちのために！
役員選出のスマート化
児童数が少なく、学年感で偏りがある。兄弟姉妹の多い家庭は、負担が大きい。
三役選出の際の男女枠を撤廃してもよいかもしれない
最上級生の保護者がPTA会長になるが、一年交代なので最初のうちは右も左も分からない。
少子化が進み5年後は今の半分になる見込みであるため、それに見合った組織運営と保護者の協力と理解が必須
このコロナ禍において、いろいろな活動ができなかった中で、今現在あるPTA組織が必ずしも必要ではないのではないかと思った。特に学校単位ではこの組織は子供達と直接的にかかわりあいが必要なもので必要ではあると思うが、市p連や県との関わりについては疑問に思う。
あくまで個人的にですが、三役になるまで「PTA組織」というものがよくわかりませんでした。県や市の役員になるまで知らなかったことが多くあります。研修等で学ぶことはとても参考になりますが、一保護者として学校で他の保護者、PTAに伝達する機会もなく、自らその場を作り出す勇気や行動力が必要な状態で実行できていません。三役などにならない限りは自分にはあまり関係のないこと、他人事だったと思います。PTAという単語は身近ですが、中身はあまり身近ではない印象ですが、実際には他の保護者はどのように捉えているのかな～と思っています。
役員決めの際、会社勤めの方は自営業や役所職員に役員を押しつけたがる風潮。たしかに会長になってみて、当て職や会議が平日日中に多い。コロナ禍で制限がある中でも多いと感じたので、以前はもっと多かったのではと思う。なるべく時間をかけないよう、リモートで可能な会議は今後も継続していいと思う。
コロナ禍ではありますが少子化の影響もありますし色々な地域の情報をPTAとして共有していける機会がさらであればいいのではないかと思います。
PTAが何をしているのか、役員になるとどんなことをしなければいけないのかなどがわからず、ただPTA役員になると面倒だというふうに思っている人が沢山いると思う。そうかといって、何をやるのかを丁寧に説明しても、仕事など時間に余裕がない人はそもそもできないし、やらなくていいならやりたくないという人がほとんど。 授業参観や運動会などの学校行事には積極的に参加や観覧する保護者が多いのに、PTA行事となるとやはり距離を置く人が多い印象がある。また、コミュニティや地域の自治会の行事とPTA行事の違いがはっきり分からないし、はっきり分からなくても一般の人は全然気にしないと思うので、尚更PTAという組織が分かりづらく、積極的な役員のなり手が少ない要因の一つになっているのではないかと思います。
役員が一丸となって一つ一つの活動を行うことができているので、その姿勢は今後も引き継いでいてほしい。
大規模校のため、役員だけ集めても、かなりの人数になってしまう。会議などで、活発に意見交換できる場が必要と感じているが、その機会を作りづらい。

<p>様々な家庭環境や 仕事がある。全員がやらなければいけない！という意識ではなく やれる人が やれる時に やれることを</p>
<p>児童数の減少により PTA 会員数も減少している為、役員の数などを見直す時期は近いと考えま す。コロナ禍で PTA 活動が休止したことで、PTA と学校の繋がり希薄化が懸念される為、再開の 時には更なる学校・PTA・地域の連携で今まで以上の組織になることを期待します。</p>
<p>毎年恒例の行事だから惰性でやるのではなく、 その時代、状況に合わせて柔軟に対応できる組織だと PTA に対する価値観も変わってくると思いま す。</p>
<p>核家族化や両親の共働きなど、昔と比べると家庭環境の変化が激しく多様化しているので、いつまで も同じ体制でいるのは現状にあわないと思います。児童・生徒数の減少も考慮してスリム化を図るの がいいと思います。 また、役員とそれ以外の保護者では活動参加に対する意思に温度差があり、どうしたら多くの人に事 業に参加してもらえるのが私たちの課題となっています。</p>
<p>生徒の為にあるのが PTA なので、出来るひとが率先して役員になって貰いたい。</p>
<p>コロナウィルス拡大で先生の負担が多くなり申し訳ないです。役員数についても役員を公平にしてい ただくための最小限の人数にしていますが、本当に適正な人数なのか悩む。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・役員をやらないと PTA が何をしている組織なのか知ることが難しい ・保護者が無関心なことが多いと感じた
<p>時代の変化により年々 PTA 活動への関心が薄れている印象を受けます。自身のお子様が関わる学校活 動にどのようにすればもう少し興味を持っていただけるか課題だと思います</p>
<p>学校、保護者、地域が連携し、子ども達の健やかな成長を見守っていく必要がある。 そのために必要な組織、活動を精選していくことが大切である。</p>
<p>当 PTA では、役員が毎年全員入れ替わるため、活動中に何か問題点に気づいても、次年度はただの 会員になるので、組織の中で何か活動するという形になりにくい。そもそも、役員の全員が初心者な ので、PTA 活動そのものが理解できておらず（小学校で経験している方もいるが・・・）、理解でき てきた頃にお役御免となる。ただし、最初から 1 年だけの役員とわかっているので、あまり抵抗なく 受け入れてもらえているという面もあると思う。一度役員になったら、最後は会長をやるまで辞めら れない、ということがないのいいかもしれない。活動は低調であっても、その年の役員選考に苦慮 するということはない。</p>
<p>代表となる役員が P T A 業務を進めるという考え方ではなく、P T A 会員全員が自覚をもち「みんな でやる」 という思いを共有していきたいと考える。</p>
<p>経験者がほとんどいない場合、前年度の踏襲になってしまうこと 任期が 1 年のため活動に改善を加えにくいこと</p>
<p>PTA 自体が、必要なのかという意見があった。</p>

いつからなのかわからないが長年、役員決めが小学6年時のときに、6年間の間一度も役員をしてない家庭は中学校での役員を必ずしもやらなければならない。と、決まりがあるがやりたくないからと保護者は出席しなかったり、役員活動も全くしない家庭もあるので、どうしたものかと思う時がある。また、以前は上記のようでもなんとかやっていたが、最近ではもう一度やらなければならない状態になるとじゃんけんかくじ引き、あみだくじで決めると「一度やったのに…」と渋られることもある。また、三役もしつこく電話が掛かってくる。会う度をお願いされる。そして、副会長ならと引き受けるが皆さんが同じ事を言われ結局誰かしらが折れて会長をやる。といった過剰なアプローチがある。なので、役員決めがとてもいい感じだと思わない。PTA役員決めがあまり良いやり方ではないと思うことがある。

何をどうすればいいのかよくわかりません

他校でのいい事例や活動があれば教えていただきたいです

PTA 総会で PTA 活動について「いるもの」「いないもの」をしっかりと話し合うと良い

P T A そのものを他の組織に創り替えても良いと思います。

ここ数年、少しずつ PTA 活動が減少し、PTA 組織をなくし、ボランティア等で活動ができるのでは？という意見があるが、それでは、同じ人ばかりの参加になり保護者間の繋がりが希薄になってしまうのではないかと懸念します。

我が校は、地域間の活動も多く、学校 PTA 地域が一体となって子供達の成長を見守っていて、良い環境にあると思っています。

町内の活動も付随しているが、ボランティアで活動しているのに仕事のある平日の日中から集まりが開かれのはちょっとおかしいと思う。

コロナ禍という事で活動は少なめです。組織体制についての見直し議論は続いてもよいと思います。

そもそも PTA という組織が必要なのかを考えるべき

15、PTA 活動全般の問題点について

<p>小学校</p>
<p>「ムダなくムリなく子供の将来につながる活動の形」について意見を集めながらより良い形を模索している。</p> <p>現時点では、次年度も継続検討事項として、委員の意見を聞きながら三役メインで検討を進めている。学校教育（授業）の中にPTA活動を織り交ぜていくことが、負担なく子供のためになるのではないかと考えている。</p>
<p>胎内市では、学校運営協議会制度を導入し、地域学校協働本部を立ち上げている。その中の組織のひとつとして「保護者(PTA)」を位置付けている。PTAとして事業を特別に立ち上げるというよりも、現在は、CSの活動の中で、「保護者」として参加・協力していただいている。</p>
<p>難しいことは排除しPTA会員の皆様へ気軽に参加しやすい案内文を作成する様に心がけています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 予算について、児童数の減少により必然と縮小せざるを得ない。（お金にこだわらず、やり方を工夫するなどできる範囲で活動していく方針。） →今年の予算においては、支障のない範囲で支出を抑えた。 ・活動、事業がマンネリ化しているので、組織体制も含め再検討が必然だと個人的に感じている。（改善に向けた取り組みはなし）
<p>生徒数は最盛期の半分以下になっており、今後も減少の傾向にある。PTA 会員数は全保護者に対して任意ではあるが概ね 100%加入している状況である。</p> <p>しかし、活動内容のほとんどが例年の引継ぎで、学校側の指示のもとこなしているだけであり、PTAとしての自主性はない。また、専門委員会（4委員）が設置されているが、目的が明確ではなく、手段だけをこなしている。（→各部の活動内容を見直し、部の合併と役員数の減員を検討中。）</p> <p>教員の負担軽減や情報伝達の迅速化と相互理解をはかるために、紙資料中心からタブレットやデジタル中心に移行したい。（→学校側と行政（市）に相談済み。役員会で実施予定。総会にて実施可能か検討中。）</p>
<p>PTA 業務を教職員が負担している、もしくはPTAメンバーがほぼ担当している学校がある。どちらが負担するという問題ではなく両者の負担軽減が必要で、業務の洗い出しや簡略化、IT化で生産性向上を図ることが重要。</p> <p>業務効率を上げて、学校でも家庭でもその削減した時間を子供と向き合う時間に充てることが求められる。</p> <p>特にバックヤード業務について、「今までそのようにやってきたから」、「伝統だから」という理由で議論や思考を止めるべきではなく、一旦は学校組織内、PTA内で両者ボトルネックになっている部分の根本から見直し、業務効率の根拠の見える化を図り、トライアル&エラーで柔軟な対応をしていく必要あり。</p>

<p>三役の活動の周知。</p> <p>「三役の仕事は面倒くさそう」というイメージの払拭。</p>
<p>コロナ禍で、一旦縮小、中止となった PTA 行事の再開の在り方？</p> <p>中々、元に戻すのは、難しいのではないかと？まだ解決していない問題。今後の検討事項です。</p>
<p>学校と子供や保護者の間に立ち、意見や調整を行うことを意識して活動を行なっています。</p>
<p>密を避けるために PTA 奉仕作業や講演会等の参加について分散参加できるよう取り組んでいる。</p>
<p>地域から役員を選出する方法を取っているが、地域の人数格差が大きく、本人の意思なく役員が確定してしてしまう時がある。</p>
<p>これからの時代において PTA 活動そのものについて話し合う機会が必要だと思われる。また、PTA 会費についても検討していく必要がある。</p>
<p>役員の選出方法。選出母体を全て学年にしたことで母体の数は平均となったが、兄弟で在籍している場合や総務委員の 2 年任期と専門委員の 1 年任期の格差をどうやって解決するのが課題。</p>
<p>コロナ禍で保護者を集めることができなかつたので、PTA 総会を紙面協議とした</p>
<p>保護者・職員の負担が大きかった。バザーをやめた。地域巡視の回数を減らした。PTA だよりの発行回数を 3 回から 2 回に変更した。以上によって、負担はかなり減った。</p>
<p>学校の完全下校時間(閉鎖時間)が設けられ、教職員、PTA 活動も例外なく順守する必要がある。年度末、年始の三役等の役員決めや各会議では、現状、完全下校時間内に終了するのは、困難である。開始時間の前倒し、会議内容の見直し等、検討中である。</p>
<p>子供が少ない(保護者も)からこそ、やるべきこと、やめることを明確にするのが大切。</p>
<p>市内人口の減少が進めば、学校単位での組織運営では難しくなるのではないかと思う。</p>
<p>児童数の減少により役員の選出が難しくなっています。ただ一方で人任せになったりして、特定の人達が何回も役員をしているのも見受けられます。会長を選出する際の方法を見直したり毎年検討しています。</p>
<p>何とか問題なく行えているが子供、保護者の人数が減るに連れて厳しくなっていくだろうと思われる。いつか体制を大きく変える必要が出てくる時代が来るとと思われる。</p>
<p>小規模な学校であり元々問題点が多かったと感じ。コロナ禍も理由に加え見直しが必要と考え話し合っています。</p>
<p>PTA 活動に対して、役員以外の保護者の参加を呼び掛ける努力をしていたが、無理に参加を強要せず、それぞれのボランティア精神に任せ、集まった人数でできることを最大限に行うようにしようと考えている。</p>
<p>コミュニティスクールが推進される中で、PTA との役割分担、意義がいまいであること。</p>
<p>年度末 PTA 活動について反省会を行い、その内容を次年度の PTA 専門委員会(部会)で共有し、新年度行事予定などを計画している。</p>
<p>昨年からのコロナの影響で学校行事等に大幅な変更があり、同様に PTA 活動も今まで通りとは行かない状況です。しかしこのような状況だからこそ、子供達にとって思い出に残ることを、子供達を笑顔にしたいという思いから、行政の補助事業を活用しプロジェクトに取り組んでいる。</p>

<p>単 P では、保護者、教職員の負担の軽減に向け時代にあった活動ができるように改革や見直しをしています。単 P の改革事例に関してのアンケートも必要な情報収集と思いますが、それを取りまとめる日 P、県 P、市 P の組織や活動も改革や見直しを図り、事例を公表してほしい。</p> <p>逆に、そちらの方では問題点はございませんか？</p> <p>県 P 市 P 役員の皆様には敬意を評します。ご多忙折とは存じますが何卒、ご自愛のほどお願い申し上げます。</p>
<p>学年委員は毎年変わるわけで、それが前年の引継ぎそのままになるかどうかは、本人らはもちろん、先生方の考え方で大いに違う部分があります。</p> <p>従って、私はなるべく各行事参加し良い点悪い点を書き出し次年に直接伝えるようにしています。そうしましたら、先生と学年委員さんがきちんと相談し創意工夫がみられるようになりました。</p>
<p>PTA 組織の抜本的改革（組織の廃止・縮小）</p>
<p>専門部会の活動量にバラつきがあったが、他の部会へ移行した。</p> <p>3 年間 PTA 役員にならない保護者が存在してたが、それらの保護者をサポーターと称して学校行事や学年行事に参加してもらう事にした</p>
<p>目的は何か、を明確して取り組んでいる。</p> <p>（例年通りでは、なんの為の活動かわからないこともある為）</p>
<p>子供には進んでお手伝いしなさい。困ってる人は助けなさいと言う保護者が PTA 組織で困ってる私たちを助けようとしなさい。進んで人助けをしようとしなさい。理不尽</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ PTA 講演会の参加者増やしたいが少ない。 ・ コロナ前は、三役が運動会で保護者の席取りに来た方を並ばせていた。（現在は人数制限、入れ替わり制のため行っていない。）
<p>役員の保護者の方々の負担が少なくなるように会合の回数、日時を調整しています</p>
<p>文書による連絡が不徹底で支障をきたすことがある → 教頭先生がメールシステムで送信するようになってから解消した。（アンケートや出欠も簡単にとれるため便利）</p>
<p>総務会、専門部会などで会議した時に、よくわからないまま終わった、意見が言えなかったけど意見は言いたいという方がたくさんいることを知りました。なので直接先程書いたように会長と各部長が連絡先を交換することで多々直接連絡できたことで、PTA 活動がスムーズに進んだり良い方向に進みました。</p> <p>保護者から PTA 活動や学校に対しての不満があると、会長に連絡が来て直接話を聞いてくれと学校からも言われ、意見を、聞く形になっています。大変ではありますが、役員以外の人の意見もしっかり聞いてあげて自分自身の信用にもなるし、積極的な保護者もたくさんいることがわかり、より良い関係づくりや、改革に繋がっていて良かったと思っています。このような PTA 三役であってほしいという願いからこうなりました。</p>
<p>夏季休業中のプール開放事業の継続について、会員からその意義や危険性に関する意見が出された。会員の意見集約を行った上で、今後の取組について結論を出す予定。</p>
<p>学校単位で取り組むしかない。</p>
<p>コロナ禍での集会や活動について、様々な活動方法を模索しています</p>

<p>コロナで活動出来ていないので、引き継ぎが難しい。自身も経験していないので。</p>
<p>行事の削減に取り組んでいるが、親だけのレクリエーションが残ってしまった。</p>
<p>全体の懇親会はありましたが、役員のみでの交流が無かったので2年前に提案し計画しましたが、感染症の為に中止になり、未だ行えていません。</p>
<p>くじ引きで役員部長に決まった人が、どうしてもできないと言い出して、他の楽な役員と変わった事がありました。</p>
<p>今の時代は日々変化のスピードが速く、すぐに決められすぐに実行できることが大切だと思います。果たしてこれから紙ベースは必要なのでしょうか。組織も変わっていかなくてはならないと思います。数十年前に決められた会則の変更手段などは時代に合っているのでしょうか。私たちはコロナの影響でリモートと SNS などの手段を駆使し速さと多くの情報発信の手段を得ました。このアンケートのような取組は今の時代に合っていると思います。そして SNS などの手段が加速したことで以前よりも早くより正確な情報発信の重要性を感じました。</p>
<p>委員会は今年度見直して一つ専門部を削減し、来年から見直す話になっている。例年減らす意見が届いていたため。</p>
<p>各学年の活動については学年委員に一任しているが、そのため不均等が生まれてしまっている。先生方への負担も差が出ているため、今後どうしていくか検討していきたい。</p>
<p>1.役員決めの時に役員の仕事を説明する。2.現在、理事会などは出来るだけ参加をお願いしているが、まずは仕事を優先して下さいと伝えてあります。三役については LINE で情報提供しています。役員になったら大変で…とならないようにしています。</p>
<p>保護者ボランティアが年々減っている。単に児童数の減少だけが問題ではなく、ボランティア募集をしても内容が解らず、参加を躊躇している人が多いのではないかと推測し、内容を詳しくお知らせして募集したところ、ボランティアの数が少しずつ増えた。児童数が多い頃よりも保護者間のコミュニケーションが難しくなっているのも問題かもしれないと思う。</p>
<p>PTA 活動に対する理解を深めることと、PTA 役員のハードルを低くすること</p>
<p>各種会合における、出来る範囲での縮小化を三役に提案し、少しずつそうした流れになってきている。</p>
<p>感染症拡大防止対策として、PTA 総会を書面審議で行ったが、特に問題はなかった。簡略できる会合は、書面で提出してもらい事務局でまとめた。今後、集まる必要のない会議は無くしていく方向になると思われる。</p>
<p>今時点では取り組めていないが、コロナで PTA 活動の縮小や削減を経験した上で、今後一つ一つの活動について精査する必要があるのではないかと感じている。上記にて記した通り増加していく家庭への負担を減らしていく為にも検討していかなくてはならないと感じている。</p>
<p>PTA 活動において各家庭の事情もあり子供の習い事を優先する風潮があり学校行事の日程決めが難しい</p>
<p>選出方法1つとっても規約の改正につながるので総会や役員総会にかけて、慎重に審議する必要がある、スピーディーに対応できない。専門部の活動を今後精選、見直していく場合の、全保護者を対象としたボランティアの活用を考える必要がある。</p>

<p>コロナ禍ではあるが、PTA 行事等に参加して下さる保護者がほばいない。 役員が率先しても全体の 1 割でしかなく、協力を得られるような解決策を模索しながら活動しているのが現状。 共働きで仕事の関係上、休みが取れない等の理由があるとは思いますが、出来るところをできる範囲で協力して頂けたら助かるのが本音です。 三役でも会長が全部負う必要はなく、私自身も仕事をしている為に無理なところは副会長に依頼して本部が成り立っている。専門部も含め、全体で協力し学校と連携を取りながら活動していくのは、少しずつであるが進歩している点でもある。</p>
<p>当校で特に問題点はないが、何かあれば学校と三役でまず協議する良い関係が作れていると思う。</p>
<p>問題点はやはり役員のなり手が少なくなっていることだと思います。子供の少子化に伴い、当然ですが保護者も減ってくる。役員選考にあたっての見える化を今後強化していかなくてはならないと感じています。</p>
<p>児童減少にともなう、親御さんの負担、またそれを取りまとめる学校側の負担は大きいと思います。活動のスリム化もはかっていければと思います。</p>
<p>保護者は自分の子供の教育にはとても興味があり、送迎等を含め支援を行っている。一方で、小学校のときよりも校区が広がっていることから、保護者同士のつながりも薄くなり、PTA 活動そのものに、煩わしさを感じる保護者も少なくないではと思います。そこで、昨年度は、教職員や保護者だけではなく、他校の保護者や地域住民などにも声をかけて教育についての講演会 & ワークショップを実施しました。参加は多いとは言えない状況ではありましたが、人とのつながりを作っていくためには非常に有意義なイベントになったと思います。また、子供の教育が親の協力、支援だのみになった場合、明らかに教育環境の差が大きくなります。短絡的に PTA の存在意義を問い、不要であると結論付けやすい風潮があるのではないかと危惧していますが、仕事柄、相談業務を行っている状況から見るに、ある一定水準の教育・育成環境を確保するためにも、何らかの組織体制の元で、保護者が教育に関わることが重要ではないかと考えます。ちなみに、私は「元々やる人がいないようなら、不要なのではないか」と考えていましたが、それは身勝手な考えだったと反省しています。ソーシャルインクルージョン、地域共生社会、SDGs が声高らかに叫ばれていますが、それを単にそれを流行りやファッションとして消費するのではなく、実現に向けてなんらかの連帯、協同の組織が必要にあるということ認識しないとかなと思っています。</p>
<p>今回、PTA 会則並びに役員選出規定の一部改定が行われましたので、来年度は少しでもスムーズな PTA 活動が行われることと思います。</p>
<p>問題だなどと思う部分は個人的にはあります。去年先生に話をしましたが、話をした先生が異動され、引き継がれなかったのか音沙汰ありませんでした。再度聞いてみようとは思っています。</p>
<p>各専門部の担当者が役を引き受けてくださった際に困らないように、副会長職（4 名）が各専門部に相談役として加わることを次年度より行う予定である。</p>
<p>PTA でなければできないこと、教職員の代わりではないこと、PTA が必要な理由を理解してもらえようようにしたい 誰でもできることなので誰もがやってもらいたい</p>

学年行事を廃止 土日の PTA 行事を廃止 プール開放廃止
役員でも役員でない人も保護者全員が自分の子供たちのために動くことができれば、PTA はうまくいくと思います。
活動のスリム化と効率化
まずは、三役を中心に疑問があれば話し合い、PTA 内規の改正を PTA 会員から承認してもらい、よりよい組織を目指している
通学路の維持管理について 通学路の歩道部の除雪を例年 PTA 役員が自主的に行っている
子ども連絡協議会（市子連）の取組みが不明。
PTA 活動全体を減らすことも必要だが、いくつかの活動を統合したりして、学校の教育活動を支える PTA としての役割を担っていることを多くの人に知らせることも必要だと思う
PTA と学校で問題を話し合い、誰でも役員ができるように協議している
P と T と A の連携と協力が素晴らしい！ それが伝統となりひきつがれている！ 助け合いの精神の活動！
不要な専門部の見直しを検討中
組織に関しての所感で触れた通りに感じていますが、それに対して特に取り組んでいません。そこまで大きく問題になっていないからです。ただ、生徒の減少に伴い組織の問題は遠からず顕在化してくるはず。それに備えて、PTA 活動の魅力向上、効率化に取り組んで行かなければならないと思っています。毎年の顔ぶれも変わり、すぐには変えられない組織ですが、年に一度の次年度の方針を決めるタイミングで、少しずつ他の役員や学校側に訴えていこうと思います。
PTA 活動の認知。理解が多く保護者に不足している。そのために役員のなり手がいなかったり、PTA 活動の協力が少ないなどの問題が出ている。PTA のプロモーションが必要。
この1、2年は学校に集まる機会がほとんどなく、コミュニケーションをとることもほとんどなくなることが危惧されたのでことあるごとに諸連絡を LINE で共有していました。今までであれば必要なかった連絡等もあえて行っていました。
コロナで活動できない委員会には別の活動を計画してもらうように学校側と協議し、実際会合を開き話しあっていただきました。
親同士の関係が良くないと子供達も学校生活を楽しめないと思うのは分かるが、親が楽しむ事に重点をおくのは違う。子供達が楽しめて他校も他校の親同士も一緒に交流できる企画を市 P ブロック毎にやってみるのはどうだろうか。

中学校
P T A 活動の内容や実施の有無については、P T A 会長始め三役、専門委員長の意志決定を促し、優先している。
学校規模に応じた負担
夜の集まりなど早めの時間にしたり、回数を減らしたりしている。
コロナ禍、働き方改革により学校側から活動自体に否定的。

<p>今年度、役員の負担を減らす為に大幅な役員数と活動の削減を行いました。しかし、子どもたちにとって楽しい活動も残したいという思いもあり、文化祭で行っていた食品販売を来年度からキッチンカーや売店等を業者に依頼できないか検討する予定です。子どもたちの楽しみを優先し、収益は諦めるといった取捨選択を行いました。実施は来年度からなので、どの程度できるのか未知数です。</p>
<p>PTA 事務局（教頭先生）がおおまかな事を決めて頂いてますので、会長が判断もしくは幹部役員で協議して決めるようにしている。やはり、活動を縮小していくほうが保護者の理解が得られやすいのが現状です。</p>
<p>コロナ感染症による活動中止があり、引継ぎ内容もない中での活動となる。各部の中には未経験なところもあり、工夫してできる事、何ができるかということを考え共有し活動している。</p>
<p>総会資料や会議資料の作成等、学校に頼ることが多く負担も大きいことから、保護者役員で出来る範囲を増やし、学校の負担を減らすことが働き方改革につながるのではないかと考える。スマホやタブレットを活用しペーパーレス化を図ればコストや負担軽減にもつながると思う。</p>
<p>来年度から専門委員会の数を減らしたため、今まで専門委員会で行っていた事業を、一部保護者ボランティアを募集し行う予定です。（運動会の手伝い、ベルマーク集計等） 人数が集まらなかった場合の対応、いつも参加して下さる保護者が決まってしまう、保護者がまとまって集まる機会がないため、情報共有ができない、等々、多々問題点が出てくると思われ、どのように対応して行くかが今後の課題となっていくと思っています。</p>
<p>今まで P と T が学校活動は地域との連携重視の流れで活動していましたが、異動される先生（校長含む）によって、その地域特有の学校と地域の繋がりを理解してもらえないことがあります。 学校行事=学校だけの催事、ではない地域もあります。子どもたちの成長を地域全体で見守る小さなコミュニティもあります。例えば運動会は小学校や中学校だけでなく地域全体が参加する一大イベントにもなり得ますし、我々の住む小学校は秋には収穫祭をしています。それも地域の方々あつての行事です。しかしその一方で地域との協同、となると学校で責任の監督をしきれない、や、時代の流れで必要なものは取り入れ、学校行事として不要なものは辞めるという名目の下、今までの地域独特の風習を排除する流れに非常に苦慮しています。地域特有の伝統も学校として加味してもらいたいことがあります。</p> <p>また、働き方改革の名の下で役員会議で十分な議論をしづらくなっていることも問題の一つです。先生方も日頃お忙しく、子どもたちのことを考えるにあたり定時には時間がない中、時間外で会議をすることは申し訳ないですが、民間で仕事を持つものはその時間しか学校職員と意見を交わし決定していく場がないので、もう少し気にしてほしいと思っています。</p>
<p>会長、副会長、役員の選出方法を新たに定める必要性を感じているが、コロナ禍の影響により困難を極めている。</p>

会長は、合う合わないがある。じゃんけんで負けて、「はい！お願いします」はおかしいと思う。やれるべき人(人前で話すのが得意な方や教育熱心な方、人をまとめるチカラがある方など…)が、必ずいると思います。

組織のトップになる人には適任なひとがやるべきだと思います。

私は、会長に決まり体調を崩しました。

人前や集まる事が苦手な私が、じゃんけんで負けただけで会長になってしまい苦痛でしかありませんでした。

しかし、今年度は副会長、専門委員長、学校の先生がたが、とても良い方々で色々と助けて頂き、もうすぐ会長業務を終えようとしています。私は周りの方々にホントに助けられました。

今後、私のような人を出さないようにして行って頂きたいと思っています。

過去には3役選挙の際に保護者間で大いに揉め、双方に大きなしこりを残した例もあります。実際はくじ引きで決められるのが現状で、つまり、役員は「誰でも選出される可能性がある」ということです。その中には様々な家庭環境課下・就業環境下にいる保護者、保護者自体の適性も様々ですので、たとえ誰が任命されても「これなら私でも出来そう」と感じられるのが理想です。そのため、今まで当たり前と思われていたタスクを見直し、やらないことは思い切ってやらない、あるいはハードルを下げるのも私が現役の会長として出来ることだと感じています。

例えば、コロナ禍が無いという前提における提案で実際に行ったこと、行う予定であったもの、あるいは今後起案したいのものに以下があります：

- ・体育祭のPTA競技廃止（親御参加可能な競技を組み込むこと自体には異論無し。もし希望者がいれば）

- ・卒業式、入学式等におけるPTA会長挨拶の廃止（連合会の意見交換でもこれらにネガティブな意見を持つ一定数いる。事実、子ども達も知らない親の話など聞いていない。）

- ・PTA会長が参加できない全てのイベントに対し、代理で他の役員に参加要請を出すことはしない

- ・単なる動員数ノルマ達成のためのイベント参加を強制しない（参加は完全任意とする）

- ・各イベントに参加できなかった役員に対する報復はおろか、ペナルティー等も一切禁止

選出される保護者は皆さん組織運営やマネジメントのプロではなく、素人であるという前提において、あくまでボランティアであるという本来の定義に沿った運用であるべきと考えています。

そのため、将来的な案として例えば保護者懇談会のようなイベントを1~2回/年、その中で保護者と学校側を繋ぐパイプとなることや有事の際にのみ召集する格好などで負担を減らし、現代における多様な家庭環境、多様な就業環境を考慮したPTA組織の運用に変えていくのが良いと思います。

CS活動として運営協議会で議論している。卒業生の外部講師を招聘するなど総合学習を通じて関わりを持てる。

三役の具体的な特権があったら知りたい。体育祭や合唱コンクールの時に役員席をもうけてもらいベストポジションで見ることが出来た(学校にお願いしてみた)など三役になって良かったと実感してほしい事例があったら教えてほしいです。

- ・現段階では取り組んでいることは無し。今後、組織の改編（役員数の削減）等に取り組む必要がある。

<p>加入制としたため、非加入者が出た。そのため、親子活動、卒業等の際の記念品、PTAからの贈呈品などを今後、どうしていくか整理していく必要がある。非加入者からは会費をもらっていないこと、学校の校時をつかってPTA活動を行ってよいかなどの意見をもとに、検討しているところである。</p>
<p>会議の簡素化</p>
<p>町内からの寄付金回収の必要性や、それにあたるPTA役員の負担が問題点としてありました。今年度より、町内寄付金回収を無くし、PTA会費のみでやっている最中です。</p>
<p>PTA役員をやらなくていいならやりたくないと思う人が多いという問題がある一方で、子ども一人につき一年は必ず役員をやらなければいけないというルールによって、子どもが低学年のうちにやりたいと積極的に立候補される方が多いのも事実。新入生の入学式での役員決めはじゃんけん大会になる。面倒なことは早く終わらせたいという動機としては不純なのかもしれないが、積極的にPTA活動に参加される方が多いのは悪いことではないと思う。</p>
<p>大きな問題点と解決事例はありません。 ただ、小さな問題で児童数の減少により、地域委員の人数を緩和したり、少ないところは多いところからヘルプに入れるよう学校規則なども柔軟に変更してきました。</p>
<p>役員の負担の大きかった事業をやめて、新たに負担の少ない物に内容を変更しました。 PTAの広報誌の発行回数を減らしました。</p>
<p>次の役員へのスムーズな引き継ぎができるように記録を細かく取っている。</p>
<p>例年、保護者や地域の方と情報交換し、学校の課題などを共有する場を設けていたが、今年度も新型コロナウイルス対策により様々な活動を自粛している。そのため、保護者や地域の方から意見や要望を聞く機会が限られている。今後、新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、可能な範囲で活動を実施したい。</p>
<p>私個人としては、講演会などの案内をいただいた時は、できるだけ参加して、知見を得ようとしていますが、組織としては特に取り組んでいることはありません。</p>
<p>感染症対応のため、実施できる活動とできない活動の判断に迷うことがあったが、専門部や学年委員の自発的な意見を大切にしながら、PTA活動が退行しないよう心掛けてきた。</p>
<p>PTA活動自体が減ってきていること コロナ禍になる少し前から、PTA活動は少しずつ減り、コロナ禍になったらほとんどと言って良いほどPTA活動はなくなってしまった。活動自体が減ってしまうと、保護者の負担が減るのでいいという思いもある中、PTAそのものが無くてもいいのでは？という考えを持つ人たちも出てきている。自分の子供が通う学校に対する関心が少しずつなくなっているのが怖い。コロナが終息し、以前のようなPTA活動を行うことが難しくなることが予想できるが、本当にそれでいいのか不安になる。</p>
<p>コロナ禍で小中で協力して行っていた食品バザーや合同ソフトバレー大会が実施できていない。今後の活動の在り方を含め、検討していく必要がある。</p>
<p>活動内容の見直し</p>

PTA と地域の結びつきについて、以前は集落区長との懇談会を開催していたが、うまく機能していなかった。そのため、地域コミュニティ協議会(当中学校区では2協議会)ごとに PTA と地域の方々と懇談会を実施した。PTA の参加が少ない地域もあり参加を促す工夫が必要であるが、次年度に向けて有意義な懇談会が開催できたと思う。

現在は、ウイルス禍のため、保護者が集まるのが難しい状況である。感染対策を十分に行い、学校行事(体育祭、合唱コンクール等)は実施してきた。解決的な事例と言えればそのことが思い当たる。

自由記述に関する考察

非常に多くの皆様から自由記述に多数の意見を頂戴しました。その中には、今まで各 PTA で取り組み、成功した事例も多々あり、それぞれの PTA 組織でも改善提案に使える取組が必ずあると思っております。また、問題点も多岐にわたり、PTA と一口に言っても各校ごとに特有の問題もあるということもわかりました。そういった中で、組織全体として今後の在り方を考察いたしました。

① 組織と事業の見直し

現状の PTA の組織について、本当に必要な委員会だったり役職だったりするのか、あるいは事業について本当に必要な事業なのかどうかという部分が欠落した状態で PTA が運営されているということが回答から見受けられる。そもそも PTA がなぜ存在するのか、どういう役割なのかということをしかりと認識し組織と事業の見直しを行うことが喫緊の課題であると考えます。

具体的には、専門委員会の見直しとそれに伴う役員の削減、事業に関して、生徒児童にとってこの事業が必要かどうかという判断基準を設定等、基本に立ち返り見直すことが必要だと思っております。

② 地域との連携強化

教職員、PTA 役員の負担が大きくなり、各コミュニティも希薄になりつつある今日、学校、保護者、地域が一体となって、コミュニティの核としての学校運営に関わっていく事が求められている。文科省でも『地域と共にある学校づくり』を目指し CS を推進している中、PTA も CS や地域学校協働本部と連携しながら、地域とも一体となった教育・育成、PTCA の在り方を考える必要がある。これは、地域の方々を巻き込んだ活動の充実だけでなく、PTA の意義を会員や地域住民に理解していただく事にも繋がる。

③ ICT の活用

GIGA スクール構想によって教育現場での ICT 導入が進む中、PTA 活動にもこれを活用して、活動の負担減を図る事が求められる。実際、県 P の当委員会も委員が集まるのが難しい状況の中、ML を通して活動した。各単 P においても、ラインや Zoom などを利用して意見の出しやすい環境を作れば、負担減だけでなく風通しの良い組織運営にも繋がるのではないかと考えています。データのやり取りをメールで行うことで、役員が集まる機会を減らすこともできる。

コロナ禍で以前のような活動が難しい中、これらに取り組む良い機会になればと願っています。

最後に

アンケートへのご協力まことにありがとうございました。非常に中身の濃い、今後に役立つデータを集めることができました。

よく PTA 活動に関して保護者から「負担が大きいの」というお話をいただきます。確かに、時間的な負担等発生してしまうことは事実ですが、では、我が子を育てるということを「負担」と感じる親はいるのでしょうか。家庭で我が子を育てていくことも PTA に携わって我が子を育てていくことも、目的は子どもの健やかな成長で一致しているにもかかわらず、PTA の活動になった瞬間に、「負担」となるのはなぜでしょうか？

今回のアンケートでは PTA の組織の在り方に関する様々な問題点を顕在化することができました。その問題点を解決していくためには、保護者の意識改革が最も必要ではないかと感じます。「PTA は嫌なもの、面倒くさいもの」という意識を根底から覆していかない限り、今後の PTA の組織としての未来はないと思います。

今後とも、全ての子どもたちのために PTA 活動へのご協力とご理解をお願い申し上げまして、私の御礼のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

組織検討委員長
大谷 和弘

【組織検討委員会】

副会長	百都 順也	(阿賀野)
委員長	大谷 和弘	(上越)
副委員長	野俣 満	(妙高)
	田中 良一	(長岡出雲崎)
	佐野 章弘	(佐渡)
	小畑 政憲	(長岡出雲崎)
	遠山 道昭	(村上)
	菅原 重	(聖籠)
	服部 諦円	(十日町)
	藤ノ木 雄一郎	(魚沼)